
とある魔法の介入物語

カイ・R・銃王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある魔法の介人物語

【Nコード】

N2004U

【作者名】

カイ・R・銃王

【あらすじ】

オリ主と選別役が双子の兄弟でリリカルなのはの世界に転生。原作キャラと仲良しになって迎えた小三でまさかの出来事に出会う・

・ 今の所参戦作品（あまり出番がない奴も）とある魔術の禁書目録 とある科学の超電磁砲 らき すた けいおん！ IS インフィニット・ストラトス バカとテストと召喚獣 リトルバスターズ！ AngelBeats！ fate/stay night ht スパイラル（推理の絆） 学園黙示録 ゼロの使い魔 ファイナルファンタジー ファンタシースターポータブル2 ポケット

モンスター 感想・批評・指摘・良い点悪い点・誤字脱字・新キ
ヤラクターその他諸々お願いします。ただし荒らしなどは削除させ
て貰います

開始直前

「一体何があつたのじゃ・・・」

転生者の殆どがお世話になる天界。

ここで様々な神が慌てに慌てていた。

「下位の神が故意に現世の人物を100名殺し、転生させたのです。」

「転生か・・・全く、何処の世界にじゃ？」

「『魔法少女リリカルなのは』の平行世界の一つにです。」

「何というベタな・・・」

「神々は偶然その時に死んでしまった少年を選定者として送るように言ってますが・・・」

「よし、その少年に会おうかの。」

「で、何で勝手にそんな所に行かされる事になってるんだ・・・」

「すまぬ、しかしフラグ乱立は夢ではないぞ？」

「そんなことより平和な日常が欲しい。」

神は101人目の転生者に当たる少年に説明したが・・・

原作知識も知らない＆そんな死亡フラグが立ちまくる所に行きたくないと言われた。

「ではどうしたらその世界に行ってくれるか？」

「どっちにしても戦いに巻き込まれるなら行きたくない。」

「それは困ったのお・・・」

つけ入ろう何て考えずに純粹に行きたくないと言っているからなお性質が悪い。

しかし、神は考えた。

「では、オリ主に当たる人の近くに転生させようかの？ それだったら大丈夫だろう？」

「それなら良いな。ただ、転生者との戦い以外は平和なんだろうな？」

「それは分からぬが善処しよう。」

「よし、それなら乗った。ただし暗い過去は無い様に。」

「OKじゃ。」

オリジナル主人公ポジションになるであろう人物の近くに転生させるということで話し合いが付いた。

「一応全ての能力で限界突破は付けておいたからな。」

「それ以外は？」

「不老不死、ただしばらくは成長するぞ。」

「分かった。」

そして・・・九年後。

オリ主の双子の弟として転生した彼は原作キャラと仲良くなり、兄や他の友人と共に同じクラスになる。

しかし、神も知らないイレギュラーが発生していることには全然気が付かなかった・・・

今作開始時点で・・・

処罰転生者 13名

処罰依頼 0名

許可転生者 2名

登場人物

読み方・・・

名前／ふりがな

『二つ名』 幼少期で高校三年までのキャラのみ

キャラクター説明 第一行に一人称、第四～五行に能力。約二名第七行もある。

・・・・・・・・・・・・・・・・

神山 玲人／かみやま れいと

『断罪せし雷鳴』

転生者No.1。零時の兄。霊宮空刀さんより投稿された。一人称は俺。

人とかかわりを極端に嫌い、他人との会話を嫌う。リア充は嫌いである。

今は最低限は他人と関わるようになったが、関わりたくないのは同じ。

転生時に貰った能力は『雷を操る程度の能力』。

美琴が電撃&磁力使いなら玲人は電撃、美樹は磁力使い、的な。

鏡音レンの髪に赤みをかけた金目。零時を殺そうと思っている。

篠嶺 宗戊郎/ささみね しゅうぼろう

転生者No.2。酒豪。妖気さんより投稿された。一人称は拙者。

源平合戦の時代に死亡、安徳天皇をあまりに不憫に感じ平成まで霊になっていた。その後転生する。

曲がった事が嫌いで自分の信念を貫き通す性格。というか頑固。

転生時に貰った能力は『SAMURAI』。

日本刀を持つと身体能力が上がる。守るべきものがあれば更にあがる。

由貴の保護者。現在消防士として頑張っている。

篠嶺 由貴 / ささみね ゆき

『神器を持ちし天皇』

転生者ナンバリング外。元安徳天皇。妖気さんより投稿された。一人称は僕。

明るく優しく、思いやりがある。当時の天皇には全く向いていない。歴史じゃ男だが実際は女だったという。今の暮らしを大切に思っている。

転生時に貰った能力は『森羅万象』。一言で言えば自然を操る事が出来る。

また、三種の神器を所持しており魔力ランクはEXすら通り越している。

宗戊郎の願いで転生したためナンバーが無い。争いは好まない性格。

麻館 一茶／あさだて いっさ

『全てを複写する目』

転生者No5。 お菓子好き。 月光閃火さんより投稿された。 一人称は俺。

何故かいつも湯呑みを持っておりいつもそれを飲んでいる。

ガッツでめんどくさがりやだが真剣な時はしっかりしている。

転生時に貰った能力は『複製眼』。
アルファ・ステイグマ

魔法だけが相手のを全てコピーし使用可能。

上とは逆に日本人なのに伝勇伝のライナ・リユートに似ていて金髪。

凍城 氷織／とうじょう ひおり

『天地全ての氷の女王』

転生者No7。 月村すずかにベタ惚れ。 DEADPOOL ZER
O AQUAさんより投稿された。 一人称は無い。

綺羅彩香の親友。 すずか、アリサ、彩香以外には懐かない。 無口で

単語で会話か筆談が基本。

感情表現はしっかりしており特に笑顔は誰であろうと撃沈する。文武両道にしてロリ巨乳。

転生時に貰った能力は『絶対零度・冷たき蒼炎を操る』。

氷属性に関する全ての減少を自由自在にデメリット無しで行使可能。触れると冷たさを感じながら燃えてしまう冥府の炎も使える。

服装は寒色系の胸元に大きなスリットの入った浴衣。胸、大丈夫なんだろうか……

キラ・フェアリー

『改造・開発・研究王』

転生者No.9。喋り方が男っぽい。ディケタスさんより投稿された。一人称は我。

喋り方は誰が相手でも変えない。研究者でありかなりの権限を持つ。アンチ管理局派。芯がシッカリしている奴が好き。

研究狂で自分の体すら研究材料だが、他人は許可を取らない限りやらない。たまにDM、寝る時何故か服を着ない。

転生時に貰った能力は『色んなものの開発、改造技術』。自身の体に強化細胞を埋め込んでいる。

特撮オタクで仮面ライダーのベルトも開発しているが芯がシッカリしているやつにしか渡さない。

見た目は16位だが、体を改造していつているため実際は150を超える。白い長髪をくぐっていてけっこうスタイルはいい。

宮薙 愛理 / みやなぎ あいり

『正義の看護婦』

転生者No10。煉華の姉。疾風の音さんより投稿された。一人称は私。

とにかく正義感が溢れている。現段階で喧嘩は一度もしたことがない。

煉華が好きでシスコンの毛有り。成績がとてもいい。

転生時に貰った能力は『ありとあらゆるものを回復する程度の能力』。

ケガから蘇生までできるという。ちなみに武器はチャクラム。

煉華に友達が出来ていなかったことを心配に思っていた。

黒坂 大樹／くろさか だいき

『半身が灰色狼である者』

父親が転生者No12。一度決めたことには突っ走る人。一人称は俺。

漫画が好き。成績は普通。ディエンドの海東大樹に似ている。

速人と和人とよく遊んでいる。近藤美樹と恋人。身体能力は転生者並。

能力は『555のウルフォルフェノクの体』。

オルフェノクの体自体は父親が貰っていた能力で何故か受け継いだ。半人半オルフェノクなため灰化せず変身が可能。

とある事件で孤児になる。高木家に引き取られる。

I/AI 細川 アイノほそかわ あい

『残酷なるセルビースト』

転生者N014。残虐。SAKIさんより投稿された。一人称は私。

原作には一切興味なし。後述の能力のため記憶が混濁している。

自分が何者であつたかを忘れてそれを知るために殺人を繰り返していた。

転生時に貰った能力は『怪盗サイ』の能力。

肉体を細胞レベルで変化させる事が出来る。本人の意思に関係なく細胞が増殖するため記憶が混濁。

とある事件が原因で殺人衝動は消えたが残虐な部分は変わらず。

秋山 裕也／あきやま ゆうや

『重力操作の超人』

転生者N017。男の娘w 俺がベジータだー！！さんより投稿された。一人称は僕。

口数が少なく、思考回路が若干幼い。よくボーっとしている。

転生させた神が死んだ時に幼かったのを本気で気にしていたため能力が多い。

転生時に貰った能力は『重力操作』。

その名の通り重力を無くしたり強くしたり出来る。

尻尾無しのサイヤ人でもある。しかしあまり使わない。

エルナ・エニツシュ

『フラワーマスター』

転生者N018。甘い物好き。疾風の音さんより投稿された。一人称は私。

能力狙いで管理局に襲われた所をスカさんに助けてもらい親友関係に。クールビューティー。

甘いものが好き、また作る事も好きでナンバーズに作ってあげる事が多い。だから信頼度が高い。

転生時に貰った能力は『フラワーマスター』。

花・・・というか植物を操る事が出来る。また遠近どっちの武器も使える。

実はナカジマ家とも知り合い。スバルとは何故か意気投合するらしい。

黒崎 翔太郎／くろさき しょうたろう

『暴走せしハーフボイルド』

転生者No19。ハーフボイルド。ボッスンさんより投稿された。
一人称は俺。

左翔太郎の大ファンでハードボイルドを心にかけているが、当人と同じくなりきれず良くも悪くもお人よしの三枚目である。

このため些細な事で冷静さを失ってしまう。ライトとは前世から相棒の関係。

転生時に貰った能力は『SEED』。

これに覚醒すると戦闘能力が上がる代わりに俗に言う『キレた状態』になる。

良樹とは友人の関係。クロノに似ておりたまに他の転生者から襲われる。

風野 ライト／かざの らいと

『世界の記憶の管理者』

転生者No20。マイペースでクール。ボッスンさんより投稿された。一人称は僕。

転生前から自分が興味を持ったものは即調べる性格で、調べている最中は何があっても気付かない。

しかも無理矢理邪魔されるとぶっ飛ばされる。翔太郎は前世から相棒の関係。

転生時に貰った能力は『地球の本棚』。

世界が持つ全ての記憶を検索、閲覧する事が出来る。

ヴィヴィオに似ている。良樹とは友人の関係。フィリップ似なのに女です。

篠原 雪那／しのはら せつな

『目に宿る十の力』

転生者N023。成績優秀者。別作品でサフィーさんより投稿された。一人称は私。

明るく心優しい少女。まあ年齢はなのは達からみたらかなり上だが・

左目に眼帯をしており能力開放時だけ眼帯を外す。誕生日が一月一日って俺のじいちゃんかよ！？

転生時に貰った能力は左目に宿った計10の力。心、炎、氷、水、雷、風、壁、時、光、幻と使う事ができる。

「開眼 第の目」で眼帯を外して能力を使う。一度に使用できるのは一つだがそれでも強すぎだろう・・・

銀白色のロングヘヤー。右目は黒だが左目は能力で変わる。

栗原 彼方／くりはら かなた

『時を止める少女』

転生者N028。ナイフが武器。疾風の音さんより投稿された。一人称は私。

ミッドで暮らしていたが何でか戦いに巻き込まれなし崩しに管理局

入りする事に。

いつもはおっとりしているがやると思ったときは必ずやる。

能力は「時を操る程度の能力」。

東方の十六夜咲夜やオラ無駄の人と同じ能力。「そして・・・時は動き始めます!!」

話し方がTOSのコレットと殆ど同じらしい。

黒羽 光華／くれは みつか

『全劣化能力を持つもの』

転生者No30。記憶喪失。小説家さんより投稿された。一人称は私。

礼儀知らずで上から目線な口調。しかし困っている人が居たら助けに走る。

前世の記憶も無くもある転生者が海鳴市に行けば何か分かるかもというのを聞いてなのは達と出会った。

転生時に貰った能力として各キャラの技能を兼ね備えている。

しかし元からリリカル勢は無し＆かなり劣化という状態となっている。

どんな服でも着こなす事が出来る。お前は女性版門矢士か。

カイラ・神山ノかいら・しんざん

『最強のプログラム作成者』

転生者No35。敬語をよく使うが何か変。一人称は私。

なのは達より二年下に生まれ、なんやかんやでゆたか達と仲が良い。

前世も今世も世界の秘密を解き明かす事に熱中している。

転生時に貰った能力は『篠ノ之束と高木藤丸の天才的能力』。

簡単に言えば機械製作とハッキングが天才と言えるぐらいに得意である。

実は日本人じゃ無い。なのに黒目黒髪という日本人の色をしている。

香谷 走輝／こうたに そつき

『スピードアタッカー』

転生者N038。走るのが好きである。一人称は僕。

色々とグリードのカザリに似ている。ツカサを少し敵視。

上に三人、下に一人同じ転生者の兄弟がいる。やはりグリードに似ている。

転生時に貰った能力は『瞬足』。

発動させるとクロックアップ並のスピードを出せる。

嫌いな人はぶっ飛ばす主義。ブラコン・シスコン。

神山 零時／かみやま れいじ

『能力を捕食する者』

転生者N039。みんなと気が合う。霊宮空刀さんより投稿された。一人称は俺。

戦闘を「ゲーム」と言ったりするほど楽しんでいる感覚しかない。

勝負以外では人助けをするなど全般的に優しい。裏表が激しい。

転生時に貰った能力は『ネブレイド』。

対象を取り込んで技能や記憶を入手することが出来る。ただエグイらしい・・・

容姿は白目白髪 of 鏡音レン。アスペルにかかっている訳でもないのに。

八神 さくら / やがみ さくら

『コピーの加速者』

転生者 No 45。はやての姉。ボッスンさんより投稿された。一人称は僕。

明るく素直で非常に友達思い。しかし天然でハプニングが起ると文字通り混乱する。

Hな事がかなり苦手である。家族がめっちゃ好きで大切である。

転生時に貰った能力は『キャプター』だが何でか仮面ライダーアクセル系統のアイテムを拾った。

キャプターとはデバイス『スタースティック』で相手の能力をコピーする事が出来るもの。

・ 容姿がなぜか木之本桜似。性格も若干それにつられていらいい・

八神 なるかみ／八神 なるかみ

『伝染する色の性格』

転生者N048。はやての妹。妖気さんより投稿された。一人称は私。

シスコン・ブラコンで能力のせいで軽く人間不信。内気。

能力が暴走する事があるため普段から気を使っている。

能力は『虹の屍』。

相手の感情を色で見る事ができ、自分又は他人の感情を他の人に感染させる事が出来る。

豆腐が好きで、こんにゃくが苦手。

香谷 渚／こうたに なぎさ

『ウォータープレイヤー』

転生者N051。香谷家長女。一人称は私。

五兄弟のまとめ役というかりーダー。グリードのメズールになんか似ている。

静かに本などを読む事が好きだが、何故か歌を歌う時と応援などの時は豹変する。

転生時に貰った能力は『水を操る程度の能力』。

水というか水の分子を操れる。熱湯にしたり氷にしたりなど・・・

やっぱりというかなのはのクラスに入った走輝を心配している。

神宮 セン／じんぐう せん

『八つの頭を持つ魔人』

転生者N052。大の特撮オタク。ディケタスさんより投稿された。一人称は俺。

ちよっとふざけている感があるが本当はしっかりした人。ボーイツ

シュなキャラが好き。

管理局が嫌いで壊滅させる気である。たまにDSと化する。

転生時に貰った能力は『魔人探偵脳噛ネウロの上级魔人としての力と肉体』。

食料は闘士で魔人としての姿はヤマタノオロチ。外見年齢は15だが実際は途轍もなく生きている。

外見はTOAのアッシュの銀髪Ver。

近藤 美樹 / こんどう みき

『電撃娘の同一体』

転生者No54。性格が美琴に似ている。一人称は私。

成績はアリサに続いて学年二位。高町なのは達とはイレギュラーの中で一番親友である。

根っからの活字中毒者でよく本を読んでいる。黒坂大樹と恋人。反神経がやけに高い。

転生時に貰った能力は『超電磁砲 御坂美琴の能力』。

オリジナルより劣化（Lv3・5位）。磁力を扱う方に特化している。

生まれた時から孤児である。黒坂家から高木家に引き取られる。

高木 和人 / たかぎ かずと

『古代の星の命』

転生者No58。ボケをかます事が多い。一人称は俺。

前世は隠れオタク。勉強は英語以外であればほぼ完璧。

盛り上げ役。しかしブラコン。御神流を習っている。

転生時に貰った能力は『FF7のマテリア使用許可』。

マテリアを全て使用できる能力だが召喚系はイレギュラーが発生している・・・

速人の双子の兄になる。高木家長男。

パーソナル・インフメーション

転生者N o 6 0。情報屋。妖気さんより投稿された。一人称は俺。

裏社会にも行っているが表では優しく裏でも黒いが優しい。

中立を保とうとするため善人にも悪人にも情報を売る。

転生時に貰った能力は『収束する歴史』。

過去現在の歴史を見る事ができ、またその中の災害や災厄を再現する事が出来る。

どういう訳か原作開始まで他の転生者に全く会っていない。

香谷 良樹 / こうたに よしき

『最強防御術習得者』

転生者N o 6 2。香谷家の長男。一人称は俺。

チンピラのような優男のような・・・グリードのウヴァに似ている。

なのはのクラスに入った走輝を心配している。ゲーム好き。

転生時に貰った能力はただの防御力、されど防御力。

まさかの仮面ライダーの攻撃に耐えられる位に謎のシールドが常時張っている。

こんな感じだが兄弟の中では常識人の範囲に入っている。

草薙 護朗 / くさなぎ ごろう

『東方の神の軍陣』

転生者 No.68。オタクでクロスオーバーが好き。ジントさんより投稿された。一人称は俺。

今を楽しむ事に全力を尽くすぶっ飛んだ性格。性格が災いして戦闘狂と化することも。

恭介とかハルヒとかとめっちゃ気が合う。

能力は『東方の軍人』。

特定の条件を満たすと途轍もない威力を誇る能力を使用可能。

カンピオーネ！ の草薙護堂に似ている。

切裂 凶夜／きりさき きょうや

『悪を極めた者』

転生者N071。とにかく悪。パワード・マウンテンさんより投稿された。一人称はオレさま。

殲滅をこよなく愛し、全ての思いつく悪をやつてのける。死んだふりとかトラップとか・・・

登場時に「ヒッシャー！！」とか言っちゃったりする。何やってんだが・・・

転生時に貰った能力は装備しているスコープアイからのレーザー『イレイザー』と、空間の歪みを利用する『デイズプレイ』。

後者は腕からラージジールド状にしたり、ブレード状にしたり。『ゼノサーガのコスモス』もあるが長時間使用不可。

容姿は黒髪スコープアイのアクセラレータ。何かえらそうである。

七瀬 クレス／ななせ くれす

『距離を縮める者』

転生者N074。剣道をしている。黒一文字さんより投稿された。
一人称は俺。

冷静でよくツツコミを入れる。撫子とシイと転生前から友人である。
転生したはいいが離れた場所で生まれたため介入が遅れた。

転生時に貰った能力はが『ネギ魔の炎と雷の魔法と縮地』と若干多い。

剣技は何でも使える。前世の職業が数学担当教師なため数学・算数がとても得意。

青髪でちょっと長い。というか目や肩にかかる位で稀に女子に間違われる。

結衣咲 シイ/ゆいざき しい

『不老不死の融合魔術』

転生者N075。撫子の友人。黒一文字さんより投稿された。一人称は私。

撫子と共にフェイト陣に一緒にいたのだが何故か和人達と遭遇していない。

優しいのだがツッコミ8に対してボケが2。たまにみんなが突っ込む。

転生時に貰った能力が『ある程度のネギ魔とリリなの魔法』とやけに多い。

ついでに不老不死という・・・しかし物語の性質上20代で止まる。デバイス『キリエ』を所持。

髪の色は青の肩まであるロング。ただしデバイスを起動させると赤紫になる。

赤司 奈々ノあかし ななとは結衣咲シイの偽名である。

夜神 撫子ノやがみ なでこ

『闇を操る者』

転生者No76。敬語で話す。黒一文字さんより投稿された。一人称は私。

眠たがりで真剣な時以外寝てることの方が多い。成績は天才レベル。過去にプレシラに命を助けられている。

転生時に貰った能力は『操影術』。

影を操って槍にしたり拘束したりなんでも出来る。

茶髪でよく見ると右青左緑のオッドアイ。

千石 照／せんごく てるとは夜神撫子の偽名である。

神山 楓夏／かみやま ふうか

『風の声を聞きし竜の狩り手』

転生者N077。神山零時の妹。 霊宮空刀さんより投稿された。 一人称は私。

基本は優しいのだがスイッチが入ると残忍な性格になる。 周りとは仲がいいが心の底では信用していない。

転生者の会に所属しているが中から潰すつもりである。 零時をとことん嫌いということん嫌われているが玲人には懐いている。

転生時に貰った能力は『風の滅竜魔法』。

FAIRY TAILのドラゴンスレイヤーの風バージョン。 戦闘技などはナツと同じである。

ISのヴォータン・オージェ移植前のラウラ似。眼帯はしていない。

後藤 圭一／ごとう けいいち

『誕生の名を持つ者』

転生者N078。八神家の居候の一人。ボッスンさんより投稿された。一人称は俺。

直線的で典型的な熱血漢、好奇心旺盛で行動派、そしてお調子者。オーズの後藤慎太郎にかなり似ている。

しかし無神経でデリカシーが無く鈍感。常に他人に対する優しさを持つが短気で血の氣が多い所も。

転生時に貰った能力は『魔力探知』で魔力持ちの相手の場所や魔力を測定可能。

また、バースドライバーやバースバスター×2、全てのカンドロイドなどを持つ。

前原圭一に似ている。やっぱりというか「俺がバースだ!!」が口癖。

香谷 翔太／こうたに しょうた

『炎翼の天邪鬼』

転生者N079。香谷家次男。一人称は俺。

一応自分の欲望に忠実。グリードのアंकに似ている。

自分の事しか考えていないように見えながらちゃっかり他人のことも考えていたりする。

転生時に貰った能力は『炎を操る程度の能力』。

炎を操り、敵をなぎ倒すことができる。しかしあんまり使わない。

走輝のことを心配しているが渚と岩太の事も心配している。．．．
え、良樹は？

桂木 真司／かつらぎ しんじ

『鏡の龍との契約者』

転生者N080。八神家の居候の一人。一人称は俺。

単細胞で早とちりしやすいが、正義感が強い。龍騎の城戸真司になり似ている。

情報通で何事にも首をつっこまないと気がすまないが、その結果はめちゃくちゃになるw

唯一転生時に能力を希望していないのがいけなかったのか、名前つながりでカードデッキを所持。

ミラーワールド無いのにドラグレッターがいて擬人化したりと家族全員で昔焦っていた。

桂木桂馬に似ているがメガネではない。

ドラグレッター／竜輝／たつき

真司の契約龍。八神家の居候の一人。一人称は私。

真司の暴走の歯止め役。本当は龍なのだが何でか擬人化も可能。

八神家全員に人じゃないのはばれている。行動派で八神家の母親ボジション。

能力はドラグレッターとしての能力以外は特に無い。

しかし、ミラーワールドは無いため現実で普通に龍形態も取れる。

茶色のロングだが二筋赤い髪が混じっている。この人も料理をさせると危険である。

香谷 岩太／こうたに がんた

『怪力を持つ重力操者』

転生者N o 8 6。香谷家四男。一人称は俺。

言葉が途中途中で止まる。グリードのガメルに似ている。

渚がめっちゃ好きで、よくくっついていてる。ヒビキと友人。

転生時に貰った能力は怪力と重力操作。そのまんまである。

Gを軽くしたら怪力要らないんじゃないかというツツコミは兄弟からもう受けている。

戦いよりのんびりするほうが好き。走輝をやっぱり心配している。

ユナ・スカリエッティ

『N13の六爪流継承者』

転生者N089。戦闘機人。黒一文字さんより投稿された。一人称は私。

ナンバーズの一番下で生まれる。戦闘機人として生まれた事に少し後悔している。

ボケとツツコミが半々。たまに英語も使う。かなり遅れた転生者。

転生時ではないが能力は雷を操るIS。武器は右三左三の刀。

戦国BASARAの伊達政宗の六爪流を前世で模擬刀で練習していたためそれも使用可能。

黒髪黒目で右目が髪で隠れている。後ろは肩にかかるくらいである。

光谷 香苗 / こうたに かなえ

『欲望の竜を扱う者』

転生者N090。行方不明な本当の光谷家長女。一人称は私。

光谷夫妻が存在を隠している少女で転生者の会所属。他の五人とは年齢が離れすぎている。

15歳の時に親を殺しかけ、それ以来行方不明に。転生者の会には6歳の時に入っていたらしい。

転生時に貰った能力は『竜化能力』。

そのまんま紫色の竜に変身する能力。あまりに能力が強いのだが暴走する事はないらしい。

黒髪でいつもはほんわか系なのだが・・・親を殺しかけた時から何があったのか残忍な性格になっている。

虚霊 落神／こだま らくしん

『下剋上の何でも屋』

転生者No91。最強の何でも屋。爽蒼さんより投稿された。一人称は俺。

飄々とした性格で日常の中に少しの非日常を求めて何でも屋を営む。この時は大人バージョンに魔法で変身する。

転生者だが他とは違い魔力や身体能力が一般より少し高い程度である。

転生時に貰った能力は『斬魄刀 墜天』で解号は『優なるを下せ』、

この能力は『下剋上』。

とにかく自分より優れた何かを持っている相手に対して最強となる。刀の形は十文字槍。卅解で更にチートに。

容姿は戦国無双の真田幸村の少年Ver.。大人はTOVのレイブン。

ゼロ・ストリーム

『記憶に残らない者』

転生者No92。記憶を残して能力消去された人。一人称は私。

どう見ても容姿がFF7のセフィロス。能力もそれにちなんだものを貰ったが暴走し速人に消された。

しかし元々原作介入するつもりは無かったなのでのんびりしている。意外と他人に優しい。

現在の能力は『妖刀正宗の所持』。

相手を倒すごとに切れ味があがっていく。一部の人間以外が触ると刀に操られる。

銀髪蒼目。親はとある事件で亡くなった。

サヤカ・ナカジマ

『ブレイドアンデット』

転生者No93。スバル・ギンガの妹。ボッスンさんより投稿された。一人称はあたし。

活発で正義感が強く、物事を自分で能動的に解決していく行動力の持ち主。たまに胸揉みに走る。

ナカジマ家三女。つまりは戦闘機人でもある。胸揉みは親しい同性間でしかやらない。

転生時に貰った能力は『治癒能力』。殆どの傷を一瞬で回復することができる。

また、研究所突破時にブレイバツクルを入手しており仮面ライダーブレイドになることも。

どう見ても容姿がまどマギの美樹さやか。転生者の大半に間違われる。多分体はアンデット。

宮籬 煉華 / みやなぎ れんか

『光と闇の調和者』

転生者 No 94。二重人格。疾風の音さんより投稿された。一人称はボク。

いじめられていた過去があり体に自殺をしようとしていた後がある。

ムードメーカーだが友達を傷付けようとする奴がいたら容赦しない。

転生時に貰った能力は『パラディン & ナイトメア』。

光と闇を操るが闇の威力は撫子より弱い。

転生者であることを隠しているが速人とかには無論ばれている。

シンイチ・ル・ルシエ

『炎を操る鏡龍騎』

転生者 No 95。キャラの兄。ボッスンさんより投稿された。一人称は僕。

気は強いながらも物静かさ、礼儀正しさ、そして何処かに消えてしまいそうな儚さがある。

年相応の柔らかい一面や自分は弱く、悲しいのも相手が悲しむのも嫌いな心の弱い面、理屈をこねて本心を素直に見せない面や緊急時の気の強さなども持つ。

転生時に貰った能力は炎を操る程度の能力。またリュウガのカードデッキも持っている。

戦う時は基本仮面ライダーリュウガに変身する。その時「っしゃあ！」と気合を入れる癖がある。

容姿は黒髪ユーノ。性格がかなり不安定なようだ。

アルティ・ファイアード

『同時全方位攻撃者』

転生者N098。愛称はアルル。疾風の音さんより投稿された。一人称は私。

仲間思いで何かがあったら真っ先に仲間の事を心配するタイプ。ティアナの友人。

管理局に属していて将来はティアナとおなじ部に入るつもりである。

転生時に貰った能力は無いがデバイス『ファンライズ』を貰う。

ガンダムのファンネルと同じ能力を持つ。通常は剣で待機状態はイヤリングである。

ティアナと同じ年。決めゼリフは「狙った敵は、逃さない!!」。

空刀 創人/そらかたな そうと

『アンリミテッドクリエイター』

転生者N099。半神半霊。霊宮空刀さんより投稿された。一人称は俺。

他のやつを転生させた神の知り合いが投げ込んだ。霊宮さんの作品の空刀 聖夜/そらかたな せいやの息子である。

観察眼とか身体能力とか全く子供らしくない。ただし面倒くさがりやである。

能力は『固有結界 アンリミテッドクリエイター』。

思ったものを無から作り出す事が可能でオリジナルも可。

黒髪蒼目の佐藤啓作。原作介入は無理ゲーと考えている。

高木 速人／たかぎ はやと

『転生者の選定者』

転生者N0101。ナレーターかつコミにまわることが多い。
— 人称は俺。

ライトノベルス愛読者。成績は普通。面倒くさがりや。

目立つのを嫌う。しかしブラコン。暗器の扱いに長けている。

前に送られた転生者100人＋ の選定者。転生者判別能力所持。

転生者に対してのみ能力封印&記憶消去をすることが可能。

和人の双子の弟になる。高木家次男。

高木 直弥／たかぎ なおや

高木家の父。大樹の父が転生者で人間じゃないのを知っている。
— 人称は僕。

大樹と美樹を含めて6人の父。エリート会社に勤める。

通称『高木さん』。近所の子にも好かれている。

能力は特に無いが転生者判別能力を持つ。

また、何をしていたのか武器に関して若干詳しくあったりする。

和人、速人、美樹の三人が転生者なのを知っているが知らないふりをしている。

高木 優香 / たかぎ ゆうか

高木家の母。直弥同様転生者のことを知っている。一人称は私。

直弥と同じエリート会社に勤める。おっとりしており優しそうな人。

料理の腕は抜群で、産休中は翠屋の手伝いをしていた。

こちらも能力は特に無いが、転生者判別能力を持っている。

また、誰がどんな能力を持っているのかも大体は分かっていたりする。

直弥同様三人が転生者なのを知っているが知らないふりをしている。

高木 愛香／たかぎ あいか

『Wトップの小睡眠者』

高木家長女。転生者の事は知らない。一人称は私。

成績は学年トップを走り続けている。元氣溢れる和人達の姉。

母と違い料理をすると謎の物体が出来上がることが・・・

能力は特に無いが何故か一日1、5時間の睡眠で足りてしまう。

そのため朝3：30辺りから5：00まで町をジョギングしている事がある。

学校のスポーツは監督役。当人もかなり運動は出来る。

高木 木葉／たかぎ このは

『????』

高木家次女。直感で転生者のことは理解している。一人称は私。

まだ幼稚園生。美樹にもなっている。転生者関連以外は正直にも

のを言う。

転生者ではないのだがたまに転生者でないとわからないような事を知っていたりする。

能力は特に無いが夢遊病を患っている。しかも家のドアや窓の鍵を開けずに外に出る事も。

また、この状態の後に上記の転生者でないとわからない事をいう事が多い。

幼稚園でも家でもあまり喋らずぼけーとしている。

桐月 龍臣ノきりつき たつおみ

『アイテムマスター』

転生者ではない。翠屋の常連。月光閃火さんより投稿された。一人称は俺。

ぶっきらぼうだが少し不器用でシャイな性格。

アニメとかが好きで美由希に惚れている。家が高町家や高木家に近い。

能力は『アイテムマスター』。

武器以外の私物を武器のように使うことができる。

黒髪で黒目のツンツン短髪。お前は日本人版クラウド・ストライフか。

鹿目 ツカサ/かなめ つかさ

『欲望を扱う王』

転生者ではない。が、やけに転生者にかられる。ボッスンさんより投稿された。一人称は僕。

いつもはクールだが友達の前ではクールにならない。

どこの転生者が落としたのかオーズドライバーを所持。生まれた時からとあるデバイスを持っている。

能力は『空間移動』の一つで私物などを一瞬で手に呼び寄せることができる。

オーズのメダルは全種類＋オリジナルメダルを所持。デバイス名は「ソウルジェム」。

まどマギの鹿目まどかに似ている。美樹から若干敵視されている。

青井 元重／あおい もとしげ

『全てを崩壊させる者』

転生者ではない。が、転生者殺し。妖気さんより投稿された。一人称は俺。

悪人の転生者を沢山殺してきた殺人のプロフェッショナル。実はなのは達より二歳上。

常に落ち着いており冷静、冷酷。人間不信。

能力は『意味性の崩壊』。

触れたものを崩壊させることが出来る。

別名『葬儀屋』。美樹から若干敵視されている。

漸・ランスター／ぜん・らんすたー

『性格の変わる破壊者』

転生者ではない。恭也の友人。月光閃火さんより投稿された。一人称は俺。

父親が執務官という意味で、母親が小説家という意味でチートである。

従兄妹に当たるティアナとはよく電話で連絡を取っている。明るく活発でやんちゃ、困っている人はほっとけない人。

とある人からディケイドドライバーを譲り受け、『ディケイドMk-II』としてたまに戦う。

なお、ディケイド以外になると元の変身者（クウガなら雄介ORユウスケ）の性格になる。

ミッドチルダ生まれだが魔力は0。一方通行に似ている。

ソフィア・ランスター

『無言のハーファンマルチア』

転生者ではない。漸の妹。黒一文字さんより投稿された。一人称は私。

無言どころか全く喋らない。アイコンタクトか通訳が必要になる。

兄が魔力0に対して魔力ランクはA A A。母親がアンマルチアという種族でありその血も多く受け継いだ。

自身を中心とする『陣術』と呼ばれる三つの攻撃術と三つの補助術が使える。

自由気ままで明るく人なつこく、才能をひけらかさないというデバイス『パスカル』を所持。

腰まで届く白く赤のグラデーションの髪をしている。目が赤い。

フォルト・ランスター

転生者ではない。漸とソフィアの母親。一人称は私。

仲の良い人なら相手が無言でも何を言いたいのか分かるという位読心術に長けている。

管理局の公式チート。現在は小説家としてもその腕を見せている。アンマルチア族。

ソフィアと同じ『陣術』と呼ばれる三つの攻撃術と三つの補助術が使える。

さらに漸のドライバーの姉妹機である『ディエンドドライバー』をいつの間にか持っていた。

髪と目の色が真っ赤で、何故かあだ名が『シャナ』だとか『炎髪灼眼の』だとか。

八神 聖矢ノやがみ せいや

転生者ではない。八神家父。一人称は俺。

家族と友人と自分を第一に考え、全員が楽しめる事を考える事が多い。

喋る時は普通に喋るが、静かな時は全くといっていいほど喋らない。

弓道の腕が強い。ゲーム好きでもある。気付いていないが転生者判別能力を持つ。

六兄弟が全員何かしらの力を持っていることを真っ先に気付いた。

昔とある事故の時に謎の転生者（実は圭一と真司）に助けられている。

八神 ヒビキノやがみ ひびき

『記憶の無い大災害の生き残り』

転生者ではない。八神家で唯一特殊能力持ちではない。一人称は俺。特訓に精を出すことが多く、当人の口癖がまさかの「鍛えてますから。」

昔海鳴市で起こったとある大災害時に記憶を失った状態で八神家に引き取られた。

仮面ライダーになるわけではないが小学生にあるはずの無い身体能力を持つ。

更に水の中に長く潜っていられる、火事の中大人二人抱えて脱出するなど兄弟五人がツツコミを入れまくった。

岩太とは友人の関係。家族の中であるかみの次に適応能力が高い。

綺羅 彩香 / きら さいか

『光を操る者』

転生者ではない。ナチュナルハイ。DEADPOOL ZEROさんより投稿された。一人称は彩香。

とにかく目立ちたがり屋。笑顔を絶やした事がなく誰とでも仲良くなれる。

重度の百合で語尾に『くか』が付く。ロリ巨乳で体重が軽いらしい・・・

能力は『操光術』。色々な輝きを放つ光を操る。

小さい花火から大きな爆発まで・・・撫子の光バージョンである。

髪は虹色ロングで目は水色。髪と服は虹色に彩りが変わる。

倉河 涼／くらが りょう

『MP1192』

転生者ではない。エミルとおなじスカさん側。妖気さんより投稿された。一人称は俺。

優しく面倒見がいい。思慮深く、勘がよい。メタフィジック1192（MP1192）である。

表向きには管理局側だがナンバーズの味方にもなる。語尾に『くす』を付ける。

能力は飛び道具や投擲系の武器が99、9%当たらない『Dare

devil」と、精神を貫き縛る銃剣の一つである恋人の亡霊と入れ替わる『入れ替わる心』。

後者のほうの恋人の名前はフリーミア。冷酷なふりをしているが本当は大人しく引つ込み思案な性格。

実年齢が100近い奴である。恋人の方は敵には容赦しない。

伊坂 真紅郎／いさか しんくろう

転生者ではない。どう見てもWのあの人。一人称は俺。

転生者専用医者でスカさんと同じMAD系。見た目とかは怖いが根は優しい。

よく人体実験やらしていそうな不気味な感じや話し方をするが、ただ転生者について沢山調べていただけである。

転生者判別能力所持。また医療技術は表裏どっちでも有名であるくらいすごい。

科学者としても有名だが論文のみで性格から学会とかにはほぼ出席しない。

近頃転生者に襲われるのが悩み。格闘技もやっているため大丈夫らしいが・・・

薬薬／やくやく

転生者ではない。通称薬／くすりさん。妖気さんより投稿された。
一人称は私。

常に薬草やら化学薬品やら医療道具やらを持ち歩いている。この世
全てを実験材料と思っており大切に思っている。

普段は生物や植物、人間の観察をしている。語尾に「〜というの」
を付ける。性格は一言で言えば狂っているが悪気は無い。

能力は『Suture』。縫合と言う意味でケガだけではなく絆な
ども繋ぎ合わせる事が出来る。

また、長年の頑張りで薬なら何でも作れる。21歳で不老の薬を飲
んだため年を取らない。

女だがバッカーノのヒューイに似ているらしく男に間違われる事が・
・

レノン

月村家の猫。喋り方がゼ口魔のイルククウ似。一人称は私。

何故か猫巨大化事件の時に巨大化じゃなくて人と化してしまった元気なお調子者。

棗鈴が一番かわいがっていた猫でもある。猫耳と尻尾があるためあまり人前には出ないが将来歌手になるつもりらしい。

能力は無いが手の甲にクローを装備しておりそれを使って攻撃する。

また、猫ならではの俊敏さや身の軽さもある。走ったら追いつけない。

どう見てもともの。2のアイドル科のフェルパー女です。本当にありがとうございました。

涼香ノリようか

ちびっ子バハムーン。人の頭が好き。一人称は私。

スカさんがホムンクルスの研究中に龍の因子を混ぜてできたちびっ子。

見るものの全てが新しいため結構興奮している。大声が苦手。氷属性。

能力は無いが体が小さいため飛ぶ事が可能。装備している槍でとにかく攻撃する。

ととももの。のバハムーンの持つプレスも無論使えるが冷氣である。

水色髪水色目な所からこの名前になった。何故か和人に懐く。泉こなたの守護霊&ユニゾンデバイス化。

ガー・ヴィー・ファイ

元ゼスト隊の吸血鬼。1482歳。妖気さんより投稿された。一人称は俺。

知的好奇心のままに動くが回りには迷惑をかけない性格。ゼスト隊の生き残り・・・

偶然仮病で休んでいたため何も出来なかった事を悔やんでいる。日光に耐性ありで輸血パックとジャンクフード好き。

能力は『摩天楼』。ガー本人の感情の高ぶると周りの景色がモノクロになり遠近・平衡感覚がなくなる。

また、『ブレードコフィン』という棺桶型デバイスを持っている。

地味な縁無しメガネの男。邪魔する奴は切り捨てる！！

大和 侑鬼／やまと ゆうき

『鏡の侍』

管理局所属。レアスキル持ち。郡司侑輝さんより投稿された。一人称は俺。

普段は穏やかな口調なのだが頭に血が上るとドスの利いた声になる。昔友人に裏切られた事があり、それが原因か分からないが孤独を愛する。

能力は『鏡から日本刀を作り出す』。

内容はそのままなので特に追記はしない。

端正な顔立ちに黒の短髪。紫の目をしている。

八神 しおり／やがみ しおり

八神家の母。病弱で入院中。一人称は私。

友人に許可を貰って出した友人の彼女のトレス。聖矢が居れば何も
いない。

聖矢にさくら・はやて・なるかみ以外の誰かが（男性でも）くつつ
くと必ずといって良いほど睨む。

聖矢とは違いゲームとかは好きではない。元々は弓道の知り合いだ
つたらしい。

六兄弟の事は知っており、事故の時に助けたのが圭一と真司なもの
も気付いている。

ロングの黒髪で少し幼い顔立ち。聖矢とは甘々な空気を作り出す事
がある。

転生番号

番号 年齢 名前／ふりがな（年齢は学年でなのはを基準にする
ない者はなのはが小三の段階で高校を卒業している人である。ST
Sから希望は19歳から年齢を計っている。）

0 1	+	神山 玲人／かみやま れいと
0 2	-	篠嶺 宗戊郎／ささみね しゅうぼろう
0 3		
0 4		
0 5	± 0	麻館 一茶／あさだて いっさ
0 6		
0 7	+	凍城 氷織／とうじょう ひおり
0 8	-	×なのはを拉致してやばいことしようとしていた人
0 9	+	キラ・フェアリー
1 0	+	宮薙 愛理／みやなぎ あいり
1 1		
1 2	-	黒坂父（死去）
1 3		
1 4	??	I / アイ
1 5		
1 6		
1 7	± 0	秋山 裕也／あきやま ゆうや
1 8	+	エルナ・エニッシュ
1 9	+	黒崎 翔太郎／くろさき しょうたろう
2 0	+	風野／かざの ライト
2 1		
2 2	-	×アリサ拉致グループに入っていた一人
2 3	+	篠原 雪那／しのはら せつな

5 3	5 2	5 1	5 0	4 9	4 8	4 7	4 6	4 5	4 4	4 3	4 2	4 1	4 0	3 9	3 8	3 7	3 6	3 5	3 4	3 3	3 2	3 1	3 0	2 9	2 8	2 7	2 6	2 5	2 4
	+ 6	+ 2			± 0			± 0			- -			± 0	± 0		- -	- 2	- -				± 0		± 0		- -		
	神宮／じんぐう	香谷 渚／こうたに			八神／やがみ			八神／やがみ			×管理局員を無差別に殺していた人			神山 零時／かみやま	香谷 走輝／こうたに		×管理局員を無差別に殺していた人	カイル・神山／しんざん	×アリサ拉致グループに入っていた一人			黒羽 光華／くれは		栗原 彼方／くりはら		×海鳴市に爆弾を仕掛けようとしていた奴			
	セン	なぎさ			なるかみ			さくら					れいじ	そうき								みつか		かなた					

5 4	± 0	近藤 美樹 / こんどう みき
5 5		
5 6		
5 7	- -	×アリサ 拉致グループに入っていた一人
5 8	± 0	高木 和人 / たかぎ かずと
5 9		
6 0	- -	パーソナル・インフォメーション
6 1		
6 2	+ 3	香谷 良樹 / こうたに よしき
6 3		
6 4		
6 5	- -	×なのはにバレた原因その1
6 6	- -	×なのはにバレた原因その2
6 7	- -	×なのはにバレた原因その3
6 8	± 0	草薙 護朗 / くさなぎ ごろう
6 9	- -	×アリサ 達にバレた原因
7 0		
7 1	± 0	切裂 凶夜 / きりさき きょうや
7 2		
7 3	- -	×和人 達に襲い掛かってきた人
7 4	± 0	七瀬 / ななせ クレス
7 5	± 0	結衣 咲 / ゆいざき シイ
7 6	± 0	夜神 撫子 / やがみ なでこ
7 7	- 1	神山 楓 夏 / かみやま ふうか
7 8	+ 5	後藤 圭一 / ごとう けいいち
7 9	+ 1	香谷 翔太 / こうたに しょうた
8 0	+ 5	桂木 真司 / かづらぎ しんじ
8 1	- -	×ユーノ リンチグループその1
8 2	- -	×ユーノ リンチグループその2
8 3	- -	×ユーノ リンチグループその3

8 4	-	-	×ユーノリンチグループその4
8 5	-	-	×ユーノリンチグループその5でなのはと対決した人
8 6	-	1	香谷 岩太/こうたに がんた
8 7			
8 8			
8 9	-	3	ユナ
9 0	+	8	光谷 香苗/こうたに かなえ
9 1	+	1	虚霊 落神/こだま らくしん
9 2	±	0	セロ・ストリーム(×能力の暴走(なお、能力を消さ れただけである。))
9 3	-	7	サヤカ・ナカジマ
9 4	±	0	宮薙 煉華/みやなぎ れんか
9 5	-	7	シンイチ・ル・ルシエ
9 6			
9 7			
9 8	-	3	アルティ・フェイアード
9 9	±	0	空刀 創人/そらかたな そうと
0 0	-	-	×世界を乗っ取ろうとしたバカ
E X	±	0	高木 速人/たかぎ はやと
-	±	0	黒坂 大樹/くろさか だいき
-	-	-	高木 直弥/たかぎ なおや
-	-	-	高木 優香/たかぎ ゆうか
-	+	5	高木 愛香/たかぎ あいか
-	-	4	高木 木葉/たかぎ このは
-	±	0	桐月 龍臣/きりつき たつおみ
-	±	0	鹿目 ツカサ/かなめ つかさ
-	±	0	青井 元重/あおい もとしげ(本当は+2)
-	+	8	漸/ゼン・ランスター
-	-	3	ソフィア・ランスター
-	-	-	フォルト・ランスター

-	-	八神 聖矢 / やがみ せいや
-	-	八神 / やがみ ヒビキ
EX	- 2	篠嶺 由貴 / ささみね ゆき
-	+ 7	綺羅 彩香 / きら さいか
-	± 0	倉河 涼 / くらが りょう
-	-	伊坂 真紅郎 / いさか しんくろう
-	-	薬薬 / やくやく
-	-	ガー・ヴィー・ヒー
-	-	レノン
-	+ 9	大和 侑鬼 / やまと ゆうき

比較	± 0	高町なのは他幼少期主人公陣（クロノは本当は+5）
比較	- 3	ティアナ・ランスター
比較	- 4	スバル・ナカジマ
比較	- 9	エリオ・モンティアル、キャロ・ル・ルシエ

カオスクラスメンバー

教師 西村 宗一 / にしむら そういち

男子生徒

青井	元重	/ あおい	もとしげ
秋山	裕也	/ あきやま	ゆうや
麻館	一茶	/ あさだて	いっさ
浅月	香介	/ あさづき	こうすけ
井ノ原	真人	/ いのはら	まさと
衛宮	士郎	/ えみや	しろう
音無	結弦	/ おとなし	ゆずる
織斑	一夏	/ おりむら	いちか
春日	京	/ かすが	きょう
鹿目	ツカサ	/ かなめ	つかさ
鹿目	封	/ かなめ	フウ
上条	当麻	/ かみじょう	とうま
神山	零時	/ かみやま	れいじ
木下	秀吉	/ きのした	ひでよし
桐月	龍臣 /	きりつき	たつおみ
草薙	護朗	/ くさなぎ	ごろう
草薙	電磁	/ くさなぎ	デンジ
黒坂	大樹	/ くろさか	だいき
古泉	一樹	/ こいずみ	いつき
香谷	走輝	/ こうたに	そうき
小室	孝	/ こむろ	たかし
坂本	雄二	/ さかもと	ゆうじ
篠嶺	冬季	/ ささみね	トウキ
ユーノ・スクライア			
高木	和人	/ たかぎ	かずと
高木	速人	/ たかぎ	はやと
土御門	元春	/ つちみかど	もとはる
土屋	康太	/ つちや	こうた
直枝	理樹	/ なおえ	りき

棗	恭介	/ なつめ	きょうすけ
七瀬	クレス	/ ななせ	くれす
鳴海	歩	/ なるみ	あゆむ
クロノ・ハオラオン			
日向	秀樹	/ ひなた	ひでき
平賀	才人	/ ひらが	さいと
平野	耕太	/ ひらの	こうた
間桐	慎二	/ まとう	しんじ
水代	火澄	/ みずしろ	ひずみ
宮沢	謙吾	/ みやざわ	けんご
吉井	明久	/ よしい	あきひさ
アイズ・ラザフォード			

女子生徒

イリヤスフィール・フォン・アインツベル			
青井	蘭	/ あおい	ラン
赤司	奈々	/ あかし	なな
麻館	夏目	/ あさだて	ナツメ
新島	ユイ	/ あらじま	ゆい
泉	こなた	/ いずみ	こなた
岩沢	まさみ	/ いわさわ	まさみ
初春	飾利	/ ういはる	かざり
神山	白奈	/ かみやま	シロナ
木下	優子	/ きのした	ゆうこ
霧島	翔子	/ きりしま	しょうこ
日下部	みさお	/ くさかべ	みさお
工藤	愛子	/ くどう	あいこ
来ヶ谷	唯湖	/ くるがや	ゆいこ
黒羽	凧	/ くれは	ナギ

黒羽	光華	/くれは	みつか
近藤	美樹	/こんどう	みき
佐天	涙子	/さてん	るいこ
篠ノ之	箒	/しののの	ほうき
島田	美波	/しまだ	みなみ
白井	黒子	/しらい	くろこ
涼宮	ハルヒ	/すずみや	はるひ
千石	照	/せんごく	てる
高城	沙耶	/たかぎ	さや
高町	なのは	/たかまち	なのは
高町	亮子	/たかまち	りょうこ
高良	みゆき	/たから	みゆき
竹内	理緒	/たけうち	りお
立華	奏	/たちばな	かなで
月村	すずか	/つきむら	すずか
アリシア	・テストア	・テストア	
フェイト	・テストア	・テストア	
逢坂	凜	/とおさか	りん
仲村	ゆり	/なかむら	ゆり
アリサ	・バニングス		
柊	かがみ	/ひいらぎ	かがみ
柊	つかさ	/ひいらぎ	つかさ
姫路	瑞希	/ひめじ	みずき
平沢	唯	/ひらさわ	ゆい
凰	鈴音	/ファン	リンイン
毒島	冴子	/ぶすじま	さえこ
真鍋	和	/まなべ	のどか
御坂	美琴	/みさか	みこと
峰岸	あやの	/みねぎし	あやの
宮薙	煉華	/みやなぎ	れんか

結崎	八神	八神	八神	宮本
ひよの	はやて	なるかみ	さくら	麗
／ゆいざき	／やがみ	／やがみ	／やがみ	／みやもと
ひよの	さくら	なるかみ	さくら	れい

学校開始

「お、遅れちゃう!!」

私、高町なのはは新学年早々遅刻をしそうです。

だって寝坊しちゃったから・・・

「高町イ!!」

なのは「あれ？」

今の声は・・・友達の人君なの。

和人「お前も遅刻か!？」

よく見たら速人君も大樹君も美樹ちゃんもいるの。

なのは「何でみんなして？」

和人「今年から始まるんだよ!!」

始まるって・・・もしかして・・・？

とりあえず走りながら誰にかは分からないけど説明するの。

私は小二の頃、クラスのとある男子から友達のアリサちゃんときずかちゃんが迫られているのを見たの。

で、どっかに連れて行かれたからついていってみたら何人かに囲まれていたの。

先生を呼びに行こうと思ったけどその前に煙のようなものが来てアリサちゃんとときずかちゃんは眠ってしまったの。

そしたら和人君と速人君が来て・・・何かバトルになったの。

その後私が居る事がばれて・・・説明してくれたの。

最初は信じられなかったけど能力を見たから信じるしかなかったの。それから数日後にアリサちゃんとときずかちゃんにもばれたんだけどね。

あとこの学校には私達以外にもう一人知っている人がいるの。

「ギリギリだなお前等・・・」

和人「おはようございます鉄人先生！」

速人「おはようございますスネーク先生。」

美樹「西村先生おはようございます。」

大樹「宗一先生おはようございます！」

なのは「西村先生おはようなの！」

アリサ「おはようございます。」

すずか「先生おはようございます。」

「とりあえず高木兄弟は補習を受けたいのか？」

和人・速人「いいえ、ぜったいやりたくないであります!!」

西村先生、一昨年、去年と私達の担任なの。

みんなからは鉄人とか超人とかダンボールの人とか言われていて、転生者のことを知っているの。

ちなみに和人君達は本来はこの世界にはいない人とか言っていたけど・・・

宗一「とりあえずお前等で最後だ。七人とも今年も俺のクラスだからな。」

和人「俺死んだな・・・」

宗一「大丈夫だ。お前等以外も問題児とか問題児とか問題児とか集めているからな。」

・・・先生問題児としか言っていないの・・・

宗一「じゃあこれがクラスの名簿だ。一応見ておくように。」

教室まで先生と一緒にいく事になったの。

・・・そういえば和人君達は先生が苦手らしいの・・・

理由は簡単に説明するところなるの・・・

『前世で普通に勉強していたから小学校の勉強が暇。』

そこで寝ている所を見られ悪魔の補習を何度も受けさせられたから。」

私も受けさせられたことがあるけどあれは補習という名の拷問だったの・・・

宗一「高町今失礼なことを考えなかったか？」

心を読まないで欲しいの！！

そしてその後名簿と一緒に見たら・・・和人君達が固まったの。

見たこと無い名前ばかりなのは分かるけど・・・

アリサ「ちょっと、どうしたのよ？」

あ、アリサちゃんナイス！

だけどその後には和人君達（大樹君除く）と一緒に言った言葉は・・・

和人・速人・美樹「……何てクロスオーバー！？」「」

大樹「おい、どうしたんだよ！？」

和人「何で……この世界にこのキャラが！？」

なのは「え！？もしかして……」

和人君の言葉で私達は理解したの……

アリサ「あんな達の言う別の世界のキャラが居る訳！？」

三人「……うん……」「」

.....

和人「ここは・・・あとがきルームか？」

速人「そーみたいだな兄ちゃん。」

なのは「あ、ここにメモがあるの。」

アリサ「何々……？」

「とりあえず自己紹介をしておいて。後助っ人呼んでるから。だつてさ。」

美樹「助つ人……？」

「失礼します。」

大樹「中学生？」

「あんた等が新しい小説の主人公か……って高町なのは!？」
なのは「え？」

「あの……まずは自己紹介をしましょう。」

「そうだな。俺は作者の小説の主人公の一人、西京圭。」

「同じく本田直也だ。」

「僕は海道海里、通称カイです。」

「私は波畑柊、一応チートだよ。」

「俺は本田克己、チートにあたるか？」

和人「って大道克己!？」

克己「あーそれ以上禁句。知りたきゃ他の小説を読んでくれ。」

圭「では、自己紹介を。」

和人「そうだな。俺は高木和人、主人公でオリ主ポジションらしい。」

速人「高木速人、転生者選別役でもう一人の主人公だ。」

美樹「近藤美樹、転生したら何か巻き込まれた・・・」

大樹「黒坂大樹、今の悩みは転生者に間違われることだ・・・」

なのは「高町なのは、本来の主人公らしいのに出番が無くなりそうなの。」

アリサ「アリサ・バニングス、近頃他の転生者によく襲われるのが悩みね・・・」

すずか「月村すずかです。私の秘密を知っている人が多いらしいけど・・・」

宗一「・・・これは俺もしなきゃいけないのか？」

柊「あ、はい。先生お願いします。」

宗一「それじゃあおれは西村宗一、よく鉄人といわれるのだが・・・

しかも転生者は全員強いらしいがそいつ等にも恐れられているんだよね・・・」

克己「どういうチート性能だよ!?!」

和人「とりあえずここでは出てきたオリキャラとかの紹介をしていく。」

速人「基本版權キャラはなのは達しかやらないが・・・」

美樹「次回は三年二組、通称最凶クラスの話よ。」

大樹「他の作品もあるから更新は遅いと思うが宜しくな。」

・・・・・・・・・・・・・・・・

圭「・・・よし、帰ったな。」

直也「じゃあ逝こうか・・・」

柊「直也漢字違う。」

圭「この作品に出てくる転生者を募集します！」

直也「名前、性別、能力、性格他をお願いします。」

柊「敵役でも味方役でも何でも良いですよ！」

克己「あ、作者が困るといけないから『転生者』という題名でメッセージで送ってくれ。」

カイ「能力はあまり強すぎるものは止めてください。」

あと作者が知らないものもあるので、こういう能力なのかも書いてくれるとうれしいです。」

圭「ただ、出てこなかったり一瞬でやられたりしたらすまん。それについての批判は止めてくれよ。」

混沌教室

高町なのはSIDE

和人「ここか・・・」

私達のクラス、三年三組にやってきたの。

ここが私達のクラスらしいけど・・・

宗一「他のやつは全員いる。さ、入るぞ。」

と、先生がドアを開けると・・・

宗一「だれだこんなことをしたのは・・・」

何か上から落ちてきた黒板消しをキャッチしていたの。

宗一「おい！　だれだこんなトラップしかけたのは!？」

「私よ!!」

・・・先生にケンカ売った人がいたの、めっちゃバカなの
もしかして先生のことを知らないのかな？

宗一「そうか……まあいい、後で補習だからなお前は。」

「……！」

・ ・ ・ その言葉は補習を受けた後に言ったらいいの。

宗一「じゃあ自己紹介だ。俺は西村宗一、このクラスの担任だ。」

と言つ訳で男子の出席番号順に名前を言っていけ。

とりあえず名前が呼ばれるけど先に男子だからあんまり関係ないの。

「上条おれを叱ってくれええええええええええ！」

なのは「うるさあああああああああい!」

そして女子も挨拶をしたんだけど……このクラス、男子より女子

の方が若干多いの。

何で均等にしないのかな・・・？ と思ったのは秘密なの。

だって・・・自己紹介をするための一時間目が口にしたくないくらいカオスだったから・・・w

「何であんたと同じクラスなのよおおおおお!!」

「俺に聞くなあああああ!!」

「か、カオスだ・・・」

「君、これを着てみないかね？」

「断固拒否するのじゃ!!」

「って何学校にそんな服持ち込んでいるの!？」

「明日の弁当を作ってくれ!!」

「何故俺に頼む!？ アイツの方が適任だろ!？」

「待て、そこでなんで俺が出てくるんだ!？」

「あまりうるさいと情報ばらしますよ?」

「」「失礼しました姉御!!」「」

「な、何で姉御・・・」

美樹「このクラス、本当に小学三年のクラスなのかな？」

それを言っちゃったら駄目だと思うの。

というかここは考えるのを放棄するべきなの。

和人「直枝理樹、鳴海歩、平沢唯、音無結弦……」

速人「平賀才人、上条当麻、吉井明久、御坂美琴、春日京ことキヨ
ン……」

和人「それに小室孝、衛宮士郎、織斑一夏、泉こなた……」

美樹「主人公だけでこのクラス14人も居るのね……」

和人「なのはを含めたらそうなるな。主要人物しかないのが救い
だが……」

美樹「何でこの二年間気付かなかったんだろうね……」

紹介の後和人君達は何か落ち込んでいたのw

けど・・・そんなにイレギュラー？　がいたら大変だと思うの・・・
主に神様が。

けど・・・現に居るってことはどういことなんだろう・・・」

アリサ「なのは、声に出てるんだけど・・・」

なのは「にやっ!？」

・・・

そんなこんなで一ヶ月。

最初はあまりのカオスに耐えられなかったけど今はスルーできるくらいには慣れたの。

そんなこんな日、不思議な夢を見たの・・・

それは、私と同じくらいの男の子が助けを求めるといふものだった。
・・・

なのは「おはようございます。」

宗一「お、高町か。」

なのは「先生速いですね。」

あの後アリサちゃんや和人君も不思議な夢は見たって言ってたけど、内容は違かったの。

海鳴市に宝石のようなものが散らばる夢だったらしいの・・・

宗一「ああ、何か胸騒ぎがしてな。」

なのは「そうなんですか・・・」

ちなみにこのクラスの人全員宝石が散らばった方を見たらしいの。

・・・私だけ仲間外れ？ 何か悲しいの・・・

その日の帰り道・・・

「死ねっ!!」

「ぐふっ!?!」

七人「「「!?!」」」

裏道からケンカしているような声が聞こえた時、私達の物語は始まったの・・・

・・・

なのは「とりあえず何の作品がクロスするかは分かったの。」

和人「14作品・・・この世界には何が起きているんだ?」

美樹「しかもスパイラルだけマイナーだね・・・」

速人「それよりも能力の元の人がいることにはツツコまないのか？」

美樹「無駄だと思う。」

大樹「次回から原作開始・・・か？」

混沌教室（後書き）

考えているクロスは和人と速人の言った14人が主人公の物語です。
幾つかは確実に無くなりますが・・・都合上・・・

原作開始

高町なのはSIDE

なのは「えっ!?!」

突然のケンカしているような声。

みんなで聞こえてきた方向に行くと・・・

「死ねこの淫獣!!」

「お前なんかこの世界にいらなんだよ!!」

「がはっ・・・」

イタチみたいな動物がリンチを受けていました。

和人「っってお前等何やってんだ!?!」

「ん? ただの淫獣を処刑しているだけだが・・・?」

「ん、一体どうしたんですか？」

うわ・・・腐ってるの。

和人「相手は五人・・・左から俺、速人、美樹、大樹、それとなのはが対応しろ。」

速人「いいぜ。」

美樹「準備はいいわよ？」

大樹「どの位までぶっ飛ばすか？」

速人「気絶させて欲しい。」

なのは「一番右を任されたの。」

相手は五人。私は一番右の弱そうな奴になっただけ・・・

とりあえず・・・動物をいじめた罪で半殺しの刑なの。

速人「こいつ等全員転生者だ。」

・・・二分で終わったの。

私に対決した奴は『魔法や超能力を反射する』だったけど仕込んでおいた木刀で一発だったの。

元々運動苦手だったから和人君達に進められて御神流を習ったのがここで役に立ったの。

え？ 木刀がどっから湧いたかって？ それは秘密なの。

その後イタチ・・・じゃなくてフェレット君を和人君の持つ『マテリア』で回復して動物病院へ連れてったの。

・・・・・・・・・・・・・・・・

<助けて!>

なのは「ふえっ!?!?」

その日の夜、突然頭に響いた声があったの。

そしてフェレット君を預けた動物病院に行かないといけないような気がしたの。

なのは「早く行かないと・・・だけどお父さん達気付くよね・・・」

御神流を習ってみたからこそ分かるけど確実にばれてるの。

なのは「けど・・・それでも行かなくちゃ。後で説明すればいいし。」

とりあえず急ぐの・・・!!

なのは「え・・・!?!?」

途中でアリサちゃんとすずかちゃんとも会って一緒に来たんだけど・・・

和人君以外の三人が倒れていて和人君が一人で二体の化け物を退治していたの。

だけど中々決定的なダメージは与えられてないみたいなの・・・

私はどうすればいいの！？

と思ったら帰りに助けたフェレット君が動物病院から出てきて・・・

<これを使って変身して！>

って赤いビー玉のような宝石を渡してきたの。

変身って、仮面ライダーなのかな？ ってそうじゃない！

<僕に合わせて唱えて！ 風は空に、星は天に、>

なのは「ええと、風は空に、星は天に、」

<不屈の心はこの胸に、>

なのは「ふ、不屈の心はこの胸に！」

なのは・？「この手に魔法を！ レイジングハート、セットアップ！！」

って言ったら体が光に包まれて・・・

なのは「つてふええええええええ！？」

学校の制服を模したようなコスプレ服になっていた。

くす・・・すごい魔力量だ・・・>

何かフェレット君が喋ってるけど……って待った。

なのは「ってフェレット君が喋ってるのおおおおおお!？」

と言って後ろを向いたら・・・

「すずか「なのはちゃん」がコスプレなのはちゃん」がコスプレ……」

アリサ「ちょ、すずかしっか！ 後なのははその服装何よ！？」

すずかちゃんかショートしていました。

なのは「私に質問しないでええええええええええ！」」

アリサ「あんたは何処の加速の警官!？」

和人「なのは！ それでこいつ等を封印しろ！」

なのは「え!？」

和人君が突然そう言ったの。

けど……何でこういう服装なのかも分からないのに封印の呪文なんて……って待った。

確かフェレット君は「すごい魔力量だ・・・」って言ってたよね？
和人君の「マテリア」はマテリアル、つまりは魔法関係からとって
あるって言ってたから・・・

なのは「ディ、『デスペル』!!」

和人「」

って唱えたら桃色の光が二体を包み・・・二つの宝石にしたの。

<・・・あつ、それをレイジングハートで触れて!!>

ってフェレット君が言ったから触れたら収納されたの。

・・・

なのは「・・・はっ!？」

あ、ありのままに起こったことを話すの!

『宝石がレイジングハート? に触れたら収納されたと思ったらベツトに寝ていた。』

昨日の事は夢とかそういう問題じゃないと思う。何かもつと恐ろしいもののカケラを味わった気がするの・・・

・・・あ、思い出した。

あの後周りがめっちゃ壊れてたりしたから逃げたんだった。

そしたらお父さんとお兄ちゃんが居て武道場に連れて行かれたの。

それから・・・何か思い出したらいけない気がするから止めよう。

『おはようございます、マスター!』

なのは「あ、おはようレイジングハート。」

フェレット君は今は和人君が引き取っているけど・・・何処でこの事を話せばいいんだろう・・・

・・・

後書き部屋。

速人「・・・No5、17、94の転生者が何か知らんが投稿され

た。」

圭「すみませんそれ俺等が告知していたんです。」

和人「マジかよ・・・で、今日やこれまでに処罰したのは？」

速人「今日のは81〜85まで。後8、22、26、34、36、42、57、65〜67、69、73、92だ。」

皆「・・・よく覚えてるな!？」

皆「・・・キャラを投稿してくれた月光閃火さん、疾風の音さん、俺がベジータだー!さんと、

ジントさん感想ありがとうございます!」「」

.....

圭「追加情報です！」

柊「転生者以外も募集します！」

カイ「同じように名前・性別・性格・能力をメッセージで送って下さい。」

直也「どちらかと言えばこっちの方がキャラとして出やすいと思うな。」

克己「これからも宜しくな!!」

状態説明（前書き）

ちよい独自解釈。

名簿は間違えているかも。

状態説明

フレットSIDE

僕はユーノ・スクライア。遺跡発掘を主とするスクライア一族の一人だ。

とある時『ジュエルシード』と呼ばれるものを発掘した。

それを管理局に届けようと思ったけど・・・事故でとある次元世界に落としてしまった。

すぐに拾いに行こうとしたけど具現化した化物二体に囲まれて一つも封印できなかった。

しかも逃げた先で何か魔力量がやけに高い五人に囲まれて・・・

そこから先は動物病院で目が覚めるまで記憶がない。多分気絶していたんだと思う。

だけど突然近くにジュエルシードの化物が現れて、とっさにく助けて>と叫んでしまった。

その後四人人が来たんだけど三人はやられ、一人はロストログアッぱいものを使っていたけど苦戦していた。

けど、その後来たとある女の子に他のみんなよりも高い魔力を感じた。

だから持っていたデバイス『レイジングハート』を渡したんだけど・

ジュエルシードは専用の呪文があるのに『デスペル』って唱えるだけで封印していた。

驚いたけどそれで安心したのか僕は気を失った・・・

七人「」なるほど・・・」

僕はあの時近くに居た七人、和人・速人・美樹・大樹・なのは・すずか・アリサにアレについて話した。

ユーノく僕は和人の使っていたものについて知りたいけどね。>

和人「・・・まあ、話してくれたしなのは達も知っていることは話すか・・・」

・・・簡単に教えていいんだ・・・

和人「まずユーノ、『転生』と言う意味は知っているか？」

ユーノ「あ、うん。生まれ変わることだね？」

和人「ああ。俺達はそうやって転生した人物を『転生者』って呼んでいる。」

ユーノ「それがさっきのにつながるの？」

和人「若干な。で、俺と速人、美樹はその転生者に当たる。大樹は違うからな。」

ユーノ「くえ？　と言うことは前世があるってこと？」

和人「記憶ごとな。で、前世にはそれを基にした小説があるわけだ。」

少し脱線するけどな、基本転生する奴は『神が間違えた』か『神の暇潰し』のために転生する。

その時に殆どの場合何かしらの能力を貰うわけだ。」

ユーノくえ！？　ってことはそれは神からもらったの！？>

和人「まあそうなるがちょっと違う。

俺たちの元の世界にはファイナルファンタジーというゲームがあるんだ。」

その七作目にでてくるアイテムが『マテリア』。

確かライフストリームなるものが固まった魔力体だったような気がする。

その中に『古代種』と呼ばれる人たちの記憶が入るところ能力が使えたりするんだ。」

と言うとマテリアを一つ取り出し、近くの水道（今僕等は公園に居る。）に氷を張った。

けど『古代種』とか『マテリア』とか『ライフストリーム』とか・・調べてみたい。

この世界にあるかは分からないけどあってもおかしくはないよね？

ユーノくありがとう。>

和人「いいぜ、そんなに改めなくても。ただ誰にも話して欲しくないな。」

ユーノくそれ位分かってるよ。>

・・・もしかして僕信用されていない？

その後自衛用にとってマテリアを一つ貰った。

確かアリサやすずか、なのはも貰っているらしい。

一体何処から取り出しているんだって聞いたらすごい事いわれた。

和人「これは成長するんだよ。で、成長しきったら分裂するんだ。」

・・・分裂って・・・

和人「ちなみに預けているのは俺よりも戦闘回数が多いと思ったから。」

それだけ速いしある程度増えたら新しい方を返してもらうつもりだしな。」

・・・盗まれないようにしよう・・・

原作キャラより二年下なのはちょっときついんですがね。

ただ、それよりも気になったことがあるんですよ。

「一緒帰るツスよ」

何故か同じクラスにらき　すたの小早川ゆたか・岩崎みなみ・田村ひよりがいるんですよ。

ここ本当にリリなのの世界なのか気になったぐらいですよ!?

だからなのはさん達のクラスを調べてみたんですよ。そしたら・・・

教師　西村宗一

男子生徒

浅月香介
井ノ原真人
衛宮士郎
音無結弦
織斑一夏
春日京
上条当麻
黒坂大樹
木下秀吉
古泉一樹
小室孝
坂本雄二
高木和人
高木速人
土御門元春
土屋康太
直枝理樹
棗恭介
鳴海歩
日向秀樹
平賀才人
平野耕太
間桐慎二
水代火澄
宮沢謙吾
アイズ・ラザフォード
吉井明久

男子生徒だけでこの有様。

平野コータやキョン、ミスシロ火澄とか何人かは名前が変わっているんですがね・・・

というかホントスパイラルだけマイナーなんですが？

女子生徒

イリヤスフィール・F・アインツベル

新島ユイ

泉こなた

岩沢まさみ

初春飾利

霧島翔子

日下部みさお

工藤愛子

来ヶ谷唯湖

近藤美樹

佐天涙子

島田美波

篠ノ之箒

白井黒子

涼宮ハルヒ
高城沙耶
高町なのは
高町亮子
高良みゆき
竹内理緒
立華奏
月村すずか
逢坂凜
仲村ゆり
宮本麗
アリサ・バニングス
柊かがみ
柊つかさ
姫路瑞希
平沢唯
毒島冴子
真鍋和
御坂美琴
峰岸あやの
結衣崎ひよの

ちょっと待ってください。

日下部みさおやイリヤスフィールが居る事ならまだ分かりますよ。

だけど・・・セシリア・オルコットは？ 田井中律は！？

しかもゼロ魔誰もいないんですか！？

まさか他も原作通り進むんですか！？

というか姉御が何故いるんですかあああああああ！？

す、すこし暴走していたみたいです。

とりあえずひよりん達と一緒に帰った後考えとしましょうか・・・

ゆたか「そういえばこの前お姉ちゃんが『不思議な夢見た』って言うってたよ。」

みなみ「・・・みゆきさんも言っていた。」

ひより「というかあのクラス全員みたらしいツスよ?」

・・・ 何ですか、あのクラスは一体何なんですわ

•

後書き部屋

速人「最後のはNO35だ。」

和人「今日は殆ど説明だったな。」

美樹「アースラでロストロギアについて聞くことはこれで無くなったのよね？」

和人「多分な。」

没シーン、しかしこの後の展開に少し関係あり。

ユーノが話す前のこと・・・

和人「は？ ユーノが嫌いだった？」

美樹「そつよ！ 問答無用とはいえ一緒にお風呂に入るのに無抵抗なのよ！！」

和人「無抵抗ではなかったぞ！！」

美樹「しかもクロノとは違って事故ってるし！！」

和人「クロノ？ あのKYか？」

美樹「KYじゃない！　ただ管理局の仕事を全うしようとしていた
だけよ！！」

和人「いや、戦いが終わってからでもいいじゃねえか！！」

美樹「戦ったら被害が出る可能性があつたのよ！？」

和人「注意して戦おうとしていたじゃねえか！！」

美樹「それを知らなかったのよ、わかる！？」

速人「・・・子供のケンカか。」

大樹「転生者でも俺達子供だと思っただけど・・・」

終わり。

和人「いやいやいやユーノは（ry」

美樹「いやいやいやクロノは（ry」

本当に終わり。

和人・美樹「げ・・・」

速人「アレは恥ずかしかったな。」

和人・美樹「そんなの載せるなああああああ！！」

皆「俺がベジータだー！！さん感想ありがとうございます！！

転生者N046と75、その他のキャラを投稿してください
った黒一文字さん、ジントさん、月光閃火さんもありがとうございます
ます！！！！」

次回 神社で最初の（転生者以外の）介入者。

幻想破壊

高木和人SIDE

なのはが魔法少女になって数日。

そろそろ神社での事件が起こるか・・・？

何だろう、別に生まれた時から記憶があるわけでもないのに細かい所を覚えていない・・・

まっ、全力でサポートするだけだな。

なのは<ジュエルシードが発動したの!!>

和人<まさか神社か!?!>

なのは<その通りなの! 場所は分かるよね?>

和人<ああ! すぐに行く!>

「うわあああああああ!？」

って言った先から誰か襲われた!？

「なんじゃこりゃあああああ!！」 バチィ! バチッ! バチッ!

しかも何か電気のような音が聞こえる・・・どっかで聞いたことがあるような？

和人「早く助けに行くぞ!!！」

とにかく声が聞こえたあたりに進んでいくと、現状が見えた。

GA・・・

上条当麻が襲われていたのだ。

ということとはさっきのは幻想壊し・・・イマジンプレイカーが発動した音か!？

この世界でもその能力はあったのか・・・！？

当麻「！？ 高町に高木他！ 警察か誰か呼んで来い！！」

ここで警察に頼もうと思うところが俺等に巻き込まれて欲しくないという表れなのか・・・

なのは「大丈夫なの！！ 『ブレイク』！！」

当麻「んなつ！？」

そういえばなのはには解除のデスペルじゃなくて石化のブレイクを教えてあった。

アレじゃないと魔力体ならともかくこういうときに封印できないと思ったからな・・・

なのは「ジュエルシード、封印！！」

そして犬と封印されたジュエルシードに分かれる・・・

当麻「って今の何でせうか！？ よくみたら高町はコスプレしているし何か魔法使いみたいだし・・・」

なのは「ま、またコスプレって言われたの・・・うう・・・」

上条、気付くのが遅すぎだ。

.....

当麻「なるほどな・・・」

仕方ないので転生者云々以外を話した。

当麻「数日前に見た夢はこれを示していたのか・・・」

速人「おい、絶対他のやつに話すなよ。」

当麻「分かってますって。」

・・・こいつは本当に小三なのだろうか・・・

今の段階で原作並みの性格だぞ・・・他のやつにも通じることだな。

けど、やっぱり気になることはある。

なのは「そういえば何でさっきの弱っていたんだろう・・・」

当麻「さあ？　なんか右手が触れたらのけぞったから殴りまくっただけだが・・・」

大樹「何か変な能力でも宿ってるんじゃないか？」

大樹「・・・なぜそう勘が良いんだお前は！？」

原作通りならその通りなんだが！？

当麻「ま、もしもの時は手伝うからな。」

和人「ん、まあもしもの時は頼むな。」

上条に手伝ってもらうこと・・・Asで手伝ってもらえるかな？

・・・

家にて。

なのは「ばれちゃったね・・・」

アリサ「上条が話さないのを祈るだけだけど・・・」

和人「これから誰にばれることになるんだろうな・・・」

とりあえず話し合い。

また誰かにばれるのは面倒なんだが・・・

和人「何か良い方法はないかな？」

やっぱこれが一番の問題だろうな・・・

美樹「面を作れば良いんじゃない？」

七人「「<・・・その手があつたか（の）！！>」」

これは盲点だったw

そういえばA'sでも猫姉妹が仮面をつけていたからな・・・

なのは達は原作じゃ付けずにすんでいたけどな。

和人「俺等の知っている未来じゃなのは達は付けてないけどな。」

なのは「え？　じゃあどうやってばれないようにしていたの？」

和人「偶然。一応結界はできるんだろ？」

ユーノ<一応ね。けどなのは達みたいに関カーコア・・・魔力体がある人には通じないかな。>

そういえばなのはxとあるのSSで上条も結果内に入っていたりしたな。

原作じゃA's終盤に魔力が出来たと思われるアリサとすずかにもあるらしいしな。

なのは「それだったら結界を張ってもばれるときはばれるの・・・」

アリサ「それにこういう時は他にも狙う人が居る筈よ。そういう人にばれないためにも必要じゃないかしら？」

アリサ、お前も勘が鋭いな・・・

とりあえず他の転生者のことも考え仮面はなののみ付けない事にした。

そしてアリサとすずかは周りに他の人が居た時のフォローの役目をする事に決まった。

美樹と大樹にもこの仕事をしてもらうことになる。

つまりなのは・ユーノ・俺・速人が現場に赴くことになる。

しかし・・・名前ばれする可能性があるから仮名が必要か？・・・
声バレもありえるしな・・・

・・・いや、声バレは無いか。相手がこっちを知っている場合だけ出しな。その時は諦める。

とにかく仮名も考えておくか・・・

アリサ「とりあえず今日は帰りましょう。」

和人「そうだな。」

[illegible]

後書き部屋

当麻「と言う訳で俺が巻き込まれたな。」

和人「事件のたびに誰かが巻き込まれそうだな……」

なのは「これ以上増えて欲しくないけど最悪クラスのみんなが巻き込まれるの。」

当麻「とりあえず・・・不幸つ、だああああああああああああ

!!
」

八人「「<発狂した!?!>」」

次回 樹木の化物事件であの人が巻き込まれます。

樹木化物

更に数日後・・・

??? SIDE

「さて、今日も翠屋に行きますか。」

俺は桐月 龍臣ノきりつき たつおみ。

今日も美由希さんの所が経営している翠屋に行くのさ

美由希「はい、龍臣君。」

龍臣「お、ありがとな!!」

美由希さんの妹であるなのはとは同学年。

クラスは隣なんだよな

といっても今年になって気付いたんだがなw

さて、家に帰って買ったシュークリームを食べるとするかな。

と思ったけど・・・運命はそれを許さなかった。

龍臣「な、何だありや・・・」

俺の目の前には樹木で出来た化物。

みんなが逃げている中、一人こけたのが見えた。

龍臣「っておい!？」

だが、こんなのに勝てるはずが無い。

防ぐだけでも一生懸命だっつーの。

けど、こいつどっかで見たことあるような・・・？

「そっはいかねえ！！ 恭介の名が泣くぜえええええええええ！！」

あ、こいつ例のクラスの棗恭介じゃねえか！？

恭介「こういうこともあるつかと一応準備はしてたんだよッ！！」

と言ってどっからか木刀を取り出して後ろから迫っていた根っこを斬る。

・・・後ろから来てるってことは囲まれているのか・・・

桐月龍臣 SIDE OUT

高町なのはSIDE

和人「すまん、それ俺が落としたものだから返してくれないか？」

「え？ この宝石をか？」

和人「ああ。その代わりこれをやるからな。」

「え？ これ、いいの？」

和人「ああ。好きな奴にアタックして来い！！」

「そこまで気付いていたのか！？」

和人「いや、バレバレなんだが・・・まあありがとな。」

「あ、うん。」

今日は翠屋JPのサッカーの試合があつたの。

途中けが人が出ちゃったけど大樹君が入ってくれたおかげで勝てたの。

その後和人君がサッカー部の一人が持っていたジュエルシードを回

収したの。

ちなみに代わりにあげたのは・・・黄色い宝石だったの。マテリアじゃないよね？

何か美樹ちゃんが「フラグ潰した・・・」って言っているけど何か立つ予定だったのかな？

と安心していた所に最悪の情報が入ってきたの。

ピーーーーー・・・

八人「 \llcorner く！？ \gg 」

ジュエルシードが発動した・・・

和人「ここで発動するはずだったのは回収したはずなんだが！？ \gg

しかも和人君が一番驚いているの・・・

速人<早く止めに行くぞ!!>

なのは<分かったの!!>

なのは「何あれ・・・」

ビルの屋上から見えるのは樹木の化物なの。

ユーノ<一応ジュエルシールドの場所は分かったけどシールド張ってるから撃ち抜けないよ・・・>

速人君と和人君は巻き込まれた人達を避難させに行っちゃったし・・・

私とユーノ君でやるしかないけど正直言って自身がないの・・・

けどここでやらないと被害がもっと増えるの・・・どうすれば・・・

そういえば和人君が前に渡してくれたマテリア・・・『まほうみだれうち』。

元々は『かいふく』だったんだけど魔法少女になったからって交換したんだよね。

たしか能力は『魔法を四回連続で撃つ。』だったから・・・

なのは「ユーノ君ごめん、これ使ったら反動で倒れるかもしれない。」

ユーノくえ！？>

なのは「けどこれしか多分方法ないから・・・ディバイン、バスタアアアアアア！！」

そして撃つと四つの桜色の光線がバラバラに飛んでいく。

一枚、二枚、三枚とバリアを破っていき二つの光線が核に当たる。
ジュエルシード

そして一緒に封印されたのを確認すると眠くなってきた・・・

ユ一ノくなのは!？>

ごめん、本当に倒れるみたい。

高町なのはSIDE OUT

高木速人SIDE

速人「多いな・・・」

根っこを切り裂きながら逃げ遅れた人を助ける。

使っているのは『デスサイズ』。対転生者用の武器だ。

見た目はただの黒い鎌なんだが転生者の能力が全く利かない。

そして場合によってはこれで切り裂くだけで選別が可能なんだよな。

能力だけを斬ったり普通に切れるようにしたり・・・

と、根っこだらけの中に取り残されている二人を発見した。

とりあえず仮面は被っているからばれないかな？

と思つてすぐにそこまで切り裂き、助け出すが・・・

速人「大丈夫か!？」

「あ、ああ。」

「つてまさか高木か!？」

速人「は？　つてお前は棗!？」

片方が棗恭介だった。

「っておい知り合いか!？」

もう片方はさっきシュークリーム買いに来ていた奴だな・・・

速人「説明は後にする、逃げろ!！」

恭介「分かった!　だけど後でしっかり聞くからな!！」

「って一体何だっただよおおおおお!！」

しかし二人目かばれるのは・・・

この調子だと本当に全員にばれるかもな。

しかし、この時なのはにも仮面を被せておくべきだったと後で思った。

・・・・・・・・・・・・・・・・

恭介「今度は俺か。」

速人「まさか声バレするとは思わなかった。」

和人「思ってたが本当にばれるとは思っていなかった。」

なのは「そして私が倒れたの。」

和人「仕方ないだろうな・・・あれを使っただんだし。」

和人「そういえばFF7でこんな鬼畜技もあったな。」

一人目『ナイツオブラウンド』 - 『まほうみだれうち』 『W召喚』

二、三人目『ものまね』

速人「ああ、メテオも壊せるんじゃないかって言う解体新書のな。」

美樹「確か・・・最高が9999×13×4×2×3だったかしら

？」

アリサ「ええと、ちょっと待ちなさい・・・311万9688ダメージ！？」

なのは「それだったら敵無しなの！！ 普通のRPGは10万を越す敵はいないと思うの！！」

和人「いや、二人目・三人目はともかく一人目は魔力が完全に枯渇するぞ。」

なのは・アリサ・すずか・ユーノ「「「くあ・・・>」「」」

速人「けど和人兄ちゃんは一応できるんだよね？」

和人「やりたくないけどな・・・」

情報漏洩

樹木事件の次の日。

高町なのはSIDE

なのは「・・・」

今テレビでは昨日の樹木事件についてニュースが流れています。

死者は居なかったみたいだけど・・・それでも沢山の人が怪我をしたらしいの・・・

和人君達は「知っている未来通りになると過信していたの俺等が間違いだった。」って言っているけど・・・

もつと早くあの技を使えば助かる人が増えたかなと思ってるの・・・

これからはもつと早く処理できるようにしたいの・・・そうしたら悲しむ人も居なくなるだろうし・・・

.....

その日の放課後、靴箱に手紙が入っていたの。

何だろうかと思って開けてみたら・・・

『貴方の秘密を知っているわ。この場所に来なさい。』

と書いてあったの。

最初は驚いたけど転生者なら有り得ると思い、和人君に話しかけようとする・・・

和人「・・・何だこれは・・・」

和人君のほうにも同じようなものが入っていたの。

とりあえず七人で話し合い、私のほうにはアリサちゃんとすすかちやん、美樹ちゃんの四人で行く事にしたの。

指定された場所は学校裏。

そこにくると、待っていたらしいその人が一言、こう言ったの。

「なのはちゃん、昨日、樹木の化物倒してなかった？」

その人は・・・クラスのハルヒさんだったの。

なのは「え？ 何のことかな？」

ハルヒ「とぼけたって無駄よ。決定的瞬間をここに収めているから。」

とって取り出したのはカメラ。

そして見せられた写真には・・・

デイベインバスターを放つ・・・というかぶっ飛ばしている私が写っていたの。

ハルヒ「ちょっとお話しかしら？」

高町なのはSIDE OUT

.....

高木 速人SIDE

和人「一体誰なんだろうな？ この辺じゃ転生者は俺等三人しか居ないんだろ？」

速人「いや、引越してきた人とかは分からない。」

大樹「あと俺は転生者じゃないからな？」

一体誰なんだろうな和人兄ちゃんを呼んだ奴。

変な用事だったら潰すか。

和人「速人、今やばいこと考えてなかったか？」

速人「別に。考えてない。」

指定された場所・・・屋上に来て見ると一人の少女が居た。

・・・あれは一年生か？ それなら分からないよな。

何の能力持っているかは分からないから慎重にいくか・・・

「あれ？ 私は他の四人も呼んだつもりだったのですが？」

和人「なのは達は別の奴に呼ばれたからここには居ない。」

「そうですか。あ、私はカイラ・神山ノしんざん。」

・・・すごい名前だな・・・

あとどうやらこいつは本当に転生者らしい。判別が出来た。

カイラ「私はただこの世界におきているイレギュラーを調べたいだけです。」

『らき すた』は知ってますよね？」

和人「まあな。で、それがどうしたんだ？」

カイラ「クラスにみなみ・ゆたか・ひよりって居て驚いたんですよ！！」

しかも先輩達がいるクラスは混ざりまくりだし！！」

・・・そこかよ・・・

まさかそこを解明しようとしているとはな・・・許可転生者かな？

カイラ「そりゃ最初は管理局潰すために能力貰いましたよ？」

しかし調べてみたら関わっているのは上層部だけ。ですが転生者らしき人が多いので仲間が欲しかったんです。

それでここに入學したら主人公勢は二年上、しかもイレギュラーの倉庫という・・・」

和人「それは納得だが今は潰す気はないんだな？」

カイラ「こっちに被害が及びそうだったら潰すつもりですが。」

・・・これ位だったら大丈夫か？

今までの和人兄ちゃんと美樹以外は無理矢理なのはを拉致ろうとしたりしていたからな・・・

二年下だがこの人に手伝ってもらえば色々出来るか？

まあ、とりあえず許可・・・かな。

速人「転生者No・・・なあ、ちょっと手を握ってくれないか？」

カイラ「は？ 何ですか？」

速人「いいから頼む。」

大樹「・・・あ、握ってもらった方がいいよ。」

カイラ「あ、はい・・・」

速人「No・・・35、許可・・・」

カイラ「？」

速人「・・・俺は101人目の転生者にして選別係だ。」

カイラ「はあ・・・101人目ですか・・・」

・・・とりあえずこれでいいか？

大樹「あ、言つとくが俺は転生者じゃないから。父さんが転生者だ
けど。」

カイル「え！？」

.....

皆「「黒一文字さん感想ありがとうございます！」」

ボッスンさんキャラ投稿ありがとうございます!!」「」「」

和人「次回は月村家だな。そろそろ更新が落ち始めるが多分大丈夫だ。」

猫耳事件

黒坂 大樹SIDE

直弥「こら、そこ暴れないようにね。」

今俺等は直弥さんの車で月村家に向かっている。

家からは少し遠いんだよね・・・直弥さんすみません。

何かお茶会？　みたいなのをするらしくて。楽しみだね。

美樹「（小声）今日ジュエルシートが発動するはずだけど出て欲しくないわね。」

和人「（小声）そうだな。しかも猫が巨大化するんだろ？」

速人「（小声）そうなのかよ・・・」

和人「（小声）絶対発動するなよ・・・」

何か美樹達が話し合っているけど気にしないでおこっ・・・

前世とか俺には分からないしね。この体だけしか・・・

和人「うつ・・・」

数分後、俺達は月村家についた。

だけど・・・ここ、豪邸にしか見えないよ・・・？

ちなみに和人は乗り物に弱いから少し気分が悪いみたいだね・・・

あ、速人が背中さすったら口からなんか出てきた。

今日は小声で話し合っていたのもあるんだろうね・・・大丈夫かな？

大樹「とりあえず美樹、入ろうよ。」

美樹「それもそうね。ほらいくわよ？」

速人「しばらく待て、和人兄ちゃんがやばい。」

と言う訳で家の中に入っただけ・・・

「にゃー!!」「にゃー。」「にゃ?」「にゃっ!!」「にゃあ?」
「にゃん!」「にー。」

速人・美樹・大樹「……猫だらけ。」

なのは達は居なくて、猫が大量に居た。

しかもこっちに突進してくる……待つて、待つてちょ!?

すずか「あ!?! 大丈夫!?!」

三人「『ダイジョバナイデス。』」

気付いたら大量に乗っかられていた。

重い、重いよちょっと!! どいてよ!!

美樹「猫好きだからいいけどさすがに重いわよ……」

すずか「はわわわ・・・」

は、早くなのは達来てくれないかな・・・

三人＋和人「はあ・・・」

なのは達が来る前に復帰した和人も乗っかられ、なのは達も大変な事に。

・・・俺が化物って分かってるのかなこの猫たちは・・・

ちなみにユーノもなんか追っかけられていた。大丈夫かな？

と、ここまではよさそうな雰囲気だったんだけど・・・

なのはく!?!?>

ジュエルシードが空気を読まずに発動した・・・

なのは「ちょ、ちょっと外行ってくるの!」

アリサ「わ、分かったわ。」

とりあえず俺は傍観だね。いや、『観』もしないか。

黒坂 大樹SIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

高木 和人SIDE

和人・なのは「「・・・あれ？」」

俺等の目の前には猫耳としっぽを生やした人がいる。

「
」

ユーノ<あれ・・・？>

速人「とりあえず見間違いだ、猫耳と尻尾をつけた人がこんな所にいるなんて。」

和人「現実から逃げるな。」

ジュエルシードの反応があつた場所には大きな猫ではなく亜人・・・
というべきか・・・な人が。

こんな所で原作崩壊が起こるなんて俺、聞いてない。

いや前世にはあつたのかもしれないけど最低でも俺は知らん。

一体どうすればいいのか戸惑っている所に金色の光線が飛んできた。

猫耳は見事によけるが今度は影で出来た槍が飛んでくる。

金色は原作通りならフェイト・テストロッサ・・・なんだが影で出来た槍って何だ？

なのは「ちょ！？ 大丈夫ですか！？」

「わっ、すずかさんの友人来たのね！！」

なのはが飛び出していった・・・俺も出るか。

和人「その前にお前は何者だ？」

「え？ すずかさんの所に住まわせて貰ってる猫なのね」

なのは「け、けど人間なの！！」

「それはさっき拾ったこの宝石が原因かな？」

と見せてくるのはジュエルシード。

「これ無しでも大丈夫みたいなのね。必要なら渡すのね。」

何かゼロ魔のイルククウみたいな喋り方するな・・・

なのは「あ、ありがとうなの。」

だが、その直後にあいつ等は来た。

「それ、私達に渡してください。」

この物語の敵であり未来のなのは親友。

そして・・・茶髪の闇使いが。

.....

オリジナルキャラクター名簿一覧、ただし投稿キャラ含む。

05	麻館	一茶／あさだて	いつさ
17	秋山	裕也／あきやま	ゆうや
35	カイラ・神山	／かいら	しんざん
49	青井	元重／あおい	もとしげ
54	近藤	美樹／こんどう	みき
58	高木	和人／たかぎ	かずと
68	草薙	護朗／くさなぎ	ごろう
76	夜神	撫子／やがみ	なでこ
94	宮薙	煉華／みやなぎ	れんか
EX	高木	速人／たかぎ	はやと
	黒坂	大樹／くろさか	だいき
	高木	直弥／たかぎ	なおや
	高木	優香／たかぎ	ゆうか
	高木	愛香／たかぎ	あいか
	高木	木葉／たかぎ	このは

桐月 龍臣／きりつき たつおみ

鹿目 ツカサ／かなめ つかさ

番号が付いているキャラは転生者。なお、12 黒坂／くろさかは抜いている。

皆「「黒一文字さん、妖気さん感想とキャラ応募ありがとうございます！」」
います!!

ジントさんキャラ応募ありがとうございます!!」「」

圭「NOは68、76」

???「ん・・・次回、私・フェイトVS主人公組・・・眠い。」

妖気さんすいません、漢字を勝手に捏造してしまいました。

雷刃襲来 改（前書き）

訂正

雷刃襲来 改

高町 なのはSIDE

「私は男子の方をします。貴方は女の子の方に行ってください。」

「分かった。」

と言うと金髪の女の子の方は私の方に向かってきました。

「その手にあるジュエルシードを渡して。」

なのは「何のために？ それを言ってくれないとどんな理由でも渡せないよ。」

「それは言えない。いいから渡して。」

なのは「ちょ、それって・・・」

理由を聞こうとしたけど全く言わずにデバイスを掲げます。

そしてスフィアって言うものをこっちに飛ばしてくる・・・って待ってよ！！

なのは「ちょっと！？」 言ってくれば手伝ってあげられるかし

れないのに!？」

途中でユーノ君が狼さんに足止めされてしまい、森の中にある川で女の子と二人っきりになりました。

和人君たちなんで来ないんだろう・・・まさかもう一人も転生者!？」

なのは「せめて名前だけでも教えてくれたらいいのに!？」

相手はとにかくこつちに斬りかかってきたりします。

魔法は非殺傷設定でも相手に傷を付けられるからあまり攻撃できない・・・

けど、これ和人君達に教えられなければ気付かず誰かを傷つけていたかもしれないけど・・・

「逃げるな!!」

なのは「そんなこと言っただって無理なの!!」

今はとにかく避けて隙を狙ってでっかいのを撃ち込むという方法を取っているの。

これだったら何回も撃ち合ったりして沢山傷つくことは無いと思っただけから和人君達に護身術やらを習ったの。

御神流も習ったから常人には絶対攻撃は食らわないと思うけどこの子の様に戦闘慣れしているときつい・・・

「ただ・・・相手の隙を見つけた時の動揺でこっちにも隙が出来てしまい・・・」

「取った・・・!?!」

「なのは「それはこっちもだよ。」

私はレイジングハートを相手の首に突きつけていますが、彼女は鎌型のデバイスを私の首に突きつけています。

「つまり・・・相打ちになっちゃいました。ちょっと失敗しちゃった・・・」

なのは「一応すぐに撃つことはできるよ？　そうしたらその鎌で斬られちゃうけど。」

「くっ……」

とりあえずお話（OHANASHIの方じゃなくて）をしようとしたんだけど、黒い槍が飛んできて相打ち状態が切れちゃった……

横を見たらもう一人の女の子だったの……何で邪魔したし。

あっちにはお話じゃなくてOHANASHIをしようと思ったけど逃げられちゃったの。

ただ、その時に私が戦ってた方は私が名乗ると『フェイト・テストロッサ』って名乗ってくれたの。

けど……フェイトちゃん？　は途轍もなく速かったな……特訓受けてなきゃすぐにやられてたよ……

頑張って倒せるように頑張らないと……もうちょっと技を工夫してみようかな。

その後猫耳さんことレノンさんとぶつ倒れていた和人君と速人君と
すずかちゃんの家に帰ったら一緒に来ていたお兄ちゃんたちにめっ
ちゃ怒られたの・・・

お兄ちゃんとは和人君達にも制裁を加えようとしていたからちょっと
『お話』したけどね。

一応ジュエルシールドは回収できたし悪用されないようにしないと・
・

はあ・・・ちょっと災難な日だったの。よりもよってこの日じゃ
なくてもいいと思うけどな・・・

あ、そうそう。速人君の話だともう一人は夜神 撫子/やがみ な
でこつて言つらしいの。

影使いの転生者らしいけど・・・何でフェイトちゃんの方について
いるのかな？

もし私が狙いならこつちで接触すればいいのに・・・あ、あまり関
わりたくない人なのかな。

・・・・・・・・・・・・・・・・

和人「ちなみに猫の名前はリトバスのほうから取ったらしい。」

速人「あ、前のオリキャラリストに訂正がある。青木元重は転生者ではなかった。妖気さんすみません・・・」

皆「「妖気さん、黒一文字さん感想ありがとうございます!」!」
「」

圭「まだまだ転生者他は募集しているからな!」

柊「自分の小説に出しているキャラでも大丈夫です!」

克己「熱くなれよおおおおおおおおお！！」

直也「お前はうるさい！」

海里「落ち着いてください・・・」

日常生活 改（前書き）

訂正

日常生活 改

近藤 美樹SIDE 学校にて

月村家のジュエルシード事件が終わり、現在こっちが持っているのは確か6つ・・・

だけどここの前温泉に行つて来たけど遭遇イベントもなくジュエルシードも発動しなかった。

多分和人達が言っていた『影を操る転生者』の方が回収しているんだと思う。

このままだと原作通り7：8で最終イベントに行くような気が・・・

とりあえず今日は何にも起きないと思うからノンビリ学校生活を楽しもう・・・

前世は死んだのまさかの25歳、大学行ってないからね・・・

美樹「で、土屋、何盗撮しようとしているのよw」

康太「・・・していない。」

美樹「その言葉は頼についた地面の跡と鼻血、後カメラをなおしてから言いなさい。」

康太「・・・何故ばれたし。」

美樹「黙秘権を実行する。」

カメラの電流で分かったなんて言えるか・・・

こいつはそれがなければ私にもばれない位に気配消すのよね・・・

美樹「ちなみに男子で撮った奴等は？」

康太「吉井、木下、直枝の三人。一枚1000円。」

美樹「いらんわ！」

ちなみにいくら分かつとはいえ私が撮られる事もある。チートすぎるでしょ・・・

女子は全員撮影済みらしいがこの頃から商売に走っていたのか・・・

美樹「ちなみに売れ行きは？」

康太「イリヤ、新島、御坂、近藤、霧島、涼宮、姫路、平沢、高良他、色々。男も売れる。」

・・・たまに誰が売れるのか聞いてみるのだが・・・

何故かかなりの確立で私の名前が挙がる。何故にw

このクラスには土屋のように転生者を凌駕する奴が多すぎる。

主に男子は浅月、井ノ原、平野辺り、女子は毒島、仲村、結崎あたりね。

ってか原作の能力があつたらこのクラス敵無しじゃんw 先生スネークだし。

大樹「美樹、帰ろうよ。」

美樹「そうね。」

放課後、いつものように七人で帰る。

親は物心ついたとき・・・というか記憶が戻ったときには居なかった。

大樹の家に居ただけでそこから謎の大災害で黒坂さんは亡くなっ

た。

大樹にオルフェノク能力が遺伝していたのはその時に判明したんだよね。

で、何とか生き延びた所で高木家に引き取られ、和人から転生者じゃないのかといわれる。

黒坂さんや私は転生者だけど大樹は違う、と言っただけで速人が居なかったら信じてもらえなかったと思う。

そのまま成り行きで原作組とも仲良くなった・・・かなり他の転生者に恨まれているような気が。

まあ、能力こそあるけどノンビリすごしたいのよね、私は。

能力でこれを選んだ理由が若干顔つきや性格が御坂に似ているからなんだけど。

・・・ん？　そういえば一年の頃御坂に間違われたわね。

もしかして誰かがわざとこのクラスのメンバーと会わないようにしていた・・・？

和人「考えすぎ、と言いたいけどありえるかもな・・・」

和人に言ってみたら何か真面目な顔になっちゃった・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・

その次の日、まさかの転入生がやってきた。

「鹿目 ツカサ／かなめ　つかさです、宜しくお願いします。」

「青井　元重／あおい　もとしげだ、宜しく。」

この瞬間に速人の方を見たら何か紙を渡してきた。

内容は「転生者っぽいけど違う」。本当なのか・・・？

・・・ただ、大樹の様なパターンを考えると能力をもっている可能性は高いんだよね。

宗一「ん、とりあえず鹿目はあっち、青井はあそこに座れ。」

とりあえず、終盤以外原作通りになるかな？

こう、乱入者が多いと確実にぶっ壊れるから。

だけど、本当にぶっ壊れるとは思わなかった6月のことである。

•

皆「「俺がベジータだー!!さん、黒一文字さん、妖気さん感想
ありがとうございます!」」

圭「また、転生者諸々を投稿してくださった方々もありがとうございます!」

以下 オリジナルイレギュラーのターン。

39 神山 零時/かみやま れいじ

74 七瀬 クレス/ななせ くれす

75 結衣咲 シイ/ゆいざき しい

圭「そういえばさ、作者は困っているらしい。」

柊「え? 何で?」

圭「この作品のキャラを八人作者のレギュラー入りさせようとして
いるらしいが男女比を4:4にしたいらしい。」

和人・速人・美樹・大樹・カイラに投稿キャラの撫子・龍臣ま
では決めたらしいが・・・

つまり、女性キャラで一人入る可能性があるということだ。」

カイ「え？　どうやって決めるんですか？」

圭「それは・・・」

八神はやての姉妹と言う事にするらしい。」

四人「「「な、なんだってー！？」」「」」

圭「来なかったらオリジナルで作るつもりらしいが・・・」

直也「つまりは投稿待ちという事だな？」

圭「ああ。と言う訳で投稿待ってるぜ！！」

同時進行

??? SIDE

僕の名前はクロノ・ハオラオン。

現在僕はちよつとというか途轍もなく焦っている。

数日前に時空の歪に何故か巻き込まれ、来たところは第97管理外世界という所。

この世界にも地球があるのだが僕が来たところは全然違う所だった。

「クロ介働け!!」

クロノ「僕はクロノです!!」

そこは『グラール』と呼ばれるところ。

太陽と三つの惑星と沢山の衛星で構成されている所だ。

はつきり言って管理局よりも文化レベルが高く、その『リトルウイング』と呼ばれるところに運ばれたのだ。

・・・ここを管理外世界に登録した奴は目が節穴だったかここに氣付いてなかったかのどちらかな。

明日当たりに母さんこと艦長が来てくれるらしいけど・・・

「頑張るね・・・」

クロノ「あ、エミリアさんとユートさん。」

この先輩であるエミリア・パーシバルさんとユート・ユン・ユンカーズさんに声をかけられ、仕事である書類整理の続きをやる。

次の日。

クロノ「あ、母さん!!」

昼過ぎに母さんことリンディ・ハオラオン艦長が来た。

リンディ「クロノ大丈夫だった?」

クロノ「はい!!」

・・・向こうの方でエミリアさん達が驚いているけど・・・母さんはそんなに若作りかな?

とりあえずこの所長であるクラウチ・ミユラーさんには話は通し
てあると思うけど・・・

で、『アースラ』に乗り込んだはいいけど・・・

クロノ「何で皆さん来るんですか・・・」

クラウド「そりゃあクロ介が心配だからだろ？」

クロノ「心配されるような年ではありません!!」

クラウド「けどちっこいじゃねえか。」

クロノ「これは元からです!!」

クラウドさんとエミリアさん、ユートさんも乗り込んできた。

クラウドさんは管理局と話すつもりでもいるみたいだけど・・・他の二人がいる理由が・・・

僕達はこの後ロストログリア反応があつたこの世界の地球に向かう。

だけど・・・多分これが運の尽きだったと思う。

まさかここだけじゃなくて地球もあそこまでやばかったとは・・・

クロノ・ハオラオンSIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

宮沢 謙吾 SIDE

謙吾「一、二、一、二・・・」

俺とクラスの平賀・織斑・篠ノ之・毒島はとある市民体育館内にあ
る剣道場にいる。

平賀以外は小一から、平賀は今年からここで剣道の練習をしている
んだよな。

ちなみに剣道場のとなりには弓道場があり、衛宮や間桐、高城や柊
姉に宮本が通っていたような気がする。

気がすると言うのは他にも射撃場とか柔道場とかあるんだよなここ
の体育館。

確か平野とかバカ（二ノ宮）とか仲村とかもいたような気がするし
クラスの半分はここに通っているんじゃないか？

宮沢父「今日から臨時の顧問と一緒に担当する事になる。」

ちなみにここは俺の家が顧問をしている。

こっちに引越してから偶然この募集を発見したから入った
んだよな。

しかし、臨時の顧問って・・・と思ったら桃色髪の女性が入ってきた。

横で平賀が「胸がすげえ・・・」って言ってたが・・・煩惱退散し
る平賀。

とりあえず篠ノ之が胸を気にしていたのを見てしまったことは忘れ
よう、うん。

「あー・・・その、私は八神シグナムという。しばらく宜しくな。」

シグナム・・・苗字はともかく外国人か。髪の色の意味は分かった
んだが・・・

謙吾「篠ノ之、毒島、気付いているか？」

第「ああ、顧問のことだろ？」

冴子「ああ、見ただけで達人なのは分かるのだが・・・

何か、少し切羽詰っていなかったか？」

謙吾「やっぱり気付いていたか・・・」

何か焦っている。

それが何かは分からないんだが・・・一体何があったんだ？

俺たちがそれを理解するのは・・・かなり後になってからだっ
た・・・

直死魔眼（前書き）

遅れてすみませんでした！

ただ、学校が始まったので更に遅くなるかもです。

後、後半の別名・・・「音無最高」。

直死魔眼

????SIDE

突然だが俺は、小さい頃に事故にあった。

何でも飲酒運転の車に撥ねられたらしいが・・・

それ以降、俺と一緒に事故にあったあいつとあいつは特殊な能力を目に宿してしまった。

俺は、色んなものに線が見えるようになり、一度なぞってみたらそのものが粉々になってしまった。

調べてみてもそんなのに該当する超能力はなく、それ以降任意で見る事が出来るようになってしまったためあまり深くは考えていない。

つと、一緒に事故に会った二人は霊を見ることができるとか催眠術がかけられるようになったとか言っていたな。

あ、三人に共通しているのは任意で見れること、その見えたものが『目』によるものだとか分かるということの二つ。

・・・そういえば霊が見えるようになったほうは墓地で起動させた

らトラウマになったとか言っていたような・・・

で、何でもこんなことを回想しているのかと言うと、今日の朝にまでさかのぼる・・・

・・・

俺、音無結弦は小学三年生。

みんなからは小学生に見えないっていわれるけどな・・・

で、さっきの一緒に事故にあったって言うのは日向秀樹と直井文人。

日向が霊が見え、直井は催眠術がかけられる方である。起動時に全員目が赤色になるのは仕様のようだ。

これを知っているのは俺等とクラスのゆり、奏、ユイ、岩沢の七人だけ……のはずだ。

まあゆりと奏も何か能力を持っているとかいっていたけどな……

話を戻すが、俺はいつものように妹の初音（幼稚園生）と買い物に出かけた。

初音は俺の目の能力のみ知っている。何故かと言うと体の中にあつた癌の遺伝子だけ能力で壊したからだ。

一応このことは日向達も知っている。

そして買い物も終わり、さて帰ろうと言う時にそれは起こった。

突然周りがモノクロになって俺と初音以外の人たちが居なくなってしまうんだ。

すぐにこの眼・・・まあ、『魔眼』って呼んでいるんだが、これを起動させて周りを見るとバリアの様なものが張られているのが分かった。

俺はすぐ初音に帰る様に言い、この現象が何処で起こっているのか確かめようとした。

そしたら少し離れた所で桃色と金色、他にも色々な光が飛び交っているのが見えた。

だから俺はそこに走っていったんだが・・・

結弦「・・・高町？」

なのは「音無君！？」

そこにいたのはクラスの高町（コスプレ中？）、バニングス、月村、高木兄弟、近藤、黒坂の七人だった。

そして向こうのほうには金髪の死神コスと茶髪の同年代の女子、それと犬が居た。

そしてその間には見るからに危険な青い宝石があった。

結弦「どけっ！！」

「あつ、それに触らないでください！」

何か茶髪の女子が言っているが気にせずポケットからカッターナイフを取り出し線をなぞる。

するとそれが纏っていた光が一瞬で消え、後にはただの石が残っていた。

結弦以外「」つて、ええええええええええええええええ

ええええ！？」」

結弦「んなつ！？ 何でそこまで驚くんだ！？」

ぶつ壊したら何故か途轍もなく驚かれたんだが・・・あれ、大切なものだったのか！？

だが、この直後俺は早く逃げればよかったと言う思いと初音に家に帰るように言っていて助かったという二つの思いが湧き上がった。

「ちょっと待った！ その“16”人、ちょっと話を聞きたいから武器やデバイスを収めてくれ！」

突然空にスクリーンが浮かび、少年を映し出す。

ただ、一つ気になるのは16人と言う所。高町の肩に乗っているフレットっぽいもの（線が変に見えた）を含めても12人だろ？

もし初音が見つかったとしても13人だろ？ 一体誰なんだ・・・？

・・・

あの後金髪組は闇に隠れるようにして消えてしまい、俺等が残った。

他の四人は初音ではなく棗、涼宮、上条となりのクラスの桐月だった。

初音が見つからなくてよかったと思いながら少年の言われるままに魔方阵？ に乗ったら・・・

結弦・当麻・龍臣「うっつ・・・」「」

ハルヒ「ちょっと気持ち悪い・・・」

少年の言うアースラっていう船にいつの間にか居た。

だが、魔方陣のワープはどつやら車酔いのようなものを引き起こしてしまつらしい。

すまん、少し休ませてくれ・・・

少年ことクロノとエミリア、ユートという三人に支えられるようにして艦長室と言う所に行く俺達。

途中フェレットっぽいものが少年に変わったりしてかなり驚いたな・
・

ま、それよりも一番驚いたのは・・・

「とりあえず、ゆっくりしていつてね。」

見事な和室の中で砂糖やら何やらを大量に入れたお茶を飲む女性、

リンディ・ハオラオンさんである。

和人「は、はぁ・・・」

龍臣「何故お茶に練乳・・・」

クロノ「・・・こればかりは諦めてくれ・・・」

そしてフェレットことユーノの話で大体の流れは読めた。

さっきの宝石・・・ジュエルシードの破壊ってやったらいけなかったのか・・・

そして向こうの二人と一匹・・・一体何なんだろうな・・・

ユーノ「・・・と言うことなんです。」

リンディ「そう、すごく立派なのね貴方は。」

クロノ「だが、同時に無謀でもある・・・せめて管理局の事を知っていたのなら最初から一人で集めようとせず応援を頼めばよかっただろうに・・・」

ユーノ「だって僕の責任だから・・・」

エミリア「だってじゃない！ 確かなのはちゃんを巻き込んだことは悪いけど一人で抱え込むことはよくないよ。」

ユート「仲間はいっぱい居た方がいいぞ！！」

皆（（それ、ちょっと話にあわないよ・・・）（（

この直後、俺は後に語り継がれる『音無版スーパー説教タイム』をやってしまったこととなる。

リンディ「・・・まあ、とりあえずこの事に関しては私達管理局が全権を持ちます。

貴方達はこれからは普通の生活を営んでください。

・・・と言いたい所ですが、心の整理が出来ていないでしょう。

だから明日、これからどうするか考えてください「ちょっとまで、」はい?」

結弦「ジュエルシードって危険なものなんじゃないのか?」

リンディ「ええ、そうですが?」

結弦「じゃあ、リンディさん、二つ、言葉の中に矛盾していることがあります。」

結弦「一つはここは話によれば管理『外』世界だということ。

していないってことは管理局よりも現地の人の方が権力的なものはあるはずだ。」

リンディ「!? 良く分かったわね・・・」

結弦「まあ管理って何だという所もつつこみたいが今は止めておく。」

何故管理外なのに指図されなければいけないんだ。

あれか？ 治外法権か？ 領事裁判権か！？

・・・何でこんな言葉が頭に浮かぶんだ・・・ってそうじゃない。

和人「音無、もう一つはあれだろ？ 『何故危険なのに一日時間を置いて聞くのか。』」

結弦「ああ。もし管理局の方が上だとしても、小学三年にいうことじゃないだろ！！」

まあどつちにしても高町は回収をするとは思うが・・・

リンディさん、貴方とさっきのクロノさん「クロノでいい、一応同い年だ。」・・・まじか。

まあ、クロノとリンディさんは親子であっているよな？」

クロノ「え！？ 何でそれを！？」

リンディ「貴方が最初に『母さ・・・艦長』って言い換えた時から？」

結弦「ああ。

貴方は子供、いや家族を死地に笑顔で送り出せるか!？」

リンディ「!？」

当麻「それは俺も気になっていた。・・・音無、俺もいいか？」

結弦「？」

当麻「あのなあ、まさか、高町達的能力目当てなんじゃないのか？」

正直に言えば俺も特殊な能力を持っている。

もし、それが目的なら「まで、俺からも言いたいことがある。

「ん？ 桐月？」

龍臣「さっき、武装を解除してくれって言ったよな？」

クロノ「ああ。僕は言ったぞ。」

そして、交渉決裂となる最後の一言を龍臣は言う。

龍臣「さっきからここにいる人々を見ていたが・・・

そっちのクロノ、エミリア、ユートを除いて武装解除して
ないじゃねえか!!」

アースラ組「「「?!?!?!?」」」

和人「・・・まあ、最初に言ったがここは管理外世界、勝手に回収
させてもらう。」

そして和人が何か丸い宝石を取り出すといつの間にか魔法陣に乗る
前の場所に居た。

・・・・・・・・・・・・・・・・

文人「音無さん無双タイムー!!」

ゆり「音無君、すごいわね・・・私には出来ないわよ。」

奏「結弦、かつこいい。」

秀樹「音無最高!!」

ユイ「どこの岡崎最高ですか!？」二 動版

まさみ「それを言うなら直枝最高だ。」KEY繋がり

初音「違います! 国崎最高です!!」確かこれが正解

皆「」「ボッスンさん、妖気さん感想ありがとうございます!」「」

圭「まだまだ八神家のキャラは募集しているが学年の変更はありえるからな。」

柊「あ、作者は一番危険な原作崩壊を八神家に引き起こすつもりみたいです。」

直也「ちなみに今のところ以下の二名が投稿された。」

45 八神 さくら／やがみ さくら

48 八神 なるかみ／やがみ なるかみ

克己「ちなみに主キャラ入りはまず無いがはやての『兄弟』もいいぞ！！」

カイ「ついでにSTSのフォワード陣の転生者の兄弟姉妹もいいですよ！！」

竜王召喚

高町なのはSIDE

なのは「ええと・・・確か七つ前後あれば良いらしいから・・・」

今私はジュエルシードの数を数えています。

和人君曰く「海に6つ落ちているから残りを向こうと2で割って七つあればいい。」らしいです。

ええと・・・そういえば何処で入手した物だっけこれ・・・

魔法少女になった日に二つ。神社で一つ。樹木事件の時に二つ。

すずかちゃんの家で一つ。・・・一つ足りない・・・

二回目にフェイトちゃんであったときは音無君に壊されちゃったし・・・

今までの発動の感覚から考えてもうすぐ新しいのが発動するの。

和人君達は「特訓は無理の無い様にな。」って言っていたけど毎日素振り100回を150回にする位良いよね・・・？

和人<すまん、次のジュエルシードに関してなんだがちょっとやりたいことがあるから俺ひとりに任せてくれないか？

いや、戦いと封印だけで来たいなら来ても良いが。>

なのは<！？ 一体どうしたの！？>

和人<ちよつとな・・・>

突然念話が飛んできたかと思うと一人でやりたいって連絡が。

和人君、一体何をしようとしているの・・・何かいやな予感がする・
・

高町なのはSIDE OUT

.....

上の会話から数日後・・・

???SIDE

「こなた、このゲームはどうだ？」

「お、いいねえお父さん。」

現在私こと泉こなたはお父さんと一緒にアニメイトに來ております。

泉そうじろう「よし、じゃあこれ買って帰ろうか。」

こなた「そうだねお父さん。」

お父さんの趣味を見ているうちに私もそういつのにはまりだしたのが小一。

今じゃ大人並の・・・何だっけ、そうそう「オタク」になってしまったのですよ。

・・・誰に言っているんだろう私・・・はっ、これが電波かつ！

と、こんな風にお父さんと買い物をしていただけ途中でお父さんだけ帰った。

理由は近所の友人のかがみんとつかさを見つけたから。

こなた「おーいかがみーん！！」

かがみ「かがみん言うな！！」

私とかがみん、つかさ、それと少しはなれたところにすんでいるみゆきさん、みさきち、あやのちゃんとは仲がいいんだよね。

そつえば従姉妹のゆーちゃんも入学してから友達沢山作ってたねえ・・・

ま、この直後に起こることを考えると全くといって良いほど関係ないけど。

こなた「あ、ありのままに起こったことを話すぜ!!」

『突然世界が灰色になったと思ったたら私たち以外が居なくなっていた』。

かがみ「今回ばかりはこなたのマイペースっぷりが表に出たわね・・・」

つかさ「あ、あれ？ ど、どうなっているの!？」

かがみん、これでもかなり焦っている方なんだけど・・・

一体何が起こったのか本当に分からない。

多分このとき近くで爆破音がなかったら・・・何があったことやら。

・・・ドオオオオーン・・・

こなた「何今の音!？」

かがみ「い、行ってみましょう!！」

こなた「・・・何だろうあれは・・・」

かがみ「幻覚・・・？　つかさ、ちょっと私のほっぺたつねって。」

つかさ「うん・・・えいつ!！」

かがみ「痛ッ！　思い切り引つ張りすぎよ・・・」

つかさ「ごめん・・・」

こなた「だけど、本当に夢とかじゃないみたいだね。」

私達の目の前には赤いポケモンのリザードンのような竜が居ました。
序にクラスの高木兄弟となのはちゃんがいいます。

そして赤い竜は何か蠢いている黒い物体に光球？ をぶつけまくっています。

ある程度するとクラスの高木和人君が出てきて何かを掲げ・・・

「デスペル！」って唱えると何か光が出てきて黒い物体は青い宝石に変わってしまいます。

焦りすぎて説明が敬語になっちゃった・・・

和人「・・・おい、見えてるぞ・・・」

・・・え？

・・・

その後見つかったということでなんか色々説明。

けど魔法少女って・・・男がなったらどうなんだろう・・・

そしてさっきのは召喚獣。しかも有名な竜王バハムート、しかも改
だそうで・・・

なのは「誰にも言わないで欲しいんだけど・・・」

こなた「いや、言うわけないじゃん。どっちみち信じてくれないだ
ろうし。」

かがみ「私も同感。ちなみにこのこと知っているの何人いるの？」

なのは「ええと・・・私たちに上条君、ハルヒちゃん、音無君、桐
月君、棗君かな？」

つかさ「お、多い・・・」

・・・何か更に巻き込まれるのが目に見えているよ・・・

泉こなたSIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高木和人SIDE

さて、これで多分無印は海での事件だけだな・・・

和人「バハムート改、ごめんな。試したいことがあるというだけで呼んで。」

『気にするな。』

試したかったのは召喚系マテリアに発生したというイレギュラー。

簡単に言えばそれぞれが自我を持っているんだよな。

そして喋るし擬人化するし……一体誰得なんだろうな……

バハムート改は俺のお気に入り。擬人化時は龍介ノリゆうすけという名前で呼んでいる。

他のやつも名前は付けているんだが全員個性がありすぎる。

まあそこは順に話していくか……

さて、向こう側はどうするかな？

•

和人「どうやらここに荒らしが来たらしい（2011/9/11）。

美樹「え？ 内容は何よ？」

和人「『死ねよ、と関わっている人全員。』 本文は感想欄を見てほしい。」

皆「「意味が分からん……」」

皆「」「黒一文字さん、霊宮空刀さん、カイクウさん感想ありがとうございます！」

和人「おかしい、たった十何話なのにもうすぐ無印終わるぞ・・・」

六連竜巻

高町なのはSIDE

・・・今思っただけど私達の中に普通の人は全く居ないの。

アリサちゃんは超能力者、すずかちゃんは運動神経とても高いし（お父さん以上？）・・・

で、私は魔法使いで和人君・速人君・美樹ちゃんは転生者、大樹君は半分人外だし・・・

・・・うん、もう何があっても驚かないの、諦めているから。

うん。例え・・・

フェイトちゃんが海に落ちたジュエルシードを無理矢理起動させても、それにクラスの人が巻き込まれても。

和人「なのは・・・何悟った顔してんだ・・・」

なのは「もう・・・どうにでもなれなの・・・」

美樹「だめだこいつ、はやく何とかしないと。」

ええと、現在の状況を説明すると・・・

七つ目のジュエルシードを封印した数日後、海から途轍もない魔力反応があったの。

すぐに駆けつけると明久君、雄二君、康太君、秀吉君、瑞希ちゃん、美波ちゃん、翔子ちゃん、愛子ちゃんが巻き込まれていたの。

いくら今日暑いからってこの日に限って海に来るかな・・・しかも結界は張ってあったのに中に入りっぱなしって・・・

話を戻すけど、海は六つの竜巻があってその中央で何か光っているの。

そしてフェイトちゃんがそれを封印しようとしているの・・・撫子ちゃんもいるけど弾かれているの。

なのは「って昔の私並に無茶すぎなのおおおおおおおお！！」

和人「わっ！？ 突然叫ぶな！！」

とりあえず、どう封印すればいいんだろう・・・

なのは「和人君、どうやって封印すればいいかな？」

和人「俺のつつこみはスルーか、まあいいが・・・」

といって和人君が取り出したのは一つのマテリア。

和人「いまから一撃でかいのを撃ち込む、その瞬間に向こうと協力して封印しろ。」

なのは「え？ 撃ち込むって・・・何を？」

和人「それはお楽しみだ。」

一体何をするつもりなの・・・

高町なのはSIDE OUT

黒坂大樹SIDE

大樹「速く避難を！」

明久「だけど雄二と翔子さんが!？」

美樹「後で助けるから今は逃げて!!」

やられた・・・発動した時霧島が巻き込まれたみたいだ・・・

それを助けるために坂本も竜巻に突撃しにいつて・・・

瑞希「坂本君達は大丈夫なのですか!？」

アリサ「大丈夫じゃなくても絶対助けるから今は逃げて!!」

秀吉「しかしあの竜巻とかは何なのじゃ・・・」

すずか「後で説明するから今はごめん!!」

とりあえず避難をさせて海岸まで先に戻ってきたんだけど・・・

その時に竜巻の中に二人が居るのを発見した。

中央にいることから“目”にはまっただと思うけど・・・

ここは・・・どうすればいいんだ・・・？

大樹「和人ー！ー！！ あの竜巻の中に坂本と霧島が居る！ー！」

和人「な！？」<なのは！ 一つだけさっきの撃ち込みができん！>

なのは<え！？ じゃあそれだけは私たちだけで封印するから他を
お願い！！>

・・・俺は念話は使えないんだよね。

だけど受信は出来るから何の会話をしているかだけはわかる。

って何を和人はやろうとしているんだと思いき空を見上げると・・・

途轍もない衝撃波が辺りを襲った。

黒坂大樹SIDE OUT

.....

高町なのはSIDE

なのは「とりあえず半分こだね。」

和人君の攻撃で竜巻が一つ残して消え、ジュエルシードは封印された。

最後の一つも封印が出来たけど、中に居た雄二君と翔子ちゃんにまでコスプレ？ って聞かれちゃった・・・

何でもみんなコスプレって言うんだろう・・・BJそんなに危ういかな？

フェイト「・・・次会った時は絶対勝つ、そしてジュエルシードを貰う。」

なのは「その前になんでジュエルシードが必要なのを教えてくれないと・・・」

何か宣戦布告されたの・・・

フェイト「その前に貴方は何で集めるの？」

なのは「ジュエルシードでみんなが傷つくのがいやだから!!」

私が集める理由はこれ。ユーノ君から家族、クラスのみんな、近所の人みんなが傷つくのがいやだから。

そして・・・

フェイト「私の理由は・・・」

お母さんの病気を治すため・・・」

そして、撫子ちゃんも言ってくれたの。

撫子「私の命を助けてくれた方を助けるためです。」

それだけ言ってフェイトちゃん達は帰っていったの・・・

美樹「無印終了辺りから物語がどんどん崩れていくわよ・・・」

速人「そして驚きの事実も判明してしまう・・・」

大樹「一体どうなるのかな・・・更新は遅いが楽しみにしていてね。」

圭「八神家の姉妹募集は無印終了で終わりです。」

今回のオリジナルレギュラー・・・

60 パーソナル・インフォメーション

終「後、リリなのSTSの原作キャラの兄弟姉妹の募集はやりませう。」

直也「ナカジマ家、ランスター家、ジェイル陣の三つのうちどれかになりそうだがな。」

克己「一応エリオ以外のフォワードとジェイル（味方化計画）で募集する。」

カイ「一度投稿した人でもいいですが初めての人でもいいですよ！
！ むしろお願いします！！」

時ノ庭園 改（前書き）

プレシアの名前を訂正。

別名『無印終了』。

時ノ庭園 改

夜神 撫子SIDE

撫子「プレシアさん帰ってきました。」

今、私達は時の庭園と呼ばれるところに居ます。

数年前、私が幼稚園の頃は別の次元世界に住んでいました。

ですがそこで大規模な災害が発生し、家族は・・・亡くなりました。

私は歪みのようなものに巻き込まれ・・・時の庭園に。

そこで私のことを知っていたプレシアさんが何を思ったのか私を育ててくれました。

ですがプレシアさんは重度の病気にかかっていたんです。

同年代のフェイトさんと私はどうにかして治そうと思い、ジュエルシードの存在を思い出しました。

これを使えばもしかしたら治せるかと思って・・・

私の命を助けてくれたから今度は私がブレシアさんの命を助けよう
と思ったんです。

何故かは知りませんがアリシアさんとフェイトさんは瓜二つです。

原作ならクローンだから瓜二つでもあってはいるんですが・・・

私が居なくてもこの世界ではFATE計画は実行されないはずなんです。

理由は・・・

撫子「アリシアさん、ただいまです。」

事故でアリシアさんは死んだ訳ではなく植物状態になっているんです。

・・・前世の友人に少しだけ原作を教えてもらったのですが全く役に立っていません・・・

フェイト「アリシア、まだ起きないのかな・・・」

撫子「私はいつか絶対起きると信じています。」

目を覚ますまでどの位かかるかは分かりませんが・・・

「近頃は表情がたまに変わるからもうすぐ起きると思うよ。」

ずっと見ていた結衣咲 シイ／ゆいざき しいさんはそう言っていますが・・・

・・・

次の日のことです。

突然転移反応があり外に出てみるとなのはさん達がいました。

他の物語のキャラクターがいるのは気になりますが・・・

撫子「何のようですか？」

なのは「少しお話に来たの。」

お話・・・まさかOHANASHIじゃないですよ？

プレシア「・・・もの凄い大所帯ね・・・」

和人「・・・最初の一言がそれかよ・・・」

プレシア「ええと・・・私はプレシア・テストロッサ。貴方達は？」

和人「高木和人だ。」

なのは「高町なのはなの。」

・・・この後沢山の人が自己紹介をしたのですが省略します。

プレシア「で、何の用かしら？」

和人「交渉しに来た。こっちが出す条件はあんたの病気を治す手立てを持っている、だ。」

プレシア「！？ 何故その事を・・・なるほど、貴方達は撫子と同じ転生者ね。」

和人「ちよいまで、俺と速人、美樹にカイラ以外は違うぞ。」

・・・まだなのはさんたちは分かります。それ以外のキャラクターに関しては。

ですが桐月君と黒坂君は転生者じゃないんですか。以外です。

当麻「って待て、転生者ってなんだ!？」

和人「知らんではない。」

瑞希「えっと、転生とは一度死んで生まれ変わる事を表しています。」

L

速人「姫路、言っ
て欲しくなかつ
たんだが・・・」

「あなた、転生者はオタクの憧れ！！」

[illegible]

かがみ「・・・カオスだ。」

あれ？　なのはさんたちが驚いていないってもしかして知っていたんですか？

その後話し合っていたんですが・・・突然一緒についてきていた日向秀樹さんが立ち上がります。

結弦「日向！？　どうしたんだ？」

秀樹「今嫌な予感がしたから目を起動させたら死神が見えた！」

そのままアリシアさんが寝かされている部屋へ走っていきます。

和人「・・・アリシアを生き返らせる手立てとして連れてきたつもりだったんだが・・・」

私達も行つたほうがいいですよね？

走っていくと日向さんは何かを羽交い絞めにしています。

よく見ると血走った様な目を二人はしています。怖いです。

・・・あ、日向さんが何かを折りました。

その後アリシアさんの近くで何かを説得しています・・・

そしてそれを抱き上げアリシアさんの上に乗せるように降ろすと・・・

「・・・んっ・・・あれ？ 本当に戻っている!？」

アリシアさんが、起きました。

プレシア「・・・アリシア!？ 起きたの!？」

アリシア「あ、お母さん・・・って私のそっくりさん!？」

フェイト「あ・・・」

あの時どうやらアリシアさんの魂が近くにあったらしく、死神はそれを連れ去ろうとしたらしいです。

それを見た日向さんが音無さんと連携して死神の鎌を破壊、アリシアさんの魂を体に戻したらしいです。

ですが、そんな出来事があつたため・・・

プレシア「アリシア・・・良かったくはっ！」

皆「」「血をはいたあああああああ！」「」「」

プレシアさんの病気の方を忘れていました。

「はぁ・・・何で最初有能力を使う時がこれなの・・・」

和人さんが持つマテリアから出たのは赤い着物を着た苦労人の空気を漂わせた女性。

フェニックスの鳳凰ノほうおうさんらしいんですが・・・

その能力でプレシアさんの病気は無くなりました。

プレシア「ありがとうございます、これでフェイトやアリシア、撫子の写真がバリバリ撮れるわ！！」

撫子「プレシアさん何を考えていたんですかああああああああ！！？」

ちなみにアリシアさんが植物状態になった事故は管理局に非があることがちゃんと判明していてプレシアさんは指名手配されています。

それを聞いたカイラさんは何故かOTLになっていましたが・・・

ハルヒ「とりあえず、備品は持ってきたからパーティーするわよ！！」

恭介「賛成だっ！！」

で、何故かBBQ祭りに。事件解決ということでしょう。

途中前世からの友人であるクレスさんが来てみんな驚いていました
が・・・

更にジュエルシードの反応を追って管理局も乱入。

ジュエルシードを渡したら一個足りないといわれ、音無さんが自分
から「俺が壊してしまった」と目の前で一つ残して全て壊してしま
いました。

それを見たリンディさんがぶっ倒れたのは何というか・・・

そして管理局というかアースラ組もBBQに参加。何ですか。

・・・PSP02のエミリアさんとユートさんがいるのは途轍もな
く驚きました。

しかも主人公ポジションはクロノさん・・・まさかのKYですか。

とりあえず、無印編はこれで完結ですね。

•

皆「俺がベジータだー！さん、黒一文字さん、妖気さん、OOTGLSTSTPBさん感想ありがとうございます！！」

圭「八神家の転生者は募集を次回投稿までとします。正確には九月三十日までです。」

和人「無印がもの凄い終わり方をしたな。」

速人「・・・選別係が崩壊に関わっていいものなのだろうか・・・」

美樹「気にしちゃ体が持たないわよ。」

カイラ「うう・・・管理局の悪を調べ上げていたんですが・・・」

撫子「別のところで使う機会が来ると思うから大丈夫です!!」

カイラ「うう・・・」OTL

大樹「カオスだね・・・」

龍臣「こりゃ・・・なあ・・・」

オリジナルイレギュラー

14 I / アイ

圭「数話はさんでA'sへLet's GO!!」

カイ「転生者他はまだまだ募集します。名前、性格、性別、能力となのはさんたちとの年齢比較（STSのフォワード立場になる場合

があるため）をお願いします。」

柊「STSの原作キャラの兄弟姉妹でもいいよ!!」

直也「ちなみにランスター家のイレギュラーはめっちゃ募集中らしい。」

克己「あ、リリカル以外のメンバーの家族は駄目だからな。」

召喚獣達

皆「「」とつくに一万ヒット記念〜!!」「」

和人「じゃあ、今回はこれで行くぞ。」

.....

高木 和人SIDE

今、俺はとある部屋に居る。

ここは精神世界で召喚獣達が居る所なのだがたまに俺も入り込んでしまう。

この部屋の存在を知っているのは速人位。あいつも入った事があるんだよな・・・

丁度いいな。ここで召喚獣たち全員の擬人化時の名前を言うておくか。

「あ、和人だ〜！」

まず、チョコボ＆モーグリチョコボの方、名前はチョコって呼んでいる。

「・・・」

和人「無言で現れるな!!」

二人目はシヴァの雫／しずく。全然喋らないんだよな・・・

「和人お前、また来たのか!？」

三人目はイフリートの炎魔／えんま。怒りっぱいんだよな・・・

「ふおつふおつふお、元気がいいのお・・・」

和人「じいさんあんたまだ現役だろうが・・・」

じいさんで気付いた奴もいるとは思うがラムウの雷蔵／らいぞうさん。

「今日も元気だな少年よ。」

俺の事を少年というこの大男はタイタンの大地／だいちさん。

「和人、久々だから手合わせでも行くか？」

和人「お断りします!!」

こん戦闘狂はオーデインの斬／ざん。実は斬から馬の乗り方を教えてもらった事がある。

「よう！　こっちに来るのは久々じゃないか？」

和人「あ、辰巳さん。」

この気前のいい人はリヴァイアサンの辰巳／たつみさん。

「かゝずと〜!!」

和人「わっ！　抱きつくなっ!!」

チョコ「ちょっと！　和人さんに抱きつくのは私!!」

「ぼくだ!!」

抱きついてきたのはバハムートの竜／りゅういち。

龍介「和人、やっぱ年下に人気あるよな。」

「そうだな。」

前にも出で来たバハ改の龍介に零式の龍牙ノリゆうがさん。

「みんなどうしたのよ……って和人君じゃない!」

次に来たのがクジャタの迷ノまよいさん。女性。

「全く、マスターは人気あるな。私も見習いたい。」

で、アレクサンダーの聖ノひじりさん。男性。たまに神官と呼ばれる事も。

「和人君！ 今度こそ料理成功したわよ!」

和人「本当か？」

FF7には無いマテリア『ユニコーン』のユニさん。ドジっこ。

鳳凰「事件解決で精神が飛びかけているのか？」

和人「それは無いそれは無い。」

こちらにも前に出てきたフェニックスの鳳凰さん。

後、こっちに出てきてないのがテュポーンの天地ノあまちさんにハ
ーデスのデスさん。

テュポーンは擬人化見たことないしハーデスはよく実験してこ
つち来ないからな・・・

・・・え？ ナイツオブラウンド？

・・・ああ、あれだけはちょっと無理。

だつて13人もいるし円卓の騎士なんか誰も知らねええええええ！！

いや、アーサー王くらいは分かるけどそりゃ。それ以外のやつ
の事だよ！！

龍介「しかし、どん位ここにお前来ていなかったんだ？」

和人「小三になってからは一度も来ていなかったから三ヶ月は経っ
ている。」

ここに来れるタイミングは全く分かって居ない。

転生させた神に聞こうと思っても処罰された後だから分からないん
だよな。

鳳凰「それにしても何で和人についていこうと思ったのか・・・」

和人「ええええ！？ 鳳凰俺なんかした！？」

鳳凰「だって今まで龍介と私以外召喚した事ないじゃないの！！」

皆「「そうだそうだ！！」「」」

和人「待ったあああ！！ 召喚してどうしろって言っただ！！？」

炎魔「戦いだろうがッ！！」

和人「いやいや炎魔、まず召喚獣を出すような戦う場所全く無いからね！？」

何で俺がツツコミにまわらないといけないんだあああああ！！？

そんなこんなで話していたらいつの間にか朝に。

何故分かるかというところちで眠くなってきたからである。

和人「・・・、そつそろ戻るわ。」

チヨコ「えーもっと！ もっと」「ゴンッ！」「痛っ！？」

聖「マスターに迷惑をかけてはいけません。」

・・・聖、仮にも神官がそれだけで肉体処罰は無いと思うぞ・・・

鳳凰「それじゃあね。他のやつも召喚しなさいよ!！」

和人「分かってるって・・・」

そして俺は精神世界から帰ってきた。

・・・

和人「短くてごめんな。後、こんな駄作に10000PVありがと

うな!!」

皆「」「霊宮空刀さん、黒一文字さん、疾風の音さん、ボッスンさん、妖気さん、俺がベジータだー!!さん、月光閃火さん感想や訂正ありがとうございます!!」

圭「今回かなりオリジナルイレギュラーが増えたがまとめて後で出すから待っていてくれ。」

柊「えっと、キャラ投稿に関してルールがかなり追加されました。」

直也「名前、性格、性別、能力、転生者であるか否か、なのは達との年齢比較、一人称、他の作品で使ってよいか、サンプルワードです。」

克己「サンプルワードはキャラに喋らせてもらえばいい。」

カイ「後、メッセージで分かりやすいように『転生者』などの題名にしてください。」

圭「PSPを使っている人は何回かに分けて送ってもいいぞ。」

直也「後、今までキャラを送っていただいた方へ。活動報告に書いてくれた方はいいのですか・・・」

克己「もしキャラを別作品で使ってよいか答えてない奴は感想か活動報告で答えてくれ。」

柊「リリなのSTSメンバーの兄弟姉妹のイレギュラーは良いですが他の作品のは止めてください。」

カイ「後、人によっては出番が殆ど無い事もあります。がご了承下さい。」

現在の力オスクラスの能力状況・・・（括弧内は発覚時期）

上条当麻
1 幻想殺し（小三）

御坂美琴
1 電撃使い（小三）

アリサ・バニングス

1発火能力（小三）

1 直死の魔眼（就学前）

日向秀樹
1 靈視能力（就学前）

直井文人

1 催眠術（就学前）

-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
+	+
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-

古泉一樹

1 発火能力（小二）

この他一部のクラスメイトに能力の予兆が見られる・・・

夏休ノ海

鹿目 ツカサSIDE

和人「夏だっ!!」

なのは「海なの!!」

皆「」「遊ぶぞおおおお!!」「」「」

えっと・・・今僕達は海鳴市の海にいます。

夏休みという事でみんな呼ばれたんですが・・・

あの化物、出ないよね？

ハルヒ「キョン右よ!!」

恭介「いや左だ!!」

京「どっちだよっ!?!」

クレス「そのまま前に進め!!」

香介「・・・おい!　行き過ぎだ!!」

あそこでやっているのはスイカ割りかな?

護朗「キョン、そこで左に回れ!!」

ちなみにいまの立ち位置はこんな感じ。

- - - - -

キ

- - - - -

|| 最初の位置(香介君が言う前)

キ|| 今の京君の位置

|| 進行方向

|| スイカ

つまりクレス君と香介君だけ本当のことを言っただね。

・・・嘘をつくほうが多いってどうなんだろう・・・

まあハルヒさんも一応は本当のことを言ったのかな？

理樹「がつ！？」

海のほうでは理樹君とかが競争やっているんだけど・・・

孝「直枝大丈夫か！？」

何か「俺の・・・明日うつうつうつうつうつ！！」とか言っている人に足場にされたみたいだ。

ああ・・・のびてるよ・・・大丈夫かな・・・

歩「今のやつ一体なんだったんだ・・・」

元春「もう・・・見えないぜい・・・」

こなた「夏だ！ 海だ！ 水着や～！！」

凜「なんで最後だけ関西弁！？」

男子とはなれて女子も泳いでいるみたい。

和・麗「おおおおおおおおお!!」「」

・・・和さんと麗さん、競争張り切りすぎ・・・

唯湖「ふふふふ・・・」

ひよの「これをこうして・・・」

唯湖さん！？ ひよのさん！？ 何をやっているんですか!？

何かめっちゃ激写しているんだけど・・・

宗一「で、鹿目は何をやっているんだ?」

ツカサ「僕はみんなを見ているだけですよ。」

宗一「そうか・・・」

・・・

お昼を回って今三時ごろ。

クラスで参加しているこれは五時までやる予定なんだけど・・・

沙耶「・・・助けてええええええええええ!!」

沙耶さんが突然こつちに走ってきた。

・・・確か飾利さんと涙子さん、耕太君と零時君一緒に居なかったっけ？

沙耶「私は良かったんですが四人が化物に捕まって・・・」

宗「そうか、よし、お前等は絶対来るなよ!!」

沙耶さんの言葉で先生が沙耶さんが居た方向へ駆け出す。

動くなっていわれたけど化物って言葉が聞こえたから例のメモリの奴かもしれない。

とりあえず僕もいこう。先生や四人に何かあったらいけないしね。

だけど・・・その後こんな事になるなんて・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・

『タカ！ トラ！ バッタ！ タ・ト・バ タトバ タ・ト・バ』

ツカサ「変身！」

人の居ない所まで行ってオーズに変身。

突然友達を送ってきたものなんだけど何なんだろうね・・・

最初の変身の時は「一体どうなってんの！？」って感じだったしね。

タトバオーズ（以下TCO）「さて、行こう。」

和人「・・・本当に変身した・・・」

速人「本当に転生者じゃないからな！」

美樹「何度もいわない。分かっているから。」

大樹「・・・俺もやられるのかな？」

龍臣「何で・・・まさかまだなんかあるのか？」

大樹「桐月君は知らなくていいよ。」

こんな会話が近くの物陰であつた事は知らなかった・・・

だけど、現場に着いたとき直感でなんかおかしい事に気付いた。

それを気にしないように現場を見ると・・・

飾利「えっ……」

涙子「何それ……」

耕太「取り込み……!？」

宗一「零時、お前は……」

零時「ばれたか……」

零時君が鳥のような化物を口で言えないような方法で取り込んでいた。

さらに先生が続けるように話す……

宗一「転生者か・・・何人いるんだ・・・」

零時「って先生何で知っているんですか!？」

宗一「いや・・・知り合い（和人・速人・美樹）にいるからな・・・」

零時「友人って誰だよ!？」

転生者・・・？

生まれ変わりの事かな？

宗一「と、そこにいる三色・・・いや、鹿目、お前も出て来い。」

って先生何で僕って分かったの!？

TCO「あの・・・」

零時「うわ！ オースタトバコンボ!？」

宗一「零時は知っていたか・・・後、姿を変えただけではこの俺は騙せんぞ。」

そして先生なんて言いたい事が分かったの!？ エスパーなの!？

そして後ろから来ていた五人と僕は先生に命令を守らなかったから
って正座させられました。

和人「幾らなんでも小学生に正座は無いだろう・・・」

宗一「お前と速人・美樹は違うだろうが。」

美樹「つか先生いつ気付いたの・・・」

宗一「高町やバニングスに話しているところを偶然聞いた。」

速人「おい・・・」

・・・

皆「「妖気さん、霊宮空刀さん、SAKIさん、疾風の音さん感想ありがとうございます！」「」

和人「今回なんでツカサSIDEにしたかというと作者が適当に選んだらしい。」

皆「ええええええええええ！？」

和人「一応次回は夏休み明けからスタートだ。」

殺害現場 改（前書き）

煉華の名前を修正

殺害現場 改

宮薙 煉華 SIDE

夏休みも終わり、二学期です。

何人か宿題やっていなくて鉄人の補習受けているけど・・・ボク？
ちゃんとやったけど？

それにしても、このクラス本当にカオスだね・・・

転入してきた時から思ってたけど何でなのはちゃん達以外がいるんだろう・・・

他に転生者がいるのは知っていたけど・・・他の作品のキャラまでは知らなかったよ！！

いまさら言っても仕方ないんだけどね・・・ボクはただ普通に生きるだけかな。

亮子「宮薙と一緒に帰ろう！！」

友達も出来たしね。前の世界じゃ・・・うつん、止めておこつ。

煉華「ゴメン！今いくから待って！」

ゆり「あ、草薙さんそんなに急がなくてもいいのよ！」

つと、そういえば今日転入生がいたんだった。

えつと、フェイトさんにアリシアさん、赤司 奈々ノあかし なな
さんと千石 照ノせんごく てるさんだったかな？

誰かが原作介入とか言うのをやっているのかな？

後なんでかクロノ・ユーノも転入していたっけ。何で管理局、しか
も通称KY&淫獣まで・・・

なんだろう、無印メンバーほぼ全員集まっているように思えるんだ
けど・・・

沙耶「早くしないと置いて行くわよ！」

煉華「ゴメン、もうちょっと待って！」

.....

その帰り道・・・

さっきの会話から分かったと思うけど今仲村さん、高町さん（亮子さん）、高城さんと一緒。

いつもは今日運動会の委員になって帰れない逢坂さんの五人でよく帰ってる。

ゆり「それにしても運動会か・・・絶対私達が優勝するわよ！！」

沙耶「もちろんよ！！」

煉華「仲村さん気合入っているね。」

ゆり「そりゃそうよっ！！」

・・・小三がここまで盛り上がりを見せているんだけど・・・

メタになるけど作者の所向こうの組に色々取られたらしいね。優勝とか応援賞とか。作者今年中三なのに・・・

実際の話です。向こうの団に色々取られた・・・orz

・・・今電波入ったけど組じゃなくて困ってどういうこと？

ちよつと脱線しちゃったけど会話しながら四人で帰っていたら・・・

突然、周りがモノクロになった。

ゆり「な、何じゃこりゃあああああ！？」

これ、多分結界だね。

ボクは分かるけど何で仲村さん達が・・・？

沙耶「何か嫌な予感がするわね・・・」

と高城さんが言った瞬間少し遠くで爆発音が聞こえた。

亮子「えっ？　今の音は！？」

ゆり「ちよつと行ってみましょう！」

煉華「え！？　仲村さん！？」

仲村さんが行ってしまったのでボク達も走って追いかけた。

そしてその先で見たものって言うのが・・・

元重「・・・何で結界内に人が他にもいるんだ・・・」

クラスの青井君だった。

それだけなら良いけど・・・足元には血塗れの人が・・・

元重「・・・宮薙、まさか・・・転生者か？」

煉華「え！？」

元重「凶星か・・・」

何でつて聞こうとしたけど……それを言い出す前に青井君は持っていたナイフを構えて……

こっちに突っ込んできた。

煉華「つてええええええええええ！？」

避けようと思ったけど後ろに高城さんとかが居てつい能力で壁を作ってしまった。

ボクは良いけど仲村さんたちにまで被害が及ぶ所だった・・・怒って良いよね？

ゆり「何よその壁!？」

煉華「今は聞かないで！！」

元重「闇の壁・・・何度か見たことはあるな。」

一瞬戸惑ったけど青井君は一発で壁を切り落としてしまった。

その間にボクは光の剣を生成して突っ込んできた青井君を止める。

煉華「友達を傷付けようとした罪・・・その身で思い知りなさい！
！」

元重「1意味性の ゲシユタルト・・・崩壊 ブレイク ！！！」

私は剣の光で攻撃しようとして・・・

ゴン！

煉華「痛ッ！！！」

元重「つつう！？ なんだ？」

後ろから殴られ中断させられた。そして頭をさすりながらそっちの方向を向くと・・・

和人「何ケンカしているんだお前等は・・・」

クラスの高木兄弟とか近藤さんとかが居た。

宮籬 煉華 SIDE OUT

.....

青井 元重 SIDE

どういうことなんだ一体・・・

今まで出会ってきた転生者とは違うな・・・

美樹「クラスの何人巻き込まれれば良いのよおおおおお!!」

和人「上条・音無・日向・吉井達・泉・柊姉妹・・・1/3は行つたんじゃないか？」

信じられないがこいつ等も転生者らしい。

高木和人・高木速人・近藤美樹・夜神撫子（千石照）。そして転生者ではないという黒坂大樹と桐月龍臣。

速人は転生者を見分ける能力を持っているらしいが・・・選定者つてなあ・・・

元重「で、俺をどうするつもりなんだ？」

和人「は？ いやどうもしないからな。ただこれからは転生者だからって襲うな。」

と言われてもな・・・俺は信じられない。

ちなみに和人が転生者だと知っているクラスの他の人はかなりいる

らしい・・・

何でもとある話し合いで偶然ばれてしまったらしい・・・よく差別
とかなかったな・・・

とりあえず、この街にあるあの本を探さないとな・・・

・・・

皆「」「霊宮空刀さん、妖気さん、ボッスンさん、黒一文字さん感
想ありがとうございます!!」「」

和人「つと、今回宮薙の回想に出てきた赤司と千石はシィと撫子だ。ただ会話の名前部分は本名で行くからな。」

元重「偽名なんか使う必要あったのか・・・？」

速人「次回の一話をはさんでA、Sに突入する。」

圭「まだまだキャラは受け付けているぜ！！　ただし場合によっては出番が少なくなるかもしれないが・・・」

時任巧「時任 巧ノときとう たくみだ。今回緊急で話があるようだ。」

折原空「折原 空ノおりはら そらです。何でもマテリアルズを募集するつもりらしいです。」

黒石謎「・・・黒石 謎ノくろいし はてな。作者は闇の破片事件でオリジナルのマテリアルを入れるつもりらしい。」

巧「現在作者のを合わせて四人居るんだがもっと募集するつもりらしい。」

空「キャラに関しては普通のキャラと同じように投稿してください。」

謎「・・・『理』『力』『王』『焰』『機』『滅』『氷』以外のマテリアルを頼む。」

巧「ちなみにこの企画はとある作者さんの話で生まれたものだ。」

空「えっと、名前は言えませんがありがとうございます！！」

謎「・・・あ、八神家のは終了した。姉、さくらを主キャラに入れるつもりらしい。」

巧「・・・謎、今日は喋るな・・・」

「ってこらあああああ！！ 我の苦勞を増やす気かあああああ
あああ！！」

魔人視点

??? SIDE

速人「転生者みたいだがあんた、誰だ？」

セン「神宮ノじんぐう セン、能力はネウロの魔人の体だが？」

速人「能力までは聞いていない。」

なんで俺、神宮センがこのような展開になったのかというとしばらく前にさかのぼる・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・

セン「んーっ！ いい天気だな〜！」

昔魔人に転生してから早百数十年。

いつの間にか無印が終了していたという・・・w

・ 管理局潰す時にあの通称魔王まで倒さなければならぬなんてな・

・ この時、なのはが「魔王じゃないよおおおおお!!」と叫んでいたのは別のお話。

セン「とりあえず、遊びいくか!!」

実は管理局を潰そうとした事はあった。

だけど、その時に知ってしまったんだよな・・・

「転生の会」。

転生者とその他で構成されているもう一つの管理局。

転生者は百人もいるから仕方ないといえば仕方ないんだけどな。

だけど管理局側で働いている奴等がいるから手が出せない。

はあ・・・しばらく待った方がよさそうだな・・・

セン「しかし寒くなっただな・・・」

ちなみに今は10月。もうすぐ闇の書事件が起こるな・・・

そういえば聖祥学園の運動会でとんでもない成績を誇ったクラスがあるらしいが・・・何だろうな？

つと、脱線したな。闇の書事件では多分海鳴にいる転生者も対称になるだろうな。

基本的に身体能力や魔力とかが高すぎるし。絶対に狙われる。

セン「困ったな・・・戦わなければ生き残れないか・・・？」

そんな時、結界に囚われた。

セン「ってウエエエエエエエエエイ!？」

見事に叫んでしまったんだが・・・一体どうなってるんだ!？

「アンタ、なんで結界内に入っているの!？」

突然の声に周りを見渡すと一人の幼・・・少女が。

「って、今私を幼女って言おうとしたわね・・・？」

セン「いや、言っていないから!！」

何で分かったんだこいつは・・・

少女は光華という名前らしい。

転生者かどうか聞いてみたら「何で分かったのよ!？」と言われてしまった。

俺もそうだって言っちゃったら納得したけどな。

で、一緒にいたって言う平沢唯、真鍋和、日下部みさお、峰岸あやの、来ヶ谷唯湖の五人を連れてきた。

・ ・ ・
けいおんとらきすたの背景コンビ、それにリトバスの姉御か・

唯「え、何！？ 世界の終わり！？」

みさお「まだミートボール沢山食べてないんだってヴぁー！！」

和「とりあえず落ち着いて！」

・ ・ ・
なんでミートボールなんだ・ ・ ・

その後爆発音が聞こえその方法に行ってみると・ ・ ・

なのは「受けてみて！！ これが私の全力全開ッ！！」

なのはがフェイトに対して魔王砲を撃とうとしている所だった。

なのは「スターライト……ブレイカアアアアアア！」

もう無印終わったよな？　　と思いながら撃たれたブレイカーの後を見ると落下していくフェイトが。

すぐになのはが降りて抱えて降りるんだが……

何か周りの人がやけに多い気がする。

まずフェイトがもう一人いるだろ？　それにクロノと人間体ユーノにアリサにすずか。

ABの音無と日向にゆり、バカテスはFクラス＋鉄人と工藤と霧島。工藤は好きなキャラ……ってそうじゃない。

HOTDの高城に平野、らきすたの泉に柊姉妹……全員小学生っぽいけどな。

それにハルヒと古泉、スパイラルの亮子とあるの上条・御坂・初春・佐天だろ？

リトバスは……棗がいるな。それに見たことない奴も沢山……

「そこ、何やってるんだ？」

セン「え？」

[illegible]

で、話は冒頭に戻る。

何でも話しかけてきた速人ってやつは101人目の転生者らしい・・

なのはとフェイトはどっちが強いのか模擬戦をやっていたらしく偶然俺達が結界に入ってしまったらしい。

ちなみに鹿目が持っているオーズドライバーにめっちゃときめいてしまった俺でもある。

一体こんなもの誰が渡したんだろうな……絶対転生者だろうけど。

セン「メモリの怪物はたしか……ドーパントって言うぞ。」

ツカサと話していたら怪物の話になった。

ツカサ「ドーパントですか・・・けど、特撮であっていた仮面ライダーって・・・」

セン「まあな・・・ってか、その怪物いつ現れた？」

ツカサ「それは・・・あの大災害の日以来です。」

そして大災害って言うのは昔、海鳴で起こった大火災だ。

この辺は特に被害はなかったんだが端っこの方は生存者が殆ど居ない位だったらしい。

けど、大災害でガイアメモリが流行り始めたとはな・・・

大災害にしろ、白騎士事件にしろ、幼稚園生奇跡の生還にしろ、海鳴市は何が起きているんだが。

・・・・・・・・・・・・・・・・

皆「「疾風の音さん感想ありがとうございます!!」」

結弦「白騎士事件は全世界のミサイルがハッキングにより海鳴を狙って発射されたっていうことがあったんだ。

けど、謎の人物の乗った機械が全て壊して被害がゼロで済んだんだよな。」

秀樹「幼稚園生奇跡の生還とは俺等のことだな。飲酒運転のトラックに撥ねられてなあ・・・

何で生き残れたんだろうな俺たち。しかも特殊な目をもってな。」

文人「そしてこれからの物語に関わってくる大災害・・・大樹達はその生存者という話だ。

他の生存者の話では黒い泥だとか色んな話が飛び交っていたな・・・」

ゆり「他にあったのは超能力者事件。これは当人というか私達とお偉いさん達としか知らない事なんだけど・・・」

あの直井君の話に出てきた泥、偶然私と奏ちゃん触れてしまったのよね。そしたら超能力が発芽しちゃって・・・」

奏「ゆり、それ以上はネタバレ。後は行方不明事件。」

超能力者事件で発芽した人たちを狙ってとある戦艦が来たんだけど海鳴の近くで消えてしまったという・・・」

ユイ「他にも色々な事件が海鳴では発生しています。と言う訳で日向！

私のジャーマンズプレックスを受けてみるおおおおおお！！」

秀樹「え？ ギャアアアアアアア ゴン！ ……」

結弦「日向！？」

オリジナルキャラの紹介はここから止めますが、人物紹介と転生番号を更新していくので見てください。

圭「まだまだキャラ募集はやっているぜ!」

巧「マテリアルは『創』『焔』が投稿された。」

空「えっと、『焔』は二度目なので前回の『焔』のマテリアルを『炎』にします。」

謎「・・・おい・・・」

巧「あ、男でもいいからな。」

謎「・・・男・・・だ・・・」

開始ノ音 改

S I D E O F F

12月1日・・・

和人「もうすぐ二つ目の物語か・・・」

なのは「え？　ってことはまた巻き込まれるの!？」

寒い中、なのは達は学校まで歩いていた。

美樹「まあクリスマスまでは無いけどね。」

フェイト「って、クリスマスに巻き込まれるの!？」

零時「正確にはその前後な。」

大樹「怖い事言わないようにな・・・」

結弦「やっぱり俺達も必要になるか？」

煉華「分からないかな。ボクは原作あまり知らないし。」

速人「転生者とかがいる段階で原作意味無いと思うんだがな・・・」

アリシア「えっと、話が掴めないかな・・・」

撫子「アリシアさん落ち着いてください。」

ハルヒ「というかこんな人数で登校しているだけでも狙われるんじゃない？」

転生者陣「それは無いな。」「」

転生者以外「ハモった!？」」

ハルヒの言ったようにかなり人数多めで登校しているのだが・・・

ちなみになのは達はバス停から降りた所で合流した。

そして学校・・・教室にて。

宗一「お前等本当に大人数で来る・・・いつの間に仲良くなったんだ？」

和人「鉄人来るの速っ!!」

宗一「よし、高木兄は今日補習な。」

和人「すみませんでした宗一先生!!」

・・・ここはいつもどおりだろう・・・

だが、みんなが教室に入り、勉強を受けようとした所で・・・

・・・ガタガタ・・・

明久「ん？ 電車の音？」

雄二「明久、この辺に電車は通らないぞ。」

・・・ガタガタ・・・

明久「だけどさ・・・聞こえるんだよ・・・」

宗一「吉井、何喋っているんだ・・・って電車の音？」

ガタガタ・・・

こなた「あつ！聞こえた！！」

なのは「電車の音なの！」

宗一「落ち着け！」

ガタガタ・・・！

京「本当に聞こえるな・・・」

理樹「えっと、何？何の音？」

そして・・・

ガタガタガタガタ・・・ガタガタガタガタ・・・

零時「途切れなくなっただ!?」

光華「どういことなんだ!?」

ガタガタガタガタ・・・

どんだん音が途切れなくなっていき・・・

孝「な、何なんだよこの音は!?!」

裕也「どんだん来ているよ?」

そして次の瞬間、教室がトンネルに入った。

宗一「……今のはなんだったんだ？」

恭介「今トンネルに入ってたか……？」

窓の外がトンネルに入ったかのような風景になったが数秒で消えた。

そして消えた瞬間から電車の音が聞こえなくなった……

シイ「……今の夢じゃないよね？」

クレス「全員が白昼夢を見たっていうこともありえるぞ。」

全員が何がなんだが分からず幻想で片付けようとしたが……

ひよの「あの……私、録音していたんですけど電車の音入ってますよ。」

結崎ひよの、いつも忍ばせている録音機に入っているとってみんなを固まらせた。

大樹「何で録音機なんて常備しているんだあああ!？」

ひよの「禁則事項・・・間違えました、企業秘密です」

一樹「今のどつかで聞いた事あるような・・・」

・・・・・・・・・・・・・・・・

龍臣「俺も聞こえたんだがクラスメートがそんなの聞こえてないって・・・」

カイラ「こっちはゆたかさんやみなみさん、ひよりさんも聞こえてるって言ってましたよ。」

その日の放課後。高木家に和人達が集まった。

偶然直弥も優香も愛香も木葉も居ないためいろいろとゆっくり会話が出来る。

なのは「あれが、和人君達の言う新しい物語なの？」

和人「いや、俺が知っている奴は違う。」

美樹「イレギュラーね・・・速人、あれは転生者の仕業？」

速人「違う。あの現象は俺にも分からない。」

カイラ「あのトンネル・・・どっかで見たことあるんですがね・・・」

フェイト「え？ それって何？」

撫子「そういえば・・・何かのゲームで見たことあるような・・・」

何かのゲームで見たことあるという和人・速人・美樹・撫子・カイラの五人。

アリシア「前世で見たんじゃないかな？」

美樹「多分そうなんだろうとは思っただけど・・・」

ユーノ「・・・いまこの話をしても解決しないんじゃない・・・」

アリサ「確かにそうね・・・後でわかったら連絡しあいましょう。」

和人「それがいいな。集まってもらってすまん。」

すずか「大丈夫。けどもしもの時はお願ひ。」

和・速・美・大・龍・撫・力「もしもって何!？」

しかし、原因分からずで解散となった・・・

物語は、更なるイレギュラーを取り込んで加速する……

•

皆「「妖気さん、SAK Iさん、ディケタスさん感想ありがとうございます！」」

和人「こっから闇の書編スタートだっ!!」

開始ノ音 改（後書き）

追伸

版キャラのマテリアルも良いですがなのは達はだめです。

初期接触 改

??? SIDE

12月に入り、寒くなってきたこの頃。

「すまぬが、徴収させてくれぬか？」

「だが断る!!」

拙者は天皇様を守るためピンク髪的女性と向き合っているで御座る。

徴収とはなんなのかよく分からぬが拙者はただ守るだけッ・・・

「篠嶺 宗戊郎／ささみね しゅうぼろう、参るっ!!」

「私の名はシグナム、そこをどいてもらおう!!」

向こうは炎を纏った剣で来るが・・・拙者には刀があるっ!!

宗戊郎「うおおおおおおおおお!! 天皇家お逃げください
!!」

「えっ・・・けど置いていくわけには「良いから!」・・・うん、
怪我しないでよ!!」

シグナム「ちっ・・・ヴィータ! 追いかける!!」

「分かった!!」

ヴィータとか言う奴が天皇家を追いかけたが・・・拙者はこやつだ
けでも倒す!!

篠嶺 宗戊郎SIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

???SIDE

ズーツ・・・

「・・・いつも持っているけど中身無くならないのかな？」

「そのたんびに継ぎ足しているからな。」

ズーツ・・・

「え・・・そんな所見たこと無いけど？」

「そこは企業秘密だ。」

ズーツ・・・

「ちなみに何を入れているの？」

「緑茶。」

「「あ、そう。」」

「なんでそこだけ何も感じないんだよ・・・」

俺、麻館一茶はクラスの秋山裕也と香谷走輝の三人で歩いている。

さっきの会話で最初に喋ったのが走輝、次に俺、五つ目が裕也だ。

ちなみに飲んでいるものは湯飲みに入れた緑茶だ。

最初に、俺は転生者だ。

偶然海鳴に引っ越してきて主人公のクラスに入っただけなのに……
何で別作品のキャラがいるんだよ。

気付いたらどの作品にも出てきて無さそうな二人と仲良くなったんだが、こいつ等も転生者か？

まあ、気付いたら友達になっていた。俺はそれで良いんだけどもし本当に転生者で介入を狙っていたら……

と、そんな時。

「待てえええええ！」

突然結界が張られたかと思うとどう見てもヴィータにしか見えない奴が小さい女の子を追っかけていた。

裕也「何あれ？」

走輝「と、とりあえず助けないと！」

「茶だ。だな。めんどいがやるしかない。」

俺だけじゃなくてこいつ等も結界内に入っているのか・・・本当に転生者みたいだな・・・

「茶「おい、そこで何やってるんだ？」

「ヴィータ、なっ！ 結界内に人間！？ 管理局か！」

裕也「管理局？ 何それおいしいの？」

走輝「秋山君冷静すぎるよ!!」

少女の方は見たこと無い……いや、ありや二年下の篠嶺 由貴／

ささみね ゆきだ。

何で知っていたかは聞くな。俺だって分からないんだからな。

由貴「た、助かった・・・？」

裕也「待ってて！ 今僕が助ける。」

やっぱり篠嶺だな・・・何で結界内に入っているかは後で聞くとし
て・・・

ヴィータ「んなっ!？」

裕也が飛び出していったかと思うと髪が金髪になった。

そのまま篠嶺を抱えてこっちまで戻ってくる・・・

・・・ザク。

一茶「がはっ・・・」

突然胸から手が生えた。横を見ると走輝の胸からも出ている。

そして気を失う前に見たものは・・・

「はやく徴収して！」

一茶「ア・・・クセ・・・ル？」

仮面ライダーアクセルだった。

麻館 一茶SIDE OUT

??? SIDE

「後は君だね。」

裕也「徴収・・・」

僕の目の前にはサイヤ人が一人。

さっきの女の子は逃げちゃったからこの人からでも取らないと。

転生者はかなり魔力多いからね。

サイヤ人はトリアルで勝てるか分からないからこの二人の能力を借りよう。

えっと・・・アルファ・ステイグマと瞬足・・・瞬足の方をおう。

「ゴメンね。」

といって虚空からカードを取り出して・・・

裕也「がはっ・・・アクセルトリアルじゃない・・・？」

カードに瞬足の方の能力を入れてそのまま起動。

これはハイパークロックアップ並の速さになるみたいだから・・・

「こっちも速く徴収して！」

「待つて！ こっち終わってないのよ！」

・・・シャルさん速くお願いします・・・

ヴィータ「そろそろ止めないと管理局が来るな・・・」

シャル「・・・さくらちゃん今日は止めましょう。」

「そうだね・・・この三人には悪いけど・・・」

はやてのためには必要だし・・・ね・・・

原作の展開だけは止めるけどやっぱり徴収は必要だしね・・・

八神 さくらSIDE OUT

篠嶺 由貴SIDE

由貴「・・・という訳なんです！」

「分かった。とりあえず現場に行くしかないだろうな。」

あの後逃げて宗戊郎の所まで来たけど途中でピンクの人は逃げちゃったらしい・・・

だからあの人たちを助けようとさまよっていた僕が会ったのは直枝理樹さんと鳴海歩さんだった。

理樹「他の人も消えちゃったし・・・速く行かないと・・・」

歩「篠嶺、道は覚えているだろうな？」

由貴「あ、うん・・・こつちです！」

現場に着いたときに見えたのは倒れている三人だけだった・・・

由貴「遅かった・・・のかな・・・」

歩「いや、まだ息はある！ 速くどっかに運べば・・・！」

その直後・・・

「待ったッ！ 普通の病院に運んだらまずい！」

歩「大樹！？」

突然現れたのは・・・鳴海さん達の知り合いだった・・・なんで？

理樹「えっ？ 和人君に美樹さん・・・いつもの！？」

和人「って直枝に鳴海かよおおおお！」

とある地下病院・・・伊坂 真紅郎／いさか しんくろうさんの所で三人が治療を受けている間に私達は自己紹介する事になった。

・・・

皆「黒一文字さん、霊宮空刀さん、俺がベジータだー!!さん、妖気さん、疾風の音さん感想ありがとうございます!!」

和人「最後に出てきた伊坂さんの話なんだが・・・

最初であつた時どう見てもWの井坂深紅郎だからびっくりしたんだよな。」

美樹「で、私が電撃食らわせたのが始まり。転生者について色々調べていたみたいなのよね。」

大樹「で、いつの間にか仲良くなつたんだよな・・・」

事務隊長

神山 零時SIDE

煉華「ついに原作始まったね……ボク、生き残れるかな？」

零時「さあな。しかし三人も一気にやられるとはな……」

光華「ふん、どうせ弱かったからだろう？」

零時「いや、一人がやられた奴の能力コピーしていたらしい。しかもアクセルだったらしいぜ？」

光華「なん．．．だと．．．」

ツカサ「と言う事は……僕じゃないと対処できないかな？」

零時「多分な。この五人じゃ煉華とツカサは良いけど俺や光華、元重がやられたらやばい。」

煉華「え？　そういえば青井君の能力って結局なんなの？」

元重「触れたものの崩壊。出来ないものは無い。」

煉華・光華「ええええええええええ！？」

俺等は今五人で帰宅している。

理由は昨日一茶・裕也・走輝の三人が襲われたからだ。

速人の話じゃ一年の由貴って言う奴を助けるためにやられたって言う話だが・・・

まあ、そんな事もあるから集団下校。

しかし・・・このクラス何人転生者居るんだろっとな・・・

「零時・・・やっと見つけた・・・」

零時「ぬおっ！？ 結界って玲人兄ちゃん！？」

煉華「え？ 兄ちゃん！？」

突然周りが結界に覆われたかと思うと兄ちゃんが現れた。

ツカサ「誰？」

玲人「俺は神山玲人。零時の兄さ。」

零時「なあ兄ちゃん、何で今来たんだよ・・・」

兄ちゃんが現れた理由は分かっている。そのため兄ちゃんとは一緒に住んでいない。

だつて・・・な・・・

玲人「今日こそはお前を殺す。」

煉華・光華・ツカサ「「「つてええええええええええ！？」」「」」

元重「兄弟ゲンカか。」

兄ちゃんは転生してから俺を憎んでいる。

普通に死んだ俺と違って兄ちゃんは・・・周りに不要扱いされて自殺だからな・・・

零時「せめて、後ろの四人が居なくなっただけからでも良かったんじゃないか？」

玲人「知るか。目撃者が居たら殺すだけだ。俺は死んでもかまわないからな。」

と言うと電気を貯め始める。

兄ちゃんはある意味御坂の超越版だからな・・・って危ない！

零時「逃げるッ!!」

玲人「断罪の雷に・・・撃たれる!!」

兄ちゃんは雷を前進に貯め、ポケモンのボルテッカーっぽい速さで突っ込んでくる。

普通だつたら逃げるかなんかするが後ろに人がいるからな・・・駄目だッ！！

・・・ブワッ！

・・・え？

神山 零時SIDE OUT

????SIDE

・・・うまく行ったようですね。

玲人「んなつ！？　消えやがった！？」

目が覚めたと思ったら周りは白黒、しかも少年がボルテッカーをす
るなんて・・・

零時「一体・・・どうなったんだ？」

「大丈夫ですか？」

煉華「あ、はい。ボクは大丈夫です・・・」

三人の少年と二人の少女。

狙われていた少年は少し服がこげているから間髪だっただようす
ね。

和人「大丈夫かー！？」

ツカサ「あ、和人君！！」

どうやら助けが来たようですね。

えっと・・・どういことなのでしょう？

体まで・・・縮んでいます。

ナギSIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

ユーノ・スクライアSIDE

この地球にある有名ゲーム『ポケモン』。

いまはハートゴールドとか言うものまで出ているけど・・・

それのとあるカセットに出てくる・・・

ナギ「一体・・・何が起こったのですか？」

和人「いや、俺に聞かれても。」

えっと・・・ヒマワキジムリーダーのナギという人らしい。

あの後結界が解かれたけどナギさんの服装は目立つから和人の家に避難したんだ。

何でももといた世界で突然空に吸い込まれたんだとか・・・

で、気付いたらあの場所で倒れていて零時達を助けるためにポケモンを出したんだとか。

えっと・・・確かオオスバメだったかな？ 五人も一気に掴んで飛ばなんてすごいな・・・

美樹「で、ナギさんどうする？」

ナギ「え？」

美樹「だって今は私達と同じくらいだし外に居たら補導されるわよ？」

ナギ「で、ですが……」

光華「では、私が情けをかけてやろう！ 義姉妹になるがよい！」

ナギ「ええええええええ！？」

何か思想している間に話が進んじやっているんだけど……

龍臣「おいおい……まあ高木家は兄弟多いしな。」

撫子「私のところもいいですがプレシアさんが……」

ナギ「黒羽さんお願いします！」

・ ・ ・ プレシアさん ・ ・ ・ 何をしたんだ ・ ・ ・

光華「お、おう、分かったから土下座だけは止めてくれ！」

[illegible]

和人「ここに二枚のネタバレ情報がある。」

美樹「内容は何よ？」

和人「一つは何でナギにしたのか。」

速人「どうせ作者が宮崎出身だからだろ？」

和人「速人何故分かったし。」

大樹「当たってたのかよ！！」

和人「もう一つはこれだ。」

『麻館、秋山、香谷、草薙、黒羽、宮薙、鹿目、青井、神山、篠嶺
に共通点を持たせる。』

皆「「「・・・は？」」「」

和人「これ以上は完全にネタバレだから話さない。」

皆「「「おい！」」「」

圭「あつと、キャラ募集はめっちゃ続けているぜ。」

柊「前にも言った様に名前、性格、性別、能力、転生者であるか否か、なのは達との年齢比較、一人称、他の作品で使ってよいか、サンプルワードをお願いします。」

直也「まあサンプルワードは無くてもいいがな。」

克己「人によつては能力を少なくしたりもするからな。そこは了解してくれ。」

カイ「ちなみにリリカルSTSの兄弟姉妹は良いですよ。」

巧「マテリアルの方はリリなの以外のキャラでもいい。」

空「オリキャラに関しては作者（銃王）のか自分が投稿したものだ
けにしてください。」

謎「・・・扱いが悪くても文句は言っな。」

巧「ちなみに登場人物は何話かに一回更新するからな。」

空「えっと、和人さん、速人さん、美樹さん、大樹さん、カイラさ
ん、龍臣さん、撫子さん、さくらさんのマテリアルと、

零時さん、当麻さんのが現在投稿されています。」

謎「・・・なのは達三人のは無論駄目だ。」

巧・空「黒一文字さん、月光閃火さん、ボッスンさん無茶なお願いを聞いて下さりありがとうございます!!」

謎「・・・次回にFATE陣がやっと出るかもな。」

第二視点

時間を戻して吉井 明久SIDE

雄二「クラスの奴が暴行に襲われたのか・・・明久、気をつける。」

クラスの一茶君、裕也君、走輝君の三人が何かに襲われたらしい。

こなた「世の中も物騒になったもんだねえ・・・」

だから僕たち・・・僕、雄二、ムツツリーニ、秀吉、こなた、かがみ、つかさ、みゆきさん、士郎君、慎二君は一緒に帰っている。

見舞いに行ったら他の転生者に襲われたらしいけど・・・士郎君とかは知らないしね。

康太「・・・もし会ったら明久と慎二をおいて逃げる。」

明久・慎二「ちょっと待ったアアアアアア!!」

明久「置いて行くなら雄二でしょそこは!」

慎二「坂本ならやられても絶対死なないしな!」

雄二「明久、間桐、殺されたいか?」

なんて会話していたら、結界に囚われた。

秀吉「 やられたのじゃ!! 」

みゆき「 え!? 一体これははなんですか! ? 」

士郎「 周りが・・・モノクロに・・・ 」

やばい、僕たちは分かるけど士郎君たちも意識せずに入ってしまう人みたいだ!

とにかく落ち着かせようと秀吉やかがみが抑えているけど・・・

零時「 逃げるッ!! 」

玲人「 断罪の雷に・・・撃たれる!! 」

突然零時の声が聞こえたかと思ったら少し離れた所で光があがった。

そっちの方向に走っていくと零時に似た人が周りを見て「んなっ！
？ 消えやがった！？」って叫んでいた。

雄二「なんだなんだありや・・・」

みゆき「神山君に兄弟っていましたっけ？」

士郎「俺に聞くな・・・」

玲人「おい、そこ何を見ているんだ？」

なんて会話していたらばれた。やばい。

雄二「5 , 4 , 3 , 2 , 1 , 0 ! !」

明久「逃げろおおおおお！！」

玲人「逃げるなあああああ！！」

そんなこと言われても逃げなければ生き残れないよ！！

.....

玲人「はあ・・・あいつ等何処行きやがった・・・零時も見失うしな・・・」

逃げていたら小さい女の子が現れて物陰に避難させてくれた。

なんでもこなたの従姉妹の友人の由貴ちゃんって言うみたいだけど・
・

何か人が倒れていたから看病していたら結界に入っちゃったらしい。

由貴「吉井さん達も和人さん達の秘密知っているんですね。」

明久「うん、まあね。」

ちなみにこの子も転生者らしく、僕達のことは和人繋がりで知っらしい。

みゆき「て、転生者って・・・」

士郎「生まれ変わりが・・・なんでさ？」

慎二「しかも僕たちの未来を知っている人が多いって・・・」

うん、三人は見事にテンバっているねw

看病している人は僕たちも見ただけどっかで見たことある顔だった。

だけど僕たちと同じ位なわけがない・・・うん、見間違いだ。

・・・

だけど次の日、見間違いじゃない事が判明した。

凧「く、黒羽 凧ノくれは なぎ。よ、宜しくお願いします!」

転入して来た人がポケモンのナギそつくりだったから。

しかも黒羽さんの姉妹と言う話なのにだれも見なかったことないから確定かな？

まあ、ここは雄二が教えてくれた事だけだね。

「あーさみー・・・」

凧「そんな格好だからですよ・・・トウキさん。」

あそこに倒れていたのはナギと同じホウエンのムロジムリーダーのトウキ。

ナギはポケモンを持っていたけどトウキは持っていないらしい。

ちなみに昨日の零時を襲っていた人は零時の兄の玲人って言う人らしい。

今は関係ないけどなんか話さないといけない気がする・・・

和人「しかし・・・トウキさんも学校通わないと補導されるな・・・」

トウキ「ちよつとまったあ!？　なんで俺が小学校なんかに!？」

何かいつの間にかこれからどうするかに変わっていた。

けど、確かに平日に外にいたら補導されるよね・・・

みゆき「ですが、今の背丈だとどうしても・・・」

トウキ「そうだけだよ・・・戸籍とかこっちにはないんだろう?」

由貴「あ、いま宗戊郎に聞いたらOKって出たよ。」

って仕事速いよ由貴ちゃん・・・転生者でもそれはないでしょ・・・

・・・

宗一「今日も一人転入生が来た。」

士郎（本当に入るのか・・・今日からってどういうことなんだよ・・・

トウキ「あー、篠嶺 冬季／ささみね とつぎ、世界のビックヴェ
ーブに乗る男だ!!」

事情を知っている組（（なんて説明しているんだこの人はあああ！？）（？）（？）

で、まさかの次の日から入ってきた。入学試験とかどうしたんだろ
う・・・？

「というかこの調子だともっと入ってくるんじゃない？」

•

皆「『ボッスンさん、霊宮空刀さん、疾風の音さん、妖気さん、黒一文字さん感想ありがとうございます!!』」

圭「つーわけでとある投票を開始する。」

柊「好きなポケモン、またはジムリーダーを書いて下さい!」

直也「ポケモンは集まった中から作者の独断と偏見で決めるがな。」

克己「あー、ジムリーダーとあるが下に書いた人が対象だ。」

カイ「後、転生者他の募集も継続しますよ!」

投票対象キャラ・・・

マチス・エリカ・ナツメ・キョウ・ワタル・ハヤト・ツクシ・アカ
ネ・マツバ・ミカン・イブキ

ツツジ・アスナ・センリ・フウ&ラン・ミクリ・ダイゴ・ヒョウタ・
ナタネ・スモモ・スズナ・デンジ

ポッド・コーン・デント・カミツレ・フウロ・イツキ・リヨウ・オ
ーバ・シロナ

年配キャラとデント以外の主要キャラは抜かせていただきました。
カトレアは後で名前が被る人が出てくるので・・・

巧「マテリアルも継続して募集するぞ。」

謎「・・・計１７人以上は欲しい。」

空「宜しく願います!」

改造野郎（前書き）

題名 o r z

改造野郎

平沢 唯SIDE

唯「ごめん、待った？」

「うっん、私も今出たばかり。」

学校帰り、私と和ちゃん、すずかちゃんは妹の憂とその友人の桜ちゃん、あずにゃん、鈴ちゃんと校門前で待ち合わせしていた。

鈴「もう恭介とか行っちゃったぞ！」

唯「ごめん、ちょっと予定が込んじゃって・・・」

今からすずかちゃんの家に行って猫を見る約束なんだよ。

猫屋敷って言うけどどんなものなんだろうね？ 行った事無いから分かんないよ。

恭介「おい、若干遅いぞ！」

唯「ごめん・・・」

恭介「いや、良いんだけどよ。」

すずかちゃんの家に着いたら恭介君、理樹君、真人君、慎二君、士郎君、凜ちゃん、イリヤちゃんがもう来ていた。

本当は謙吾君と唯湖ちゃんも来る予定だったんだけど何か予定があるとかで・・・

唯「じゃあえつと・・・お邪魔します!」

皆「」「速っ!」「」

唯「可愛い〜!」

確かに猫だらけだ! みんなとても可愛いよ

和「こらこら唯・・・多いわね。」

すずか「気付かない内に増えている事もあるから・・・」

凜「それ、どつかで新しく産まれてるんじゃない・・・」

すずか「多分・・・」

だけど、ここで一つ鈴ちゃんが爆弾を投下した。

鈴「ん？ レノンはどこだ？」

皆「レノン？」「」

鈴「ああ、特に可愛がっていたやつなんだが・・・」

すずか「あ、えっと・・・」

すずか「ちゃんは何かつろたえているけど・・・逃げたのかな？」

だけど、それ以上話は続けられなかった。

突然目に見える殆どのものが白黒になっちゃったから。

平沢 唯SIDE OUT

.....

月村家近く・・・

???SIDE

いっつ・・・ここ何処だ？

「やっと起きたな・・・」

何か目の前に俺と同じくらいの小学生が・・・同じくらい？

ちよつと待て・・・俺の体縮んでいやがる！？

「おい！　ここは何処なんだ！？　そしてお前誰だ？」

「ぬおっ！？　突然だなおい！　　というか名前は聞いた方から言うのが普通だろ？」

「それもそうだな・・・俺はデンジ、ナギサジムリーダーのデンジだ。」

目の前にいた奴の名前は草薙　護朗と言らしい。

で、ここはウミナリとか言っらしいが・・・そんな町あったか？

と思つたら俺や俺が住んでいたところはこの世界じゃ架空の人物らしい。平行世界とかいうものなのか？

まあ、身長縮んでいるしばれることは無いか・・・

護郎「しかし、ナギ、トウキと続いてデンジか・・・」

デンジ「その二人は誰だ？」

護郎「こんまえ二日続けて転入してきたやつなんだが・・・

どう見てもハウエンのジムリーダーそっくりなんだよな・・・

」

ジムリーダー・・・俺と同じ状況かもしれないな。話を聞いてみるか・・・

なんて思っていたら、周りが白黒の空間になった。

デンジ「なんだこりゃあ!？」

護郎「落ち着け!」

デンジ「落ち着けじゃねえよ! 何で落ち着いていられるんだ!？」

何で護郎は落ち着いていられるんだ？

和人「またかつ！」

デンジ「うわっ!？」

その直後沢山の小学生がこっちにやってきた。一体なんなんだこの世界は!？

・・・・・・・・・・・・・・・・

その後「またかつ！」って叫んだ和人っていう奴の家に来た。

その時に別方向からも沢山来たんだが・・・何か一人猫耳が混じってたぞ？

何でもレノンって言う名前らしいが・・・元は猫らしい。

とある事件で人になったって言うんだが・・・鈴って言うやつが目をキラキラさせていたぞ？

後、和人に似ている速人って言う奴は倒れていたって言う二人をどっかに連れて行ってた。

ハルヒ「・・・何かキヨンに似ているわよね・・・」

デンジ「キヨンって誰なんだよ・・・」

最初の方は俺の話じゃなくてキヨンっていう奴の話になった。

何だよッ！　ってツツコミを入れたくなっただが止めておいた。

だが、この直後もの凄い事を知る事になる。

風「デンジもあの雲に吸い込まれたんですね？」

デンジ「あの雲？ 俺は地震でジムの下に落ちただけだが？」

凧・冬季「えっ！？」

ナギの話では二人は空に突然現れた大きな雲に吸い込まれただけらしい。

俺は地震でジムの足場が無い所に落ちただけなんだが・・・やけに深く感じたんだよな。

なんて話をしていたら・・・速人がポケモンを連れて帰って来た。

デンジSIDE OUT

篠嶺 冬季SIDE

冬季「なっ！？ ラティアスとラティオス！？」

凧「速人、その二匹どうしたんですか！？」

転生者狩り？ に襲われたと見られる二人を伊坂の所に届けにいつにただけなはずだが・・・

傷だらけのラティアスとラティオスを連れて帰ってきた。

速人「良いから傷薬もってたら使ってくれ！！」

『あ、あのありがとうございます！』

偶然こつちに来たときに傷薬を幾つか持っていたのが良かったな。

今喋ったのはラティアスの方だ。テレパシーって言うやつだろう。

『ってここに私と兄さんと同じ世界の人が・・・すいません！ ちよつと聞いてください！』

冬季「同じ世界の奴って俺とナギ、デンジの事か？」

ラティアスの話だとあるポケモンが暴走したらしい。

その暴走でシンオウの神と言われるディアルガとパルキアと一緒に暴走。その結果こうなっただろう。

俺・ナギとデンジの直前の記憶が違うのは世界の崩壊に頭が耐えられず記憶を書き換えたかもしれないという事。

で、二匹はこの世界に来たそいつを探し出し倒す事らしいが・・・
返り討ちにあっただろう。

冬季「何のポケモンか分からないのか？」

和人「特徴を言ってくれば俺等が分かるかもしれないからな。」

『それが・・・』

全部影からの攻撃なので分からないんです・・・』

和人「それ、殆どの確立でダークライじゃねえか!!」

美樹「次点でギリティナ、ゲンガーということもあるけどゲンガーは無いわね。」

ゲンガーは聞いた事あるけどギリティナとダークライって何だよッ!

真紅郎「とりあえず俺のところにしばらく泊まれ。人外対策もしているからな。」

という事で伊坂の家に二匹は泊まる事になったんだが・・・大丈夫なのか?

っと、問題といえbaumう一つあった。

レノン「え? 私がどうかしたのかな?」

和人「何でアンタまで来ているんだよ・・・」

レノン「結界が張られたから出てきたのね！」

レノンという猫の事だ。

前にあったとある事件で人型になったって言う話だが・・・

鈴「レノンが人間にレノンが人間に・・・GJだっ!!」

恭介の妹がテンバツテいるが・・・まあ関係ないだろうな。

凜「ちよっ、そんな魔術聞いた事ないわよ！」

イリヤ「そうよ!! 一体何を・・・はっ！」

皆「「魔術?」」

凜「うっ! しまった!!」

ちよつと待て、魔術って何だよ・・・!?

冬季「もしかして何か隠しているのか？」

凜「・・・士郎、慎二、桜、ゴメン。」

三人「「えっ!？」」

慎二「って話す気なのか!？」

何でも五人・・・いや、慎二と桜は兄妹だから四人の家は魔術の家系らしい。

で、60年周期で起こる聖杯戦争？　っていつのに逢坂・間桐・アインツベルの家は関わっているらしい。

士郎は父親がその関係者らしいが・・・どういうことだよおい。

真人「なあ、何でそんな事黙ってたんだ？」

皆「「いや、それ普通だろ!」「」「」

憂「戦争・・・なんでこんなものが・・・」

凜「話によれば前回から海鳴で開催されているけどその前は冬木っていうところであつたらしいわ。」

慎二「確か・・・前回のは誰も願いを叶えていないって話だけど・・・」

・・・何か嫌な予感がするな・・・

•

デンジ「草薙 電磁／くさなぎ でんじ。特に無い。」

そういえば試験とか受けてないけど大丈夫なんだろうな？

皆「「霊宮空刀さん、ディケタスさん、妖気さん、izumiさん感想ありがとうございます!!」」

和人「これから一気に更新スピード落ちると思う。すまん。」

和人「おい、これでクラスで知らないの誰だ？」

速人「香介、一夏、京、孝、元春、才人、火澄、謙吾、アイズ、ユイ、まさみ、箒、黒子、理緒、奏、冴子、麗、ひよのだ。」

美樹「18人・・・66人だから1/3切ったわよ？」

圭「まだまだ投票続けているぜ!!」

投票対象キャラ・・・

マチス・エリカ・ナツメ・キョウ・ワタル・ハヤト・ツクシ・アカネ・マツバ・ミカン・イブキ

ツツジ・アスナ・センリ・フウ&ラン・ミクリ・ダイゴ・ヒョウタ・

ナタネ・スモモ・スズナ

ポッド・コーン・デント・カミツレ・フウロ・イツキ・リョウ・オ
ーバ・シロナ

柊「ちなみにこの調子であればフウ&ラン マツバになります。」

巧「マテリアル、受け付けているぜ。」

謎「・・・今回は『笑』が追加された。」

空「なんですかそれ!？」

鍵ノ言葉

S I D E O F F

とある場所に『何か』がいた。

『何か』は目の前に手をかざすとパネルが現れる・・・

そこには和人達を含む24人の人間が載っていた・・・

『アカシックレコード・・・ここまで有効だとはな・・・』

『何か』はそう呟くとパネルを消す。そして、衝撃的なことを呟いた。

『俺の欲望のため・・・全員残らず消す・・・』

・・・・・・・・・・・・・・・・

伊坂 真紅郎SIDE

「・・・本当に井坂じゃないようだな・・・」

「まさか名前の読みと姿が同じ人がいるなんて驚いたよ。」

俺はこの前速人が運んできた黒崎 翔太郎／くろさき しょうたろうと風野／かざの ライトという二人の治療をやっている。

ただ、こいつ等から見ても俺は仮面何とかの同姓同名の漢字違いの

奴に酷似しているらしい。

で、こいつ等はその仮面なんか・・・そうだ、『仮面ライダーW』とか言うやつ主人公が好きらしい。

だからなのか最初目が覚めた瞬間に襲い掛かってきたんだよな・・・
気絶起きじゃなければ負けていたな。

気絶起きだったから一本落としてやったんだが・・・風野の方は女らしい。

その主人公は両方男らしいが・・・会ってみたいなと思ってしま
うな。

真紅郎「とりあえず痛いところはないよな？」

翔太郎「ああ。しかし徴収されるとは・・・」

こいつらは闇の書だとか夜天の書だとか言う本に魔力と能力を盗ら
れたらしい。

正確にはコピーだから能力が消えたとか言うことはないみたいだが・
・

だが、その瞬間隣に居たラティアス・・・現在人になっているが・・・が駆け込んできた。

『は、速くあの子達を集めて下さい!』

真紅郎「あの子達?」

『はいっ! あの高木君とか言う子達です!』

一体どうしたのだろうか・・・?

で、和人、速人、美樹、大樹、カイラ、龍臣、撫子と、由貴、零時、一茶の10人がすぐにやってきた。

他に煉華、光華、走輝が居たらしいが・・・ちょっとした事情で置

いて来たという・・・

和人「で、何の話なんだ・・・？」

美樹「その様子だと良い話ではなさそうね・・・」

『ええ・・・』

一茶「とりあえずお茶でも飲んでから落ち着いて話せ、な？」

『あ、はい・・・ってこういう場合じゃないんです！』

・・・何か嫌な予感がする。俺は逃げた方が良いか・・・？

『実は・・・例のポケモンが動き始めました・・・』

皆「」「」・・・どういつこと？」「」

『あのポケモンは自身の計画に邪魔になるものを調べる事に出来る何かを持っているみたいです。』

向こうの世界でも崩壊前に私達が襲われた事がありましたから・・・
』

龍臣「で、それがどう話に繋がるんだ？」

『実は私にもちよつとした予知能力があるんです。』

その中で例のポケモンが襲う相手が大体分かったんです・・・
』

撫子「予知能力・・・すごいですね・・・」

『だけど・・・その相手の事が何故かキーワードになっていて・・・』

もしそういう能力の方を知っていたら伝えて欲しいんです！
』

その後、受け渡されたキーワードはこれだった・・・

『全てを複写する目』 『八つの頭を持つ魔人』 『全てを崩壊させる者』 『鏡の龍との契約』

『欲望を扱う王』 『神器を持つ天皇』 『光と闇の調和者』 『能力を捕食する者』

『コピーの加速者』 『アイテムマスター』 『全ての劣化能力所持』
『スピードアタッカー』

『性格の変わる破壊者』 『伝染する色の性格』 『重力操作の超人』
『最強のプログラム』

『東方の神の軍陣』 『誕生の名を持つ者』 『闇を操る者』 『記憶の無い大災害の生き残り』

そして、俺でも分かったキーワードが・・・

『古代の星の命』 『転生者の選定者』 『電撃娘の同一体』 『半身が灰色狼である者』

つまり・・・最低でも和人、速人、美樹、大樹は入っているわけか・

しかし、『記憶の無い大災害の生き残り』 ってなんだ？ 沢山居そうなんだが・・・

それを言ったらキリがないんだがせめてこれだけは突っ込ませてくれ。

真紅郎「何で・・・キーワードなんだろうな・・・」

零時「それは言ったらいけないと思うぞ・・・」

・ 和人達は半数ばかりは分かったらしいが・・・俺は関係ないよな・・・

というか・・・これ、ギリギリまで誰なのか分からないパターンだよな・・・

美樹「とりあえずメモったから大丈夫ね。」

和人「しかし・・・意味分からん単語もあるな・・・」

速人「・・・幾つか転生者ではないものも含まれているな・・・」

大樹「見ただけで分かるのかよ・・・」

一茶「後は、他のやつも探さないとな・・・」

由貴「見ただけで分かったりとかしたら良いんだけど・・・」

カイラ「けど、あの人数はなんなんでしょうね？」

龍臣「一人でも欠けたらやばいんじゃないか？」

零時「かもなあ・・・気をつけないとな。」

撫子「とりあえず・・・今日は帰りましょう。」

とか言う会話をしながら帰っていったが・・・大丈夫なのか？

俺の方でも調べておくか・・・転生者のこと調べていて正解だったな。

だが、一体何を調べるといいのか・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・

皆「「ボッスンさん、霊宮空刀さん、黒一文字さん、SAK Iさん、妖気さん、疾風の音さん感想ありがとうございます！」」

和人「今回のキーワードのメンバーがこの作品の主要キャラにする、らしい・・・」

大樹「・・・何か偏ってないかな？」

美樹「かもね。投稿したキャラが誰も入っていない人が絶対いるはず……」

速人「……作者の代わりに謝っておく。すまん。」

撫子「とりあえず、感想欄でだれがキーワードの人なのか分かった方は名前を出しても良いです。」

龍臣「今までの話を読んでいたら分かるんじゃないか？」

カイラ「それか登場人物をよく読んだら分かりそうですね。ですが一人今までで出てきてないです……」

さくら「あ、作者は独断と公平な目で見たらしいよ。独断の段階で公平じゃないように思えるけど……」

圭「まだまだ投票続けているぜ!!」

投票対象キャラ……

マチス・エリカ・ナツメ・キョウ・ワタル・ハヤト・ツクシ・アカ

ネ・マツバ・ミカン・イブキ

ツツジ・アスナ・センリ・フウ&ラン・ミクリ・ダイゴ・ヒョウタ・
ナタネ・スモモ・スズナ

ポッド・コーン・デント・カミツレ・フウロ・イツキ・リョウ・オ
ーバ・シロナ

終「順位変更です。シロナ フウ&ラン マツバ デント ナツメ
になりました。」

直也「出て欲しいポケモンのほうもお願いな！」

巧「マテリアル、まだまだ受け付けているぜ！」

謎「・・・アリサ、すずか、クロノ、ユーノ、アリシアの五人を特に募集中だ。」

空「キャラを投稿してくれた方へなんですが、そのキャラのマテリアルを投稿してくれるとありがたいです。」

巧「活動報告の方に色々書いているからな。」

主役集合 改

??? SIDE

・・・ここ、何処だろう・・・

虚数空間に似ているけど・・・

何かいる。恐ろしい何かがいる。会ってはならぬようなものがある。

はやく、はやくここから出ないと・・・

『・・・俺の計画を邪魔するやつは全員殺す・・・』

・・・

「うわあああああああ!」

「どうしたっ!」?

な、何今の・・・

わ、私に向けて言ったの・・・!?

「う、うう・・・」

「怖い夢でも見たのか!? 大丈夫だ、お兄ちゃんはどこにいる!」

こ、怖いよお兄ちゃん・・・

??? SIDE OUT

??? SIDE

「ティアナ、一体どんな夢を見たんだ？」

「きよ、虚数空間に何か恐ろしいのが居て、『俺の計画を邪魔するやつは全員殺す』って……」

僕の妹、ティアナが何か恐ろしい夢を見たらしい。

おかげで泣いてしまっている……誰だこんな夢を見させる奴は！！

全管理局が許しても僕が許さないッ！！

「大丈夫、こういうのに最適な人がいるから」

ティアナ「……漸ノゼン兄さん？」

「うん、漸とソフィアだったら何か分かるかもしれない。行こう、第97管理外世界の地球に」

とりあえず、従兄妹だったら何か分かるかもしれない。

元からこういうのになれている人たちだしね。

ティアナの兄ことティード・ランスター SIDE OUT

[illegible]

???

SIDE

「待てっ！」

ふふっ、追いつけるかな？

「どうせアイツは生体ロストログアだ。多少怪我しても大丈夫だろう」

「いや隊長！ 幾らなんでも子供を傷つけるのは俺の良心が許しません！」

「あれは子供ではない！
ただの怪物だつ！！」

「ふう……」

生体ロストログアとして追われ始めてからもう何年たつのかな……？

そのたびに管理局員殺しているけど……何でまだ送るのかな？

はあ……幾ら私でももう飽きてきたな……だって弱いし同じ人ばかりだし。

クロノ「時空管理局のクロノ・ハオラオンだ。抵抗しなければこちらも攻撃しない」

「貴方に私を捕まえられるとでも？」

……今までとは違う人が来たね。すぐ攻撃してくると思ったのに。クロノ「すごい自信だな……まあいい。こっち……正確には僕には攻撃する意思はない」

「それを信じるんでも？」

信じない理由は色々あるけどB「展開していたらまず無理だよな。」

クロノ「・・・じゃあ一つだけ聞く。お前は転生者か？」

「そうだけど？」

クロノ「・・・はあ・・・またか・・・転生者の会とかなんやらあるからなあ・・・」

あれ？ 何か憂鬱モードに入っているけどどうしたんだろう？

もしかして帰っちゃうのかな？

クロノ「・・・そうだ、あの世界に送れば大丈夫だな・・・」

あの世界ってなんだろう？

クロノ「よし、艦長！ 少しの間映像消しておいて下さい！」

ってえ？ 何かおかしくなっちゃったよ？？

どうしたのかな？ こっちは速く君達を殺したいんだけど？

クロノ「生体ロスト・・・いや、I/Aイを第97管理外世界の地球、海鳴市へ転送する！！」

・・・海鳴？

I
S
I
D
E

O
U
T

.....

???
S
I
D
E

「・・・ジェイル、おま何を言い出すんだ？」

「だから、その主人公とやらにこれを届けてくれないか？」

「「「いや、死亡フラグなんか立てたくないわ！」「」」

「ハモらなくても良いではないか・・・」

とりあえず今の状況を確認しよう。

『俺の目の前にいるMADことジェイル・スカリエッティが高町なのはに届け物をして欲しいと何かを渡してきた』

何を言っているのか一発じゃ分からんと思うが、つまりは今小三の魔王に届けて来い、と。

ジェイル「虚霊 落神ノこだま らくしん、キラ・フェアリー、エルナ・エニツシュ、ユナ。頼めるかい？」

四人「「「何でええええええええええ！？」」「」」

というか、何で敵が味方に差し入れなんかいくんだよ！？

確かにナンバーズ原作よりめっちゃ強くなっているしみんな性格違うけどよ！

幾らなんでもそれはないんじゃないのか!?

ジェイル「と、言う訳で転送装置は設置してあるから」

落神「しかも強制かよ!？」

ユナ「ジェイル・・・Dead and apologize!!
(死んで詫びろ!!)」

ジェイル「ユナ、何で!? あ、ちょっとやめ「死ねえええええええ!!」ぎゃあああああ!!」

エルナ「ジェイル、あんたが悪いと思うけど」

キラ「我等にそんな事を無理矢理させようとするとは・・・馬鹿だな」

ジェイル「私のライフはもう0だよ!!」

けど、行ってみる価値はあるかな・・・面白そうだな。

虚霊 落神SIDE OUT

.....

フェイト・テストロッサSIDE

今私はいつものメンバーと化したのは、アリサ、すずか、アリシア、ユーノと帰っている。

撫子達は近頃多発している転生者狩りで先に帰っていて、クロノは仕事。

今日あったことと言えば神山 白奈ノかみやま しろなって言う人が転入してきたくらい。

ストレートにしていたけど多分ポケモンのシロナさんだろうな・・・
これで四人目か。

何でこうアニメのキャラが入ってきたりするんだろうな・・・何が起きているんだろう・・・

ラティ兄妹を襲った奴についても気になるし・・・一体何が起きているの!?

なんて思っていたら結界に囚われてしまった。

なのは「って、まさかの結界なの!？」

アリサ「もしかしてなのはとフェイトに惹かれたんじゃない・・・」

フェイト「それ、私達のせいなの!？」

「待てえええええええ!！」

で、こっちに飛んでくる赤い魔導師。よく見たら被っている帽子に

ウサギがいる。

・・・こっちに来るけど誰か追っかけられているような・・・

火澄「な、なんやねええええええん!!」

まさみ「なんで私達が追っかけられるんだっ!？」

黒子「そついう話をしている場合では・・・って高町さん達!？」

京「お前等逃げろっ!! 襲ってくるぞ!!」

・・・火澄にキヨンに岩沢さんに黒子? 何で結界の中に居るの!?

まさか・・・またクラスの人が巻き込まれたの?

しかも火澄とキヨン・・・何かポケモンの卵持つてるけど!?

もう、ツッコミ入れたら負けなんだよね?

皆「「izumiさん、ボツスンさん、ディケタスさん、靈宮空
刀さん、疾風の音さん、SAKIさん、爽蒼さん、妖氣さん、黒一
文字さん感想ありがとうございます！」「」

美樹「それはないでしょ。あ、二人よく出る人追加したわ」

大樹「今回のSIDEにもなってるしね」

撫子「みいいなあぎいいるううううう!!」

龍臣「刀狩だ。刃と共に利き腕を差し出せ」

元重「Let's party!!」

セン「弱肉強食・・・ならば俺が弱きものを守る!!」

さくら・カイラ「性格壊れすぎ!!」

零時「つかこれ黒一文字さんが感想でやってたことじゃないかッ
!!」

龍臣「黙れ! その言葉に後悔しろ!!」

玲人・愛理「おまえ(あなた)がな(がね)!!」

一茶「というか何でBASARA何だよ!」

シイ「撫子ちゃん怖いから、何で熱血真田幸村!」

ユナ「Don't imitate it!! (真似するな!!)」

落神「はあああああ!!」

圭「しかも本命が来た・・・だと!」

裕也「誰かあれ止めて。うるさいんだけど・・・」

光華「そう言うお前が止める!!」

圭「あー、何かカオスになってるけどジムリーダーの奴まだやってるからな」

投票対象キャラ・・・

マチス・エリカ・ナツメ・キョウ・ワタル・ハヤト・ツクシ・アカネ・マツバ・ミカン・イブキ

ツツジ・アスナ・センリ・フウ&ラン・ミクリ・ダイゴ・ヒョウタ・ナタネ・スモモ・スズナ

ポッド・コーン・デント・カミツレ・フウロ・イツキ・リョウ・オーバ

柊「今の順番はフウ&ラン マツバ デント ナツメ ミカンです」
直也「そろそろ投票打ち切るかもな」

冬季「俺の波に付いて来れる者無し！」

凧「私の速さに追いつけるもの無し！」

白奈「私の知識に勝てるもの無し！」

電磁「俺の技術に勝るもの無し！」

皆「」「何かかつこつけちゃってるよ!?!」「」「」

巧「マテリアル、まだまだ受け付けているぜ！」

謎「・・・クロノ達五人の名前とアリシアのを誰か考えてくれ」

空「リリなの以外の現在出ている版キャラ全員良いですよ！」

巧「オリキャラの方も頼むな。後（有り得ないが）俺たちのも良いぞ」

中心接触

アリシア・テストロッサSIDE

前回のあらすじ。

転生者狩りだと思われる人に追いかけています。

京「一体どうなってんだよっ!!」

魔法が使えない私は妹のフェイトやなのはちゃんに任せて逃げます・・・

・・・お姉ちゃん失格かな・・・「お姉ちゃんは逃げて!」ってフェイトには言われたけど・・・

．．．ピキッ

火澄「．．．ん？」

ピキピキッ．．．

黒子「．．．もしかして．．．」

パリイイイン．．．

．．．水代君が持ってた卵が割れちゃった！？

で、中から顔をのぞかせた．．．イーブイ？

．．．ブイツー！！

まさみ「．．．生まれたな．．．」

アリサ「……一体何処から持ってきたの……」

火澄「背景が変になってから偶然見つけたんや!」

……ピキッ

すずか「……もしかして」

しかももう一つの卵も生まれようとしているよ!?

ピキピキッ……

アリシア「何でこんな時に生まれるの!?!」

そして生まれたポケモンは……ラルトスだった。

何でこういうときに……フェイト達が大変なのに……ッ!!

「そこ、速く逃げろ!!」

・・・何か上を飛んでいったけど・・・誰だろう？

アリシア・テストロッサSIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

高町なのはSIDE

なのは「ファイアアアアア!! ファイアアアアア!!」

和人君達に偶然『ふういん』と一緒に渡されていた『ほのお』のマトリアで目の前に居る人と戦ってるの。

だけど・・・相手どう見ても炎系だから効いてないよ・・・

ユーノ「シー・・・ルドっ!!」

フェイト「っ、強いっ!!」

向こうではユーノ君とフェイトちゃんが戦ってるけど防戦一方なの・

裏を返せば向こうもこっちに決定打を与えられていないって事になるけど・・・

「いい加減倒れるよっ!!」

なのは「というか何で転せ・・・この町の人を襲っているの!？」

「お前なんかに教えるかつ!!」

つてええええ!？ 何で話してくれないの!？

・・・って、相手が使ってる鉄槌・・・でっかいトンカチが更にでっかくなっでこっちに来る・・・

避けようとしたけどバインド張られちゃってるよ!？ やばい、死ぬっ!!

和人「・・・なのはすまん、遅れた。」

目を開けたら・・・和人君がバリアをはって受け止めていてくれたの。

高町なのはSIDE OUT

・・・

フェイト・テストロッサSIDE

・・・ドガガガガガ・・・

フェイト「つつう・・・」

さっきまで持ってたんだけど吹っ飛ばされた・・・

このままじゃ・・・負けるよ・・・

・・・向こうからシグナムって名乗った人が突っ込んでくるけど体が動かないよ・・・

ガッ!!

撫子「すいません遅れました!!」

フェイト「撫子!?!」

と思ったら撫子が影で受け止めてくれていた。

シグナム「むっ・・・邪魔するなっ!!」

撫子「仲間が傷ついているのに助けがないわけがありません!!」

撫子「・・・ごめん・・・」

「その意気だ! L e t ' s p a r t y ! !」

「さて、配達先を傷付けた事に関して何か弁解はあるか?」

「・・・誰か突然こっちに来た! ?」

「私はユナッ!! 君達をh e l pするよッ!!」

「俺は落神、最強の何でも屋だッ!!」

「・・・しかも熱血系! ?」

フェイト・テストロッサSIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

ユーノ・スクライアSIDE

くっ……なのは達と離されたなんて……

向こうの人が防御特化型だからまだ耐えられるけどそろそろ危険だ・
・

一応和人から一つマテリア貰ってるけど使い所が分からないッ!!

……ってバリアをドリル状にして突っ込んできた!?

ガガガガガガ！！

と思ったら誰から割り込んできて止めてくれた。

・・・って龍臣君！？ 空飛べたの！？

龍臣「ユーノ、今のうちに離れろ！！ あんまり持たん！！」

と言って二人で離れた数秒後に定規で出来ていたバリアが壊された。

「こんなに硬いものを作るとはな・・・」

龍臣「本当は壊れないはずなんだが良く壊したな・・・」

「よく持った！ 後は我等に任せろ！！」

「私が来たからにはもう大丈夫だよ！」

・・・何か見たことない人が突然やってきたんだけど・・・

「我はキラ！ ただの科学者だっ！！」

「私はエルナ。とりあえず離れてなさい」

・・・ただの科学者・・・？ そんな訳ないでしょおおお！！

ユーノ・スクライアSIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

八神 さくらSIDE

・・・何か沢山の人が乱入してきたね・・・

これじゃ不利だね。とりあえず・・・

さくらく今日は一旦引き上げよう！>

とりあえずシグナムさん、ヴィータ、ザフィーラに念話を送る。

シグナムくだがこいつ等逃がしてくれそうにはないぞ！>

さくらく僕が能力の一つで結界打ち破るからその勢いでお願い！>

ヴィータくは、逃げるのか！？>

さくらく仕方ないよ！こんなに人数居たら・・・あ、また一人増えた！>

何かファイアって連発している高町なのはこのところにまた増えた！

しかもその人嫌な予感しかないよ！

さくらく「とりあえず・・・求めるは破壊>>擬似スターライトブレイカー！！」

偶然ステイグマ盗った時に何故か使えるようになったから使わせてもらおう！！

八神 さくらSIDE OUT

.....

高木 和人SIDE

結果、なのは達を襲った三人は謎の光線に気を取られたうちに逃げられた。

原作と違って徴集はされてないんだが大丈夫なのか？

和人「で、お前等は何者なんだ？」

途中フェイトとユーノ、そしてなのはを助けてくれた五人が今俺の目の前にいる。

落神「ただの何でも屋。お前等に届け物があつて来た」

I「私はクロノとか言う人に飛ばされただけだよ?」

速人は全員転生者って言っていたが・・・

落神「あ、そうだ。これとあるMADから頼まれたんだ」

和人「・・・MADって、ジェイル・スカリエツィか?」

落神「何で知ってるんだよ!! いや転生者なら知ってるだろうけどよ!!」

和人「落ち着け! ってか一体何が入ってるんだ?」

落神から包みを受け取り開けてみると・・・

何故かファイズフォンとデルタフォン、ファイズアクセル、手紙に・

・・・何か動いている箱。

和人「ファイズは大樹が使えるとしてデルタはどうするんだよ!!」

エルナ「って使えるってオルフェノクなの？」

大樹「半分だね。父さんが転生者でその血を受け継いだんだよ」

キラ「・・・ジェイル、これ前に作った奴じゃないか・・・」

和人「そして・・・この箱はなんなんだよ!？」

何か動いている箱を開けてみると・・・中に居たのは・・・

どう見ても剣と魔法と学園モノに出てくるバハムーンです、本当にありがとうございます。

和人「って何でだよおおおおお!!」

『きゃあああああああ!!』

しかも俺の絶叫でこいつ悲鳴上げた!? 起きていたのかよ!!

その後、京と火澄が連れていたイーブイとラルトスを見てまた絶叫してしまっ俺であった。

・・・・・・・・・・・・・・・・

皆「「「ディケタスさん、疾風の音さん、黒一文字さん、SAKI
さん感想ありがとうございます！」「」

圭「ジムリーダーの奴まだやってるからな」

投票対象キャラ・・・

マチス・エリカ・ナツメ・キョウ・ワタル・ハヤト・ツクシ・アカ
ネ・マツバ・ミカン・イブキ

ツツジ・アスナ・センリ・フウ&ラン・ミクリ・ダイゴ・ヒョウタ・
ナタネ・スモモ・スズナ

ポッド・コーン・デント・カミツレ・フウロ・イツキ・リョウ・オ
ーバ

終「今の順番はフウ&ラン マツバ デント ナツメ ミカンです」

克己「ポケモンの方も頼むぜ！！」

変身者

高木 和人SIDE

『これを見ているのは誰かな？ 高町なのはなのかそれ以外の人なのか・・・』

まあいいか。私はジェイル・スカリエッティ。科学者だ。

今回、とある四人に頼んでこの手紙と色々送ってもらったのだが・・・気に入ったかな？

私と高町なのはは敵対関係になる、らしい。

だが私はあまり戦いたくないのでね。こういう風にコンタクトを取った訳だ。

・・・管理局に入った段階でもう駄目だとは思っただがね・・・

と、送った中に竜人っぽい子が居ただろう？

とある実験でね、偶然生まれてしまったんだ。

私といると何が起こるかわからないし君が預かってくれないか？

人の頭の上に乗る癖があるのだが・・・そこは気にしないでくれ。

□

と言うのがジェル・スカリエッティからの手紙の内容だった。

ちなみに生まれたバハムーン・・・涼香は現在俺の頭に乗って寝ている。

何で俺の頭なんだよって突っ込んだのはおかしくないはずだ。

つと、あの後どうなったか回想しないと色々分からないよな・・・

.....

あの後とりあえず俺の家に行こうとしたんだが・・・その途中でまたジムリーダーを拾ったw

服装から見てトクサネジムのフウ＆ランなのは分かったんだが・・・

凧・冬季「またハウエンかよ・・・」

この二人、結構固まっていた。

白奈「ま、まあ、落ち着きなさい」

電磁「俺はむしろシンオウの奴が来て欲しい」

冬季「何っ！？ おま他のやつを危険にさらすきか!？」

電磁の言葉に冬季がこう突っ込んでいたのは記憶に残ってるな・・・

その後二人を青井と鹿目に頼み、バハムーンに名前をつけ（髪の色

が水色だったから涼香にした）今日は休む事とした。

だが・・・原作始まったし向こうにかなり協力者がいるのは事実みたいだしどうするか・・・

・・・ポケモン？ とりあえず京達に任せる事にする。

・・・

「僕は鹿目 封／かなめ ふう、」

「私は青井 蘭／あおい らん、」

「苗字は違うけど、僕達は双子」

「だからお互いの考えている事が、テレパシーで分かるのよ」

「「宜しく願います」「」

この自己紹介の直後、龍臣と同じクラスにいる木下優子がくしゃみしたらしい・・・

ついでにこなたがかがみをおちよくって拳骨食らっていた事も追記しておく。

で、無論というかテレパシーの実験開始。

文字は難しいと伝えられなかったが絵などイメージしやすいものは正確に出来たらしい。

高木 和人SIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

夜神 撫子SIDE

フェイトさんが襲われた日から三日後。

クロノさんからの話で襲った人の反応があるとある世界に来ました。

・・・何かワームっぽいやつ等が沢山居ます・・・orz

シィ「あ、居たッ!」

ある程度進んでいくとピンク髪の人を見つけました。

・・・よく見たら仮面の人も居ますね・・・

クレス「って、何でリーゼ姉妹が・・・」

「ぶっ！！ 管理局か！？」

シグナム「いや、あいつら前襲った奴・・・一人だけ管理局員だ」

フェイト「あ、シグナムさん・・・だっけ？」

シグナム「何故疑問系なのだ！？」

その後向かい合う私達だったんですが・・・

撫子「ぐはっ！？」

「絶望がお前のゴールだ・・・ごめん」

結果は・・・向こうに居た仮面ライダーアクセルに一撃でやられてしまいました。

それだけじゃなくて龍騎とバースもいたから・・・言い訳ですけど・・・

この時、海鳴市の方では事件が起きていたんです・・・

夜神 撫子SIDE OUT

・・・

香谷 走輝SIDE

走輝「ななな、なんなの!？」

僕は人を殺していた謎の怪物を目撃してしまっただけで追われている・・・

一茶と裕也、それにアリシアが居なかったら能力で逃げ出せるんだけどね・・・

怪物がどう見てもオルフェノクだから大樹に倒してもらおうと思っただけだ・・・

大樹『 5 5 5 』 「変身!!」 『 complete 』

大樹君は別の怪物を相手にしていてこっちにこれなかった・・・

ファイズ「ごめん!!」 『 1 0 6 』 「何でこんな時に!？」

うん、何でこういう時に限って二体も出てくるかな・・・

一茶「・・・ピンチだな」

あの後鹿目君とかにも連絡したけど駄目だった・・・

で、どっかの工場に追い詰められてしまった・・・どこ？

裕也「えっと・・・」『error』「だめだね」

裕也は何故か持ってきたデルタフォンを起動させてるけど変身できないみたいだ・・・

で、その数分後。

サイヤ人である裕也は大丈夫なんだけど僕と一茶は地に伏せていた。だつて地面に潜つてどっから出てくるか分からないんだよ・・・能力起動する暇もなかった・・・

裕也「ちよつときついな？」

口じゃ軽そうだけど裕也もかなり危険みたい・・・

アリシア「それ以上は止めて」

・・・アリシア？　ってデルタフォンを構えてる！？

『それについては知っているがお前に起動させれるわけがないだろう！』

アリシア「そんなの・・・やってみなくちゃわからないよ？」

と言うとデルタフォンのトリガーに指をかけて・・・

「変身」 『complete』

・・・僕は開いた口が閉まらなかった。

変身できた事じゃなくて、その後一撃でぶっ倒していた事に対して・
・

とりあえず、痛みで体が動かないから助けてm（ー）m

•

皆「「ディケタスさん、疾風の音さん、妖気さん、ボッスンさん、黒一文字さん感想ありがとうございます!」「」

和人「今回……原作の方を端折ったな」

圭「ジムリーダーの奴まだやってるからな」

投票対象キャラ・・・

マチス・エリカ・ナツメ・キョウ・ワタル・ハヤト・ツクシ・アカ
ネ・マツバ・ミカン・イブキ

ツツジ・アスナ・センリ・ミクリ・ダイゴ・ヒョウタ・ナタネ・ス
モモ・スズナ

ポッド・コーン・デント・カミツレ・フウロ・イツキ・リョウ・オ
ーバ

柊「今の順番はマツバ デント ナツメ ミカン ダイゴです」

カイ「ポケモンの方もどんどん来てますよ!」

暴走直前

フェイト・テストロッサSIDE

フェイト「……オルフェノクじゃないんだよね？」

大樹「ああ、大体怪物とか人外とかは感覚で分かるから違うよ」

あの後シグナムと言う人と仮面の人は私達を回復してから何処かに行ってしまった。

で、地球に帰還したらアリシアが化物に襲われてデルタ？ に変身したと言う……

クレス「多分だがオルフェノク因子、と言うやつを持ってんだろっな」

大樹「確か、それを持っていてオルフェノクに殺されたらオルフェノクになるんだよね」

アリシア「……ええええええええええ」

あ、アリシア戸惑ってる。そんなのがあるなんて知ったらそりゃ驚くよね。

つと、言い忘れていたけど虚霊さんたち五人は私達が住んでいるアパートの別の階に住んでいる。

そういえば二人・・・ユナさんとIさんは改名したって言ったっけ。

確か・・・ユナ・スカリエッティと細川／ほそかわ アイだったはず。

・・・スカリエッティと聞いて何故かリンディさんたちが驚いていたけど・・・

だけど・・・徴集そろそろ終わってもかなり良い頃という話だけど大丈夫なのかな？

フェイト・テストロッサSIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

八神 さくらSIDE

・・・よし、お父さんとはやてとビビキは寝たね。

さくら「あとの位で終わりそう?」

僕達・・・僕、後藤 圭一ノごとう けいいち、桂木 真司ノかつらぎ しんじ、八神なるかみの転生者組とシグナムさん、シャマルさん、ヴィータ、ザフィーラさんと話していた。

シャマル「後は・・・ほんの少しね」

シグナム「普通の管理局員でもいけそうだな」

闇の書の改変や本当の名前、一体どうやってバグを除くかなどはもう話してある。

リン？ 僕的能力で何とかなるよ。

っと、何でこう大所帯となっているかというと・・・

三つ子で生まれた僕とはやて、なるかみ。

ちよつと病弱なお母さんと武道に強いお父さんの八神 聖矢／やがみ せいやと一緒に前の家に住んでいたんだけど・・・

僕達が幼稚園の時、あの災害にあった。

何とか僕達は生き残る事ができたんだけど・・・真司と圭一の家族は全員・・・

弟のヒビキはあの時より前の記憶を失っているんだけど何故か真司と圭一と一緒に倒れていた。

二人によれば倒れてた所を担いで走ってたらしい。その途中で意識を失ったらしいんだけど。

で、その三人を僕達が発見して今に至る。

この家は今は和解しているグレアムさんが用意してくれたもの。

お母さんはたまに外に出てくれるけどいつもは病院にいる。

小一の頃にあったとある事故で怪我を負っちゃって・・・お父さんは圭一と真司が助けてくれたけど・・・

前に出てきたのはシグナムさん達が現れた三日後だったかな？ たしか図書館に行ったはず。

そうだった、運命の日のこと忘れてた。

僕達は三人で同じ部屋を使ってるんだけど突然本が光ってかなり驚いちゃったんだよね。

原作と違って家族が結構居るけど大災害のことを思い出したのか原作とほぼ同じ展開になった。

真司「なあ圭一、俺は何か胸騒ぎがするんだよね・・・」

圭一「ああ、最後で気を抜いたら大変な事になるかもしれないからな」

なるかみ「・・・そうじゃないと思うけど・・・」

さくら「何があっても気を抜かない！　それでいいと思うよ」

八神　さくらSIDE　OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

八神 はやてSIDE

・・・またやつとる・・・

私は徴集はやらんでええって言ったはずなんやけど何故か夜中にで
よる・・・

転生者の意味がわからへんけど何をしようとしてるんやさくらお姉
ちゃんは・・・

まあ、今は話さんでもええけど全部終わったら全部吐いてもらうか
いな・・・

そういえば明日、図書館であつたすずかちゃんが友人と来るらし
いな。

だから明日はよう起きてクッキーが何か焼いておかんな・・・腕が鳴るわ。

さくら「じゃあ今日は休もう。後はグレアムさんのを徴集すれば大丈夫だから」

・・・あかん！ はよ寝たふりせん！

八神 はやてSIDE OUT

.....

ここは、『転生者の会』・・・

「よし、集まったな・・・」

長らしき人物が皆に話しかける・・・

「長かった年月、だがそれも後十年になった」

「あと十年・・・何百年待たされてきたと思ってんだ」

「十年後、ストライカーが開始される・・・」

「管理局と主人公を殺し、転生者の会による世界を作り上げるのだ
！！」

.....

一方、闇の空間・・・

『ほう・・・介入者が増えたか・・・』

謎の者が手に持つパネルに書いてある文字・・・

『この予言は殆ど変えられないから俺はやられるのか・・・』

その文字とは・・・

『二人の星、裏の世界で出会う。

片方の星には炎と吸血鬼、もう一人には選定者と雷、そして灰色。彼等はお互いの秘密を知り、協力していく。

21の宝石が降り立つ日。

星は運命を決める者とであう。

運命の定めを壊しながら星は宝石を集める。

同じ頃、闇と雷刃も行動を起こす。

星と雷刃は激突するが、終わりには固い友情で結ばれていた。

龍と誕生、加速と虹は守護者と共に転生者を狩る。

夜天と鬼にその事実を隠すが、すぐにばれる。

影は夜天の力を狙い行動をおこし、守り神と別世界の者をこの世

界に呼び込む。

同じ頃、とある兄妹は破壊者と陣術使いの元を訪れる。

影は力を手にするが、星とその仲間に消滅させられる。

全ての力を繋げる光、全ての力を繋げる鎌。

27と8、そして主人公はつかの間の平穏を手に入れるが事件に巻き込まれる。

投影、機械、常識、探偵、社員、軽音、武器、絆、戦線、生存、
日常、破壊、電磁、馬鹿。

その他の主人公も巻き込まれていく事となる・・・」

この後、殆どの文章が読めないが一つだけ読めるところがある。

最後に全ての介入者、消滅する。

[illegible]

皆「「妖氣さん、黒一文字さん、ボツスンさん、疾風の音さん、月光閃光さん、ディケタスさん、真王さん感想ありがとうございませう！」」

和人「最後のネタバレすぎないか？」

美樹「というか何よ最後のやつは」

速人「俺に質問するな」

さくら「それ僕のセリフ!!」

大樹「いや、君のじゃないでしょ」

圭「ジムリーダーの奴まだやってるからな」

投票対象キャラ・・・

マチス・エリカ・ナツメ・キョウ・ワタル・ハヤト・ツクシ・アカ
ネ・マツバ・ミカン・イブキ

ツツジ・アスナ・センリ・ミクリ・ダイゴ・ヒョウタ・ナタネ・ス
モモ・スズナ

ポッド・コーン・デント・カミツレ・フウロ・イツキ・リョウ・オ
ーバ

柊「今の順番はナツメ マツバ デント ミカン ダイゴ ヒョウ
タ エリカです」

直也「あ、言い忘れていたが一茶の名前を間違えてた。麻館 麻
館だ。すまん」

[illegible]

アニメ日常を見て書いてみたくなったこと

走輝「せいのつ・・・」

だるま落としに挑戦した走輝なのだが・・・

カン！（走輝が胸を叩いた音）

ガン！（目の前に居た煉華に当たった音）

ビッ！（煉華が走輝に胴を投げた音）

サッ！（走輝が能力を発動させて避けた音）

ガン！（後ろに居た零時に直撃した音）

コン！（だるまが下に落ちた音）

「ぐはっ！」 零時の断末魔

「ええっ！？」 凧の驚きの声

最後以外は前から考えてあつたという・・・

零時「俺ただのやられ役かよー！」

あと、もう一つ・・・

「・・・暇だな」

「そうですね」

「ロード、何かやってくれ」

「何で我が！？　というか何故ここまで増えたorz」

「もう王の役目してないね」

「それを言っなああー！！」

「いや事実だし。犯すよ？」

「そしてお前は怖いッ！！　R18は禁止だ！！」

「ひいひい！！　ロードさん怖い！！」

「大丈夫か！」

「ロード・・・何びびらせてるんですか・・・」

「我が！？　我が悪いのか！？」

「そうとは思えないよ」

「ぬわあああああああー！！」

「・・・つるちこ」

「そうだそうだ!!」

「うぬには言われたくないわ!!」

「とりあえず、黙ってくださいまし」

「そうだな。うるさくて虫唾が走る」

「そうか・・・うぬらがそうなら我もそうなってやるっ!!」

「止めてええええええええええ!!」

これは、闇の書内部で起きていた会話である・・・

・・・ロード、乙である。

一致団結（前書き）

今回、高木和人の記憶を開放します。

俺の小説を読んでいる人なら記憶内に出てきた人が分かるかな？

一致団結

高町なのはSIDE

今日はすずかちゃんの友達という人の家に行くの。

和人君達も来るけど何か浮かない顔してたな・・・何でだろ？

うん・・・嫌な予感しかないの・・・

・・・まさか、敵の本拠地とか言わないよね・・・

はやて「おーすずかちゃん、お久しぶりや」

すずか「あ、はやてちゃん。こっちがなのはちゃんでありさちゃん
で・・・」

すずかちゃんがはやてちゃんと言う女の子に説明していくけど私には聞こえてない。

何か嫌な予感しかないの。さっきの予想が当たっているような・・・

•

「主よ、クツキーとやらが焼けたのだ……が……!？」

皆「……ってええええええええええ！」「」

・ ・ ・ 本当に当たっちゃったよ！？

もしかして私の予想……悪い方向のは全部当たっちゃったりするの!?

•

「『皆』」

はやて「みんなどうしたんや？」

「いや、何でもないよ……」

はやて「どう見てもそうとはおもえんのやけど・・・」

すずか「あはは・・・とりあえず今は聞かないで欲しいかな」

はやて「?・・・分け有りかいな・・・」

何か話してるけど私には何も聞こえてない。うん、聞こえてない。

なのは<・・・一体何をやってるんですか?>

シグナム<何って・・・主の護衛だが?>

クロノ<とりあえず、主の正体と目的について話してもらおうか>

さくら<管理局なんかには話さない・・・と思ったけどもうばれてるよね・・・>

和人<あ、転生者のことならもうこいつら知ってるぞ>

八神組<<<何で!?!>>>

和人<偶然見られた。しかも小二で>

八神組<<<・・・ええええええええええ!?!>>>

なのはく後アリサちゃんとかも知ってるの。というかクラスの大
半が知ってるの>

真司く・・・一体何があつたんだ？>

和人くクラスメートの大半がリリなのじゃないキャラだ。残りの大
半が転生者で一部そうじゃないな>

圭一くどういうクラスなんだ・・・>

・・・どう考えても話が脱線してるの。

・・・あ、クロノ君話に割り込もうとして弾かれて泣きかけてる。

というか和人君達転生者？ だけのエリアを作らないで欲しいんだ
けど・・・

和人く閑話休題、話を戻そう>

美樹くあんなに転生者襲つてたんだからもう終わりに近いわよね？>

なるかみくいきなりそこ・・・>

シグナムくああ。後はあの人のを徴集させてもらってバグを潰すだ
けだ>

和人<つてバグってること知ってるのかよ!?!>

さくら<僕が教えたんだよ>

美樹<どつかのキャプターと同じ顔して僕は無いでしょ僕は!!>

さくら<あははは・・・昔自分のこと男って思ってた時期があったから>

高町陣<くく一体何があったあああああ!?!?!>

・・・また脱線したの。しかも今度はユーノ君まで泣きそうなの・・・あ、泣いた。

・・・フェイトちゃん涙目なの。カオスって言葉が似合いすぎなのw
・・・あ、大樹君と龍臣君まで弾かれたの。何で私は入ったままなのかな・・・

442

和人<まあ、こんなに居るなら最悪だけは避けそうなんだがそれは更なるイレギュラーが居ない場合だ>

圭一<・・・詳しく話せ>

和人<今こっちにはポケモンのキャラクターが何人かいる>

さくらく・・・え？>

和人くその中に居るラティ阿斯・ラティオスが言ったんだよ・・・

何か悪い奴がこの海鳴に居るって話をな・・・>

なるかみく・・・それが何か？>

美樹くそいつは多分、闇の書の力を手に入れようとしてるわ>

撫子く本当の話です。多分暴走を狙ってくると思います>

さくらく・・・嘘みただけど本当みたいだね・・・>

・・・その話しちゃうのね・・・和人君・・・あれ、待ってよ？

なのはくそういえば闇の書の主って誰なんですか？>

さくらく・・・教えてないんだ。後闇の書じゃなくて夜天の書だよ>

和人くああ・・・よし、とりあえず予想を言ってみろ>

なのはくうーん・・・さくらさん？>

さくらくさんは付けなくて良いよ。同じ年だから。後僕じゃないよ。
>

うーん、違うか・・・待って？

徴集の時全部にさくらさん出てるけどそれがカモフラージュなら・・・

・

なのはくもしかして・・・はやてちゃん？>

さくらく・・・何で分かった？>

なのはくはやてちゃんが知らない間にやっているとしたら辻褄が合うの。

・・・って予想なのに当たっちゃった!？>

まさか当たるとは思わなかったの。

・・・

カイラ「何か久々の出番ですね・・・」

和人「誰に向かって言ってるんだ？」

カイラ「・・・気にしないでください」

その次の日の夜。私達は海辺に向かって歩いているの。

海辺で最後の徴集をしてバグを潰すらしいから・・・

私達が行くのはラティアスさんたちが言っていた奴が来た時の為。

どっから漏れたのかクラスで知っている人全員が出席しちゃったんだけど・・・

「何で私まで・・・」

あ、そうだった。麻館 夏目/あさだて なつめさん。ポケモンのナツメさん。

昨日一茶君が拾った？ らしくクラスに入っただの。

・・・もう何も知らない人も気付いている頃だよね・・・

結弦「ってか、殆どの奴が知ってしまったな・・・」

ハルヒ「後は・・・誰かしら？」

歩「ここに居ないのは香介、一夏、孝、元春、才人、謙吾、アイズ、新島、篠ノ之、竹内、立華、毒島、宮本、結崎だな」

唯「よ、よく出席番号順に言えるね・・・」

明久「・・・あれ、ちょっと待って？」

こなた「どうした？」

明久「今日確かこの時間まで剣道組特訓無かった？」

美琴「・・・まあ、大丈夫でしょ。結界はあるんだし」

理樹「だけど結界の中に入ってしまいう人もいるから・・・」

当麻「・・・確かにそれを考えたらちよつとな・・・」

・・・どう考えても巻き込まれフラグだったの。

さくら「では・・・良いですね？」

さくらちゃんがグラムさんって言う人のコアを吸収してるの・・・
これで終わるらしいけど・・・

・・・夜天の書が何かやばい感じなの！？　ってさくらちゃんが力
ードを押し付けたら何か模様が浮かんだよ！？

あれに管理人格さん？　が入ったらしいけど・・・あとは壊すだけ
なんだよね？

明久「ぎゃっ!？」

瑞希「明久く・・・」

明久君の声を聞いて後ろを見たら黒い何かがいたの。

それは私を見ると一気に近づいてきて・・・

高町 なのはSIDE OUT

和人「なのはっ!？」

明久の声が聞こえて後ろを見たら黒い何かがなのはを昏倒させていた。

いや、昏倒しているのはなのはだけじゃない。他のみんなもやられてる。

大丈夫なのははやてと転生者と大樹とかだけだ・・・一体何があった!？」

『何でこんなに介入者が多いんだ・・・まあいい』

和人「一体なんなんだお前は!？」

ファイアを放ってみるが簡単に避けられてしまった。

・ブリザドとサンダーも放ってみるが簡単に避け、闇の書に向かう・

次の瞬間、それは闇の書を食らい、俺の視界は闇に包まれた。

[illegible]

・
・
・
こは何処だ？

確か闇の書を消そうとしたら何か食らって・・・

「和人、そろそろ起きなさい！」

・・・ちよつと待て、この声は・・・

俺の前世の、俺より先に死んだ母さんじゃねえか！？

「今日も学校でしょ？ 頑張rinaさいよ」

「そうだな。今日も高校頑張つて来るんだぞ」

俺の家は母子家庭で父さんは居ない筈だが今現在目の前にいる。

そこまで来て闇の書内部な事に気付いたんだが・・・転生前か・・・

俺が高木じゃない苗字の時だな・・・

俺の死因は自殺だ。別に苛められていたりした訳じゃねえ。

自殺する少し前に・・・母さんが事故で命を落としたんだ。

それで俺は自暴自棄になって・・・赤信号で渡って車に撥ねられた。

「・・・浮かない顔してるな？」

和人「何でもねえよクロツカー」

クロツカーとは目の前にいる転生前の友人のことで名前から付けた。

和人「・・・なあ、少し話があるから屋上に来てくれないか？」

「ん？ ああ。その調子だと訳有りみたいだな」

和人「なあクロツカー・・・もし、夢で自分の望んだ家庭があったらどうするか？」

「望んだ家庭？ まあ、俺はそのまま夢であって欲しいと思うな」

和人「そうか・・・そういうものなのか？」

この夢の中に居たい、それが俺の本心だと思う。

「だが、現実に必要な人がいたら俺は夢を振り切るな」

和人「!?!? 何でだ!?!」

「夢は自分の望み通りだが、現実には俺が目覚める奴を待つてる奴がいるんだったら起きないとな」

・・・そうか、俺の本心は夢の中に居たい。

だけど現実には俺を待つてる奴がいるじゃねえか!!

何でこれに気付かず闇の書に囚われてんだ俺は・・・

和人「サンキュークロッカー。今で俺の心が決まった」

「やっと気付いたか。お前が最初にあの話をしてきた段階で大体は気付いていたんだがな」

和人「・・・待て、お前闇の書の一部なのになんで俺を助けるんだ？」

「ははっ、今は教えられないな。とりあえずこれ持つてけ」

と、渡されたのは赤いマテリア。中身は俺が知らない何かみたいだ・
・

「お前が起きる頃には全員起きていると思うぞ。速く行け！」

和人「何がなんだか分からないがありがとうな」

クロツカーは手をかざすとゲートのような物が開く。

「とりあえず敵はブッ倒せ！！ 後次会うのはこの事件が終わってからだからな」

何か気になる単語が聞こえた時にはゲートの中に完全に入っていた。

高木 和人 SIDE OUT

・・・・・・・・・・・・・・・・

??? SIDE

さて、ティアナの話を受けて町を彷徨ってたんだが・・・

力の塊を感じて進んだらでっかい闇がいるな・・・

・・・よくみると中に通じる出入口があるな。よし、入ってみるか。

「何だコリャ・・・」

入ると沢山の映像があった。それぞれ色々な情景を映し出しているんだが悲しそうな物が多い。

そしてその数、25個。それを見ながら進んでいくとラスボスが出てきそうな空間に辿り着いてしまった。

「って神宮じゃねえか!？」

「くう・・・って漸!？ 何でこんな所に!？」

漸は俺の名前、この部屋にいるのはさっきの映像にあった25人。

無声だったから何があつたのかは殆ど分からないのが救いだつたな。
・
・

『何故・・・皆こつちを選んだ!？』

和人「闇の書が教えてくれたんだよ、現実で待ってる奴がいるってな!！」

『闇の書がだと・・・認めん、俺は認めん!!』

・・・OK、話は大体読めた。

愛しのティアナを怖がらせた奴はお前だな？ よし殺そうか。

『そして最後の異分子も集合するだど・・・』

漸「異分子？ そんなの知るかよ」

『くうう・・・もういい全員皆殺しだあああああ！！』

その瞬間に放たれる途轍もない殺気。

和人「弱いな、俺の友人の方が強いわ！！」

と、一人の少年が何かを掲げる・・・

和人「おい、漸さんも協力してくれ！！ 今からこいつをブッ倒す！！」

なのはだけじゃない、みんなを傷付けるやつは・・・」

速人「和人兄ちゃん復活速い・・・関係ないが。その意見には俺も賛成だ。」

俺は選定者。行き過ぎた転生者は・・・」

もう一人の少年が立ち上がると他の少年少女達も立ち上がる・・・

漸・ランスター SIDE OUT

美樹「私の大切な人たちを殺そうって言っただったら・・・」

大樹「俺の宝物を盗もうっていうなら・・・」

カイラ「先輩達を狙うんだったら・・・」

龍臣「この町を壊そうってんなら・・・」

撫子「私を待っていてくれる所を壊そうというなら・・・」

さくら「大事な家族に何かしようというんだったら・・・」

零時「この世界を支配しようとか考えている奴は・・・」

煉華「死んでも償えない罪を犯した貴方は・・・」

ツカサ「そんな欲望を持っているんだったら・・・」

元重「お前のような最低系転生者は・・・」

由貴「例え神がこんなまで許しても・・・」

セン「こんな俺を受け入れてくれた奴のためにも・・・」

一茶「大事な場所を侵そうって言うんだったら・・・」

落神「巨大な力を持つちまった奴は・・・」

アイ「人を支配しよう何ていう考えを持つ人は・・・」

走輝「こんな事をしないと満足できない人なんて・・・」

裕也「こんな望みを持つとする奴なんか・・・」

漸「皆を怖がらせようとする最低野郎は・・・」

光華「大勢の人を困らせようとするなんて・・・」

なるかみ「自分のためにしかそんな力を使わない人は・・・」

圭一「俺たちの正義に反する奴は・・・」

真司「皆の笑顔が無くなって欲しくないから・・・」

護朗「こんな面白い世界を無くそうってんなら・・・」

ヒビキ「そんな巨大な力があっても破壊しかないなら・・・」

「この俺／私／僕が、お前をぶっ飛ばしてやる!」

和人「起動、皆の思いを一つにまとめよ!! 召喚『キズナ』!!」

[illegible]

“ 闇 ” の現段階のバリア数・・・12

すべて別の技を使って破壊しないといけません。

“キズナ”、その場にいた者達的能力を繋ぐマテリアです。

キズナが深いほど威力が上がり、人数が多いほど繋がります。

出会った事の無い人もいるこの26人、一体どうなるのでしょうか？

二人一組、神が選んだ組み合わせでどこまで力を上げられるのでしょうか。

26人によるナイツオブラウンド、お楽しみください・・・

皆「」「黒一文字さん、疾風の音さん、SAKIIさん感想ありがとうございます！」

次回、作者の十八番であるオリジナルが暴走しますよ！！

次回の内容は突っ込んだら負けな事になります。

後、次回のみ台本型ではないです。後トリプルブレイカーは無いです、すみません・・・

連撃前編

SIDE OUT

和人が起動させたマテリア『キズナ』。

このマテリアは使用した時の加盟人数で威力が変わる。

また、能力や個人の友好関係でも威力が増減する・・・

そして、それを繋げるものは・・・

「・・・光？」

起動させた張本人、和人が呟いたように出てきたのは光の球。

それが二つに分かれ、とある二人へ向かう・・・

「なんだろう、この光は・・・」

「優しいね・・・力が出てくる」

最初に来たのは黒坂大樹×八神さくら。

「まあどうでも良いよね。『5 5 5 変身！』complete
」
「e
」

「それじゃ行こうかな？『アクセル！』変身！」

来たのを確認し二人はファイズとアクセルへ変身する。

その瞬間、何をすればいいか頭に入ってきた・・・

「そうか・・・よし、八神いくよ！！！」

「分かってるよ！『トライアル！』」

さくらはアクセルから高速移動に適したアクセルトライアルへフオ

ームチェンジ。

そして二人並んで・・・

「制限時間は10秒間！」

「まずは・・・破壊するよ!!！」

という掛け声と共に大樹はファイズアクセルを、さくらはトライアルメモリを起動させ10秒間の加速状態に入る。

『速いつ!? 二人も対処できないだど!?』

そして最後に二人は言う。

「9.8秒、それがお前の敗北へのゴールだつ!!！」

その瞬間に何かが纏っていた最初のバリアが割れ、同時に部屋が壊れてもとの海辺に場所が移る。

それと同時に二人についていた光の球が『×2.5』という数字と共に離れていく。

次に来たのは・・・

「・・・俺？」

「僕、かな？」

神宮セン×篠嶺由貴である。

「まあ良いか・・・よしっ！」

センは本来の魔人の姿であるヤマタノオロチへと姿を変える。

そしてそれを見た由貴はとある剣を取り出す。

「おい・・・まさかそれ草薙剣 くさなぎのつるぎ か!？」

「そうだよ、伝承だとヤマタノオロチの尾に刺さってたらしいしね」

彼女は源平合戦時代に入水自殺した安徳天皇。

転生する時に一緒に持ってきた三種の神器の一つである。

そして、虚空から植物が生えていき・・・

「乗り遅れんなよ!」

「そっちなね!」

という掛け声と共に植物からとあるものが出てくる。

「ん? こりゃ・・・闘気か!」

センの魔人としての食料は闘気。

それを食らうとエネルギーが由貴の持つ草薙剣に集まっていき・・・

「神に変わって・・・ぶっ飛ばす!!」

そのまま草薙剣を振り下ろすとエネルギーが刃となって何かを襲い、バリアを一つ壊す。

同時に『x3'0』という表記になった光は次の人物の元に向かう。
・

その人物は・・・

「ボク・・・だね」

「俺か・・・」

宮薙煉華×虚霊落神である。

だが、技を発動しようとした所で何かから砲撃のようなものが飛ぶ。皆はよける事ができたのだが・・・カイラから最悪の報告が飛ぶ。

「・・・げ！？ 砲撃の先に誰かいます！？」

通った先にある全てのものを破壊しながら真つ黒の砲撃は飛ぶ。

そしてその先に全く気付いていない者が・・・

「だめだ、何処に行っても人がいねえ・・・」

それは、剣道帰りである一夏・箒・冴子・才人・謙吾に偶然外にいたユイの六人。

「って、なんじゃありゃあああああ！？」

だが、避けられない位になってユイが気付いた。

危ない！ と男三人が庇うように前に出たのだが・・・

「・・・あれ？ こねえな・・・」

「つて、宮薙！？」

当たる瞬間、煉華と落神が六人の前に出たのだ。

「光と闇よ、合わされ・・・無は消す事はできないよね？」

「優なるを下せ！ 墜天、卍解ッ！ どれだけ強くても弱点はあるんだよな！」

更に掛け声と共に・・・

「「能・力・反・転！！」」

そのまま砲撃を打ち返してしまった。

打ち返された砲撃はバリアを破り、光は『×3 / 5』となって次の人物へ向かう・・・

次の二人は・・・

「私……？」

「僕……かな」

八神なるかみ×秋山裕也である。

「じゃあ行くよ……」

裕也は念を込めると髪の色が金髪になる。

そのまま空中でクラウチングスタートの構えを取る。

一方なるかみはセンと由貴の時の闘気を一箇所に集めていた。

そして……

「では……行きます!」

「ああ、やってやるよ!」

なるかみは集めて纏めた闘気を能力によって裕也に感染させる。

その直後に裕也は空を蹴って・・・

「闘気の・・・一撃!!」

という言葉と同時にバリアを・・・殴って壊した!

そして光は『x4,0』となって二人から離れる・・・

その光は・・・

「・・・俺か」

「私ですね」

青井元重×夜神撫子の所に飛んでいった。

それを見た何かは砲撃の準備をするが・・・

「攻撃なんて・・・」

「やらせはしないが？」

撫子は闇で出来た槍を、元重は能力を発動できる状態にする。

そして砲撃が放たれる瞬間・・・

「闇に・・・消えろ（消えなさい）！！」

元重は『意味性の崩壊 ゲシュタルトブレイク』により砲撃をかき消し、

撫子は消えた直後に槍をバリアのスキマに差し込んだ！

耐えられなくなったバリアは壊れ、光は『x 4 '5』となる・・・

そして・・・

「俺と・・・」

「私、ですか？」

光は八神ヒビキ×カイラ・神山のところへ向かった・・・

カイラは何かの機械を起動させ、ヒビキに言う。

「ポイント・・・発見！」

「よし、やるぞっ！！」

カイラはヒビキに籠手のようなものを投げ、ヒビキはそれを装備する。

そのままとある一点に狙いを定めて・・・

「クリティカルヒット!!」

そのままそこを殴りつけた。

普通なら割れないがその一点は他より攻撃が通りやすい所。

更にヒビキの身体能力によりそこからヒビを入れ、バリアを割る事ができた！

光は『x 5 / 0』となって次の人の下に飛んでいく・・・

『ダブルアクセル』『草薙剣』『弱者の反撃』『闘気の拳』『デリートワールド』『急所一撃』発動。

残りは七組 バリアは六層です。

残りメンバー・・・高木和人 高木速人 近藤美樹 桐月龍臣
麻館一茶 香谷走輝 神山零時 鹿目ツカサ 漸・ランスター 細
川アイ 黒羽光華 草薙護朗 桂木真司 後藤圭一

.....

皆「黒一文字さん、霊宮空刀さん、竜王&竜姫さん、ディケタスさん、妖気さん、疾風の音さん、SAKKIさん感想ありがとうございます！」

和人「・・・竜王&竜姫さんからとんでもない物を頂いた」

速人「マテリア『魔獣』。竜王&竜姫さん所の魔神竜馬の能力発動&暴走状態が召喚されるらしい」

美樹「・・・え？ パジャマだったり入浴中だったりする！？」

大樹「問題ないって向こうは言っているけど・・・問題あるよねこ

れ!？」

撫子「……もう、何も怖くありません……」

圭「次回も多分台本形式じゃないからな」

柊「それが終わったら私達の中から誰が出るらしいよ」

直也「うわ、ズルい……世界が英雄から出るんだろうな?」

克己「それは分らんな……凍結中の奴から出て欲しいよな」

カイ「それ、僕達の首絞めてません?」

連撃後編（前書き）

次回辺りから題名変えます。

連撃後編

現在6組12人に回った光、
『×5 / 0』

それが次に向かう人物は・・・

「は、俺!？」

「僕だね」

桂木真司×鹿目ツカサだ。

「・・・あれをやるしかないな、変身っ！」

「じゃあ僕も『タカ! トラ! バッタ! タ・ト・バ タトバ
タ・ト・バ!』変身！」

真司はどっからか龍の絵が書かれたケースを取り出しベルトに付けると『仮面ライダー龍騎』に、ツカサはオーズタブコンボに変身する。

「鏡無しで変身するのかよ・・・」

誰かが言った呟きはとりあえず放置して・・・

「って、オーズか・・・という事はあれだな」

オーズに変身したツカサを見て真司はケースことガードデッキからとあるカードを取り出し、左腕にある召喚機「ドラグバイザー」に装填する。

すると『ファイナルベント』という音が聞こえ、何処からともなく龍騎の契約モンスター「ドラグレッター」が飛んでくる。

それと同時にツカサはもう一度ベルトをスキャンし・・・

「W主人公ライダーだ！」

「これで・・・決まりだよ！」

「ダブル・・・仮面ライダーキック！！」

同時にライダーキックをかました。

バリアのあまりの力に二人はぶっ飛ばされるが、同時にバリアも一枚割れた・・・！

そして光は『x 6 / 0』と数値が増え次の場所へ行く・・・

そこにいた二人は・・・

「私か」

「俺か？」

黒羽光華×麻館一茶だ。

そろそろ危ないと思ったのだろう。何かの方はまた砲撃の準備に入る・・・

しかし、光華と一茶は全く動揺せず、手を重ね前に突き出す・・・

そして、発射される寸前、二人は叫ぶ・・・

「求めるは最強の防御・・・>>」

「ロー・・・アイアスッ！！」

二人で出したf a t eの防衛魔法。

それは、発射された砲撃を受け止め・・・消滅させる。

そして、そのまま・・・

「一斉砲撃・・・目標、あのバカ野郎!!」

コピーされた能力と主人公達の持つ能力・・・

それを二人で融合させ、全てを破壊する攻撃として何かに向けぶっ飛ばす。

無論バリアが耐えられるはずもなく、割れた・・・

光は『x8 / 0』と一気に増え、二人から離れる・・・

更に・・・光が行った先は・・・

「え？ 僕に何が・・・！」

「俺か・・・よし、行くか！」

香谷走輝×桐月龍臣だ・・・

所で、ザ・ワールドで有名なDIOの技を知っているだろうか。

時間を止めた後、相手に向かってナイフを投げるとナイフ自体の時間が止まってしまう。

そのためザ・ワールドを解いた時には大量のナイフが一気に飛んできるとい技である。

これはニコ動の方が詳しいかもしれないがそれは置いて・・・

走輝の能力はほぼザ・ワールドに近いレベルのクロックアップ・・・

そして龍臣は文房具等を武器にする事ができる・・・つまり・・・

「どんな敵でも時を止めたら」

「反撃する事は難しいよな？」

という掛け声の下走輝は龍臣ごと加速空間とも言える空間に入る。

その中で龍臣は大量の鉛筆なり定規なりを投げ、空中に止め・・・

「ぶつ刺されええええ!!」

どこぞの蟹の人並の文房具を同時に発射した・・・!

しかも加速空間で投げられたためそのスピードは計り知れず・・・

バリアはゆっくりとヒビが入って割れ、光は『 $\times 12 / 0$ 』となつて次の所へ向かう・・・

次に光に選ばれたのは・・・

「私みたいだね？」

「俺か・・・何をしろと・・・」

細川アイ×神山零時・・・

零時の能力はネブレイド・・・だけではない。

実はそれ以外にもあったりするがあまりに強すぎるため今まで使ってなかっただけであつた・・・

で、その中に更に強すぎるものがあつたのだ・・・

「時を止めて・・・」

「切り刻もうかな？」

「G5・・・エターナルッ!!」

そう、一日一回、一分しか止められないらしいが時を止めることができる。

そしてその空間の中で・・・

「さあ、さらけ出してよその奥を」

・
アイが腕をダイヤモンドレベルの硬さの刀にし、突っ込んでいき・

「GAME OVER!!」

1回、2回、3回・・・と、計16連撃を叩き込む。

そして時が動き始めた時、バリアはほぼ同時攻撃を食らった事となり・・・割れた。

それと同時に光は『x20'0』となってまた移動する・・・

更に繋ぐは・・・

「よし、行こうか」

「それじゃ、壊さしてもらうか」

後藤圭一×漸・ランスター・・・

「変身！『カポーン！』」

「それじゃ、変身！『KAMENRIDE DECADE Mk-II』」

圭一は『仮面ライダーバース』に、漸は『仮面ライダーディケイド Mk-II』に変身する。

それと同時に漸のバツクルからとあるカードが飛び出てくる・・・

「おつ、それじゃあちよつとくすぐったいかもな」『FINAL FORM RIDE B・B・BIRTH!』

「は？ ってFFR!?!」

圭一が驚いている中漸はカードをバツクルに読み込ませバースの背中を押す。

すると一気にセルメダルがバースのメダル投入部分に入り・・・バースは『バース・ディ』という姿になる。

「今まで入れるのに苦労してたんだが・・・まあいい、これで行けるなっ！」

「そうだ、これが俺たちの力だっ!!」 『FINAL ATTACK
K R I D E D E・D E・D E C A D E!』

そしてディケイドも自身の必殺技を起動させ・・・

「人の笑顔を潰すやつは・・・許さん!!」

ツカサ×真司の時と同じようにWライダーキックをぶち込む・・・

バリアは耐えられず、見事に粉碎した・・・

そして光は『x36'0』となって別の場所に向かう・・・

その二人は・・・

「やっぱり私か」

「よし、行くぜ!」

近藤美樹×草薙護朗である。

護朗は右手を上^に挙げ、美樹はポケットに手^を突^つ込む。

美樹がポケットに入れていたコインを取り出すと同時に夜のはずなのに陽光がさす。

「汚物は消毒つてな?」

「あの人の二番煎じだけど・・・」

そして・・・

ここで一つ、プラズマという言葉を知っているであろうか?

水を蒸気にした後も加熱し続けるとプラズマと呼ばれるものになる。

そして、炎と電気もプラズマといえる・・・

「「プラズマ・・・ブレイクッ!!」」

そう、美樹の電撃によるレールガン&護朗が発動させた『白馬』による太陽の炎。

この二つが交じり合い、最後の一番硬いバリアをぶち破る・・・!

そして、光は『x99'9』で一旦止まり、それから一気に数値が増えていく・・・

その光が最後の二人・・・高木和人x高木速人のところに付く頃には・・・

「さて・・・ぶっ飛ばそうか!!」

「転生者N000・・・選定結果、死刑」

数値を通り越し・・・『×』となっていた・・・

和人は最初に起動させたキズナのマテリアを取り出し、光を吸収させる。

そのまま弾き・・・速人の持つ鎌に当てる。

光はマテリアから鎌に流れ・・・そして・・・

「キズナは・・・絆は、全てを繋げ、全てを力にする!!」

そのまま鎌を下ろし、途轍もない光で何かを・・・

『予言の通りか・・・だが、お前等だって最後には消える運命なんだよ!!』

「そんなもん・・・しるかっ!!」

後日談、とでも言えはいいのだろうか。

あの後、俺と速人の放った衝撃で闇の書の闇ごと何かを消滅させた。

その時何か分離したように思えたんだか・・・マテリアルズか？
いや、それなら16以上も居ないよな・・・

まあ、とりあえずは原作破壊と言えるものは出来た。

だが、あの『キズナ』は途轍もない体力を消費する奴だったらしく、
気付いたら大晦日になっていた・・・

そして、篠原 雪那ノしのはら せつなって言う人と綺羅 彩香ノ
きら さいかという二人が俺等に会いに来たな。

何で分かったんだが・・・そこは突っ込んだらいけないんだろうな。
・

つと、そういうわけでなんでか終了式突破してもう明日には新学期・
・・・速いだろ・・・

その間にクラス全員にばれるわ音無の妹にばれるわらきすた一年組
にもばれるわ更にリトルウィング組にもばれるわ・・・

キンクリつつつたら悪いが殆ど書く事がなかった・・・って言えば

いいんだろうか・・・

まあ、明日クラス替えは俺等だけないらしいがクラス編成者は居らしい。転生者か・・・？

by 高木 和人 あの時の事を振り返って

PS 転生者の会って何なんだろうな？

- - - - -

そして・・・新学期・・・

「鳳 鈴音、メイ ファンリンよ、宜しく！」

「桐月 龍臣だ・・・って知ってるよな？」

「木下 優子、そこにいる秀吉の双子の姉よ」

事情を知っている龍臣と何故か知っていた木下秀吉の双子の姉である木下優子、そして中国から来たISの鈴音を加え、クラスはカオスになっていく・・・

・・・

皆「」「竜王&竜姫さん、疾風の音さん、ディケタスさん感想ありがとうございます！！」「」

『Wライダーキック』 『ALL AND COPY』 『文房具ぶ
つ飛ばし』 『氷時&金剛』 『プラズマブレイカー』 『相対する立場
のキズナ』 発動。

批評、誤字、脱字、間違い、キャラ募集、贈り物他なんでも来い
！！

和人「・・・前の魔獣に続いて竜王&竜姫さんからマテリア『魔妹』
を貰ったんだが・・・ラウラが出てきたらどうするんだ・・・」

はやて「ちなみに私は皆が闇に飲まれた時にやられてたって考えと
いてくれ、ほな！」

さくら「その六、モデルはすばらしきこのせかい×サ・ガらしいよ」

撫子「まだ続いてたんですか！？」

カイラ「その七、作者の友人も参戦しているらしいです」

龍臣「・・・は？ 作者の友人って・・・」

カイラ・神山のとあるレポート

カイラ・神山SIDE

えっと、ここでとりあえず現在までの原作崩壊伝えておきますね。

まずリリなのは・・・

- ・アリシア生存&オルフェノク因子持ちで仮面ライダーデルタ

- ・プレシア生存

- ・リインフォースアイン生存、夜天の書とは完全に分かれているらしい

- ・闇、完全消去、しかしマテリアルズがいる可能性大、しかも原作以上に

- ・クロノの性格が原作より柔らかい、後何故かクラス入り。しかしリンディさんは何かおかしい

・ユーノがクラス入り。風呂イベントは起こってない模様

・アリサに超能力、炎系ってバーニングアリサかよ

まあ、こんな所でしょうか。

では他のはごっちゃで行きますね。

・島田美波が小学校からこっちに来ている

・篠ノ之箒が転校していない。ただし凰鈴音は転入した。

・平賀才人が剣道をやっている

・毒島冴子・棗恭介・宮永麗が他の人と同じ学年、あとイリヤも

・棗鈴が理樹たちと同じ学年じゃない。

・ 結衣崎ひよのと水代火澄がブレードチルドレン、鳴海歩は清隆版ブレチルだそうで

・ 第四回聖杯戦争が海鳴市であった

・ 何故か仮面ライダーの敵がこの世界に少しいるようだ

・ 古泉一樹が最初からクラスにいる、しかも炎系の超能力者

・ 泉こなた達六人が小学校から知り合い

・ 小早川ゆたか・岩崎みなみ・田村ひよりの三人も小学校から知り合い

・ 音無結弦が直死の魔眼持ち、日向秀樹が霊視能力者

・ PSP02の主人公立場が何故かクロノ、原作は進んでいるのか？

・ 土御門元春が陰陽師である事をばらした。ちなみに使用しても副作用はないらしい

・ ジムリーダーがかなりクラスにいる。一応年齢はこっちにあっているけど・・・

・ 間桐慎二が原作より歪んでいない。これは当然か？

・ 聖杯三家が協定を結んでいる。聖杯はまだ起動しているらしいが

・ 音無初音生存、ユイも事故にあっていない。岩沢は家出人らしいが

・仲村ゆりと立華奏が大災害の生存者。二人以外にも数名いるみたい

・西村宗一の補習に耐えられる人がいる、らしい・・・

・御坂美琴は能力に目覚めたが白井黒子はまだ。しかし原作で出なかつた人をひつくるめて目覚める可能性がある

・ISは作られていない・・・と思ったら一台は作られているらしい。白騎士か？

まあ、こんな所でしょうか。

これ以外にも沢山あるような気がします・・・それは後ほど。

泉こなたの怒りMAX 改（前書き）

あけましておめでとついでいます！

少しシリアスかも・・・

泉こなたの怒りMAX 改

ある日の夕方・・・

「今なら誰も居ないよな・・・？」

少年、高木和人は・・・アニイトに買い物に来ていた。

彼の家族や同居人、それと転生者陣にはばれているが、隠れオタクなのである。

しかし、さらに仮面で顔を隠している彼を発見した人物がいた。

それは・・・

「おう、和人君じゃん」

「こ、こなた！？」

クラスの泉こなたである。

「お、俺は高木和人とか言う奴じゃない」

「私苗字までは言っていないし第一さっき『こなた』って言ったよね？」

「・・・負けた・・・けど何で分かったんだ？」

「女の勘」ドヤ顔

「それで済みますか普通！？」

ちなみにこなたもアニイトに買い物に来ていた・・・女の勘って怖いよね。

「「ふうう・・・」」

こなたは両手に計四袋、和人は一袋だけ買って近所の公園のベンチに座っていた。

と、そこで和人の背中から涼香がひょいと頭を覗かせた。

「おう、涼香ちゃん連れてきていたんだね」

「まあな、正確には離れてくれないだけなんだが」

『だってカズトの頭好きなんだもん』

「理由それだけ!？」

だが、そんなこんなで数分過ごしていたのだが・・・

「見つけたぞ・・・カズト・タカギ」

「は?・・・お前等何もんだ・・・?」

突然二人(三人?)の周りに現れた黒ずくめの集団・・・

「FF7のマテリアを扱うオリ主ポジションか・・・」

「もう一人は分かりません、ですが転生者だと思われます」

「え、何、私まで転生者と勘違いされてる!？」

周りの会話にこなたはツツコムが無視される。なのはの世界にらき
すたのキャラがいるはずないと思っっているのだろう。

黒ずくめの集団は和人達を取り囲んだまま結界を張る。そして・・・

「は・・・バスターソード・・・だと!？」

それぞれが武器やらなんやら取り出し、一番前にいた奴はFF7の
クラウドの初期装備であるバスターソードを取り出した。

こなたが「何処に持ってたんだ」とツツコミを入れるが周りは無視。

「GAME STARTだ・・・死ね」

そして掛け声と共に全方向から攻撃が・・・

・・・ドオオオオオオオン!!

通らなかった。

「うわあああああ!？」

「何だ、何か爆発したぞ!？」

何時転がしていたのか和人が持っていた護身用の爆弾（竹内理緒作）が10個ほど爆発したのだ。

「こなた、今のうちに逃げるぞ!！」

「あ、うん!」

一緒に出た砂煙に紛れて逃走した・・・はずだったが、

・・・ザクツ・・・

「こなたっ!！」

突然こなたの影から刀のようなものが飛び出し、その先で鮮血が舞った・・・

だが、それはこなたのものではなかった・・・

『・・・っ!!』

「りよ、涼香ちゃん!？」

咄嗟に反応して身代わりになった涼香のものであった・・・

『はやく・・・にげて・・・』

という言葉の直後に刀が引っ込み、涼香は地面に落ちていく。

こなたはそれを手で受け止め、何回もさするが反応がない・・・

「ちょ、嘘でしょ？ 死んだふりしているんだけなんですよ？ それとも寝ているだけ？」

そんな事を言いながら更にさするが・・・涼香は微動だにせず。

和人が『フルケア』で回復させるが・・・それでも駄目だった・・・

「い、異分子を一つ殺したぞー!!」

その時、こなたの影から刀を持った奴が現れた。

そしてその声に集まってくる黒ずくめたち・・・

「・・・何で涼香ちゃんを殺したの・・・？」

そしてこなたの質問に・・・彼等は答えた。

「「「物語に異分子はいらず！　そして我等『転生者の会』のため
に！」「」」

そして、これがこなたを激怒させる一言にもなった。

「・・・そう、それだけか・・・」

「い、こなた!？」

この時、一番近くで聞いていた和人は「文字通りからだが凍りつく
思いがした」と言う・・・

「じゃあ・・・私が殺しても良いんだよね・・・」

涼香が光となって浮かび上がる・・・

「こなた・・・お前は・・・!？」

こなたを中心に気温がゆっくり下がっていく・・・

「もう・・・怒ったんだから・・・」

光となった涼香がこなたの体の中に入っていく・・・

・・・

「・・・っ・・・一体何があっただ・・・!？」

最後の言葉のあまりの怖さに気絶してしまった和人。

しかし、周りを見渡して・・・和人絶句する。

その理由は・・・

「・・・完璧に凍ってんのかこれ・・・」

周りに居た黒ずくめ達が一人残らず氷付けにされていたからだ。

否、氷付けなのは周りにあった壁や床までもである。

「・・・ってこなたは!？」

ある程度見てから思い出した和人はこなたがいたであろうポイントまで走っていく。

そしてその場所にあったのは・・・

「・・・え・・・」

気を失っているあなたと・・・半透明になった亡くなったはずの涼香であった・・・

・・・

皆「「妖気さん、霊宮空刀さん、ボツスンさん、疾風の音さん、DEADPOOL ZERO AQUAさん、SAKIIさん感想ありがとうございます！」「」

和人「久々の投稿にして俺等と転生者の会との接触、そしてこなた覚醒」

速人「台本形式をやめているが大丈夫なのか・・・？」

美樹「知らないわよそんなの・・・けど、キャラが似ている人とかきついわよね」

大樹「だけど後書きはそのまま台本形式なんだね・・・」

さくら「あ、言い忘れていたけど僕たち三人もあのクラス入りしているから」

撫子「後、鳳さんの名前を間違えていたのでまとめのほう書き直しておきます」

龍臣「あ、そうだ、マテリアル編の話の分岐書いておくぜ」

・ポケモンルート 崩壊しかけの世界を突っ走る。レッドなどの主キャラも参戦する予定。

・ペルソナルート 高校で

×ペルソナ4オリジナル分岐。ク

ラスメンバーにあのキャラ乱入予定。

・PSP02ルート 作者の作ったオリキャラ数名参戦。しかしストーリーはオリジナル進行予定。

・蒼エクルート クラスにあの双子乱入。高校で
×蒼エクの
オリジナル分岐予定。

・何もなし 特になし

ちなみに票が分かれたら混ぜくります。

後、活動報告のより減っていますのでご了承を。一人二票です。

ちなみに投票は次の投稿まで。気長に待ってます。

後、活動報告の方からポケモンとライダーは一票づつ入っています。

カイラ「あ、後キャラクターの投稿についてなんですが・・・色々変わりました」

は必須、その他は希望でどうぞ。

名前（振り仮名まで）

性別

年齢

性格

・容姿

・能力

・二つ名（簡潔に）

・周りとの関係

種族

人間か転生者か。転生者なら出来れば番号も。考えるのがめんどいので。

また、吸血鬼やエルフなどという面でも。

特殊・・・PSPoよりニューマン・ビースト（ドワーフ・フェルパー混）・キャスト・デューマン

とともによりクラッズ・ノーム・バハムーン・フェアリー・セレスティア・ディアボロス

・所属

一体どんな組織に所属しているか。管理局とか転生者の会とか。ただしこれから投稿される転生者は全員転生者の会入りします。

圭「ジムリーダーの奴まだやってるからな」

投票対象キャラ・・・

マチス・エリカ・キョウ・ワタル・ハヤト・ツクシ・アカネ・マツ
バ・ミカン・イブキ

ツツジ・アスナ・センリ・ミクリ・ダイゴ・ヒョウタ・ナタネ・ス
モモ・スズナ

ポッド・コーン・デント・カミツレ・フウロ・イツキ・リョウ・オ
ーバ

終「今の順番はマツバ デント ミカン ダイゴ ヒョウタ エリ
カです」

直也「ちなみに上の六人で一旦切ってこれからの投票は別にするか
らな」

カイ「後、更新するたびに一票入れられますよ」

皆「「「これからも宜しく願いします!」」「」」

泉こなたの怒りMAX 改（後書き）

不定期ですがこれからもよろしく願いします

ジェイル・スカリエツの説明会（前書き）

ナンバーズが誰も出てこないという・・・

ジェイル・スカリエッティの説明会

高木和人と泉こなたが一緒にいる頃・・・

「おかしいな」

「どうしたんだ突然？」

春日京、通称キヨンの家に高木速人、近藤美樹、鳴海歩、水代火澄、涼宮ハルヒの五人が居た。

彼等は元々闇の書事件の最初の接触時に生まれたポケモンの事で集まっていたのだが・・・

ちなみに言い忘れていたがキヨンの妹、春日光／かすがひかりも偶然ポケモンを見られてしまい転生云々から話している。

何故転生云々から話すのだろうか・・・作者であるはずの自分すら分からない。

閑話休題

キヨンに懐いているラルトスと火澄に懐いているイーブイ・・・

たまに様子見という名目でハルヒはよく会いに来ている。

それに偶然着いてった速人と歩、美樹だったのだが、さわりながら速人はボソッと最初の言葉を呟いた。

キヨンはそれに気づき、速人に質問を投げかけたのだが・・・

「美樹、転生者の接触時期ってどういうものがあるか？」

「えっ、私？ そうね・・・やっぱり原作途中ね・・・または原作の始まる直前とか人によって違うわね・・・」

「そうか・・・??」

美樹に質問を投げかけた後、返答を聞いて速人は頭の上に？マークを浮かべ始めた。

「速人君どうしたのよ？」

心配になりハルヒまで速人に質問を投げかけるが・・・速人の言葉で全員が固まる事となる。

「闇の書事件の時、最後に出てきた奴以外自分から介入してくるやついなかったよな・・・」

「・・・え」「」

速人はずっと思っていた。『いくら最初に選定しすぎたとしても介入してくる奴少ないんじゃないか?』と。

だが、そのことを考える前にこの場に介入してくる奴がいたため、一瞬この話は忘れ去られる。

「キョン！ ちょっと入れてくれ!!」

「は？　って和人！？」

春日家に介入して来た奴、それはこなたを背負った和人だった。

.....

数時間後、スカさんのアジト。

そこでこなたは精密検査を受けていまはゆっくり寝ている。

そんな中、和人を含む七人＋柊かがみ、つかさ、高良みゆき、日下部みさお、峰岸あやのはジェイル・スカリエッティから説明を受けていた。

「こなたは大丈夫なんですか！？」

「だから落ち着いて、今説明するから」

かがみの焦りを抑えながらスカさんは説明し始める・・・

「まず、あれは私が原因ではないね」

「は？ 涼香の生まれは関係ないのか？」

最初から飛んだ和人の質問に肯定しながら話を続けていく。

「うーん・・・むしろ私が研究したいんだけどという状況なんだよね。まずはこれを見てくれるかな」

と、話しながら出したのはこなたのレントゲン写真。心臓に何かがはまっている。

「この心臓についているのが涼香ちゃんの体だね。今は宝石みたいになってるけど」

「宝石、ですか？」

「そう、宝石だ。正確に言えばデバイスみたいな感じだね」

宝石とデバイス、その二単語で和人とかがみ以外はある程度の事を悟る。

そして、二人も次の言葉で納得し、転生陣は眩きがハモることとなる。

「簡単に言えば涼香ちゃんはこなたの守護霊、というかこなた専用のユニゾンデバイスとなつたんだよ」

「……アスラクライン？」

ちなみに作者はアスラクラインは出す気がないです。

……

更に数分後、カイラ・神山、クロノ・ハオラオン、黒坂大樹の三人がアジトに増えた。

クロノはスカリエッティを見たたん拘束しようとしたが転生陣に必死に止められた。

説明で何とか納得し、和人はクロノとカイラを呼んだ理由を話し始

める。

「なあ、『転生者の会』って知ってるか？ 今日襲われたんだよな・
・・」

「何ですかそれ？ 転生者って・・・」「！？ こっちまで現れたのか！？」

和人が言った単語、『転生者の会』。

カイラは頭に？マークを浮かべるだけだったがクロノは驚愕していた。彼は転生者の会について知っていたからだ。

「転生者の会・・・最近管理局員を殺している極悪集団だ・・・殺された奴の中には転生者と思われる奴も混じってた」

「「「な！？」」「」」

クロノの知っている転生者の会の情報に周りに居る者は全員驚愕していた。

「どう考えてもやばいんだってヴぁー！」

「と言う事は私達も狙われる対象に入っているのかしら・・・」

「もう・・・俺には何も言う事が出来ないなあ・・・」

みさお、ハルヒ、火澄の順番で少し絶望した言葉を放つが・・・

「我が護るぞ！！」

「「「え・・・こなた！？」」」

突然現れたこなた、否、ユニゾンしたのか銀髪になり性格が変わった・・・スノウこなたが護る発言。

「ふっ、我が居られるのも一回三分だったりするのだが気にするな」

「ウルトラマンか！ 性格変わってもこなたはこなたかい！！」

「そりゃそうであろう、ただの二重人格と思えばよい」

「「むしろ納得いかなええええええ！！」」

かがみの突っ込み かがみと和人の突っ込みが炸裂したがSこなたは全く動揺せず。

更には「では、また会おう」と言い残してこなたと涼香に分離&気絶する始末。

大樹曰く、「氷ではなく風みたいだった」そうな・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・

皆「「GMSさん、izumiさん、DEADPOOL ZER
O AQUAさん、妖気さん感想ありがとうございます!!」」「

こなた・涼香「『祝、Sこなた誕生!!』」

和人「作者曰く暫くでないらしいがな」

こなた「mgd!？」

美樹「ルートなんだけど蒼エク以外に一票ずつ入ったからキャラだけ行くみたいよ」

大樹「次回、あの二人が参戦するみたいだね」

圭「ジムリーダーの奴まだやってるからな」

投票対象キャラ・・・

マチス・エリカ・キョウ・ワタル・ハヤト・ツクシ・アカネ・マツバ・ミカン・イブキ

ツツジ・アスナ・センリ・ミクリ・ダイゴ・ヒョウタ・ナタネ・スモモ・スズナ

ポッド・コーン・デント・カミツレ・フウロ・イツキ・リョウ・オーバ

柊「今の順番はマツバ デント ミカン ダイゴ ヒョウタ エリ

力です」

直也「それから先は現在投票無しだからな」

．．．．．

「えっと、ここですね。僕と同じ年齢の探偵がいるのは」

「みたいだな、俺の知り合い居るかなあ．．．」

「僕に聞かれても．．．」

海鳴市にある二人が来ようとしていた．．．

「ユート、リンディさんが一緒に海鳴市に住まないかって」

「行く行く！！ 僕も行くぞ！！」

「おう、そっぴやガーディアンズから一人来るらしいから一緒行つて来い」

エミリア・パーシバル、ユート・ユン・ユンカース＋？？？も来ようとしていた・・・

「さて・・・ここ、何処なんだろう・・・」

新しく目覚めたジムリーダーも居た・・・

・
・
彼等の乱入は物語にどう影響してゆくのか、そしてマテリアルズは・

ロード・デИАーチェの有り得ない発言

高木 和人SIDE

「・・・」

転生者の会に襲われた日の次の日の夜。

俺は、クロノから渡された転生者の会の情報を見ている。

転生者の会は基本的に以下の事をするらしい。

- ・管理局員を無差別に殺す。
 - ・出会った転生者を殺す。
 - ・殺した転生者の所持品などを奪う。
 - ・オリ主（つまりは・・・俺か）を殺す。
 - ・公私関係なく違法研究所を破壊し乗っ取る。
 - ・転生者と疑わしきやつ等も殺す。
- e t c . . .

簡単に言えば管理局とイレギュラーを殺し、イレギュラーなアイテ

ムを集めるといふ事らしい。

クロノの話ではジュエルシードを筆頭に色んなロストログアも色々盗まれたとか。

しかも友人の話では上層部と結託しているとか言つ話まで・・・おいおい・・・

ちなみに転生者の会は転生者だけではなく普通？ の人達も入っているらしい。

コン コン

さて・・・そつそろ寝るか・・・

コンコンコン

そついえばエミリアとかがこつち来るらしいな・・・何で？

コンコンコンコン

大樹は・・・うん、完全に寝てるな。速人は寝てるふりして鎌抱えてるな・・・

コンコンコンコンコン

確か速人はこの情報とか新しい許可転生者とか話しているんだろうな・・・

<そっそろ反応しろこのバカもんがああああ!!！>

つつ!! 誰だよこんな時間に念話なんかかけてくる奴・・・

<うるさいっ!! 近所迷惑だっ!!！>

<そっちが反応しないのがいけないのであろう!! 近くの窓を見よう!!！>

<窓? なんだ・・・!?!>

どっかで聞いたような声だなと思いつつ、窓を見ると・・・

「え・・・はやて?」

< いや、うぬは我の事知っておるだろうに!! >

八神はやて・・・ではなく、マテリアルの一角『闇統べる王』が窓の先で浮かんでいた。

・・・・・・・・・・・・・・・・

「なるほど、分からん」

「そうだな」「そうだね」

「うぬ等・・・」

そいつ・・・もうロードで良いか。の話によればさつき生まれたばかりだという。

そんで何故か別の管理外世界で近所に・・・俺のマテリアルしか居なかったらしい。

俺のマテリアルって何だよ!! 　って突っ込みそうになったがまあいい・・・

んで、海鳴までやってきたのだが疲れて・・・更に何故か俺の家に
一瞬バカかと突っ込みそうになったが「突然消すようなことはしな
いであろう」と。信用されてた・・・

多分あの取り込まれた時に俺等の事知ったんだろうな・・・

「だけど、記憶通りじゃなかったらどうしたんだ？」

「逃げたに決まっておる」ト、ヤ顔

「」「威張って言うことじゃないと思うんだが（けどね）・・・」

「」

さすがというか何というか・・・俺様系だなこいつ・・・

ちなみに速人と大樹にはマテリアルの行動理由は前にはなしてある。

「つと、そうだ。少し頼みがあったのだが・・・」

「ん？・・・まさか」

つと、そこでロードから一言、速人と大樹は仰天し、俺の予想の斜
め上な事を言った。

「正直言つて我は闇の書復活などどうでもよい。すまぬ、我の体を人間にしてくれないか？」

「……えええムグツ！？」

「大声出すな……って復活なんてどうでもいい！？」

「うむ、うめのマテリアルが『復活なんかしたら楽しいこと出来ないぜ』とな」

「楽しいことつて……まさか」

「うぬらの学園生活とか遊戯とかに興味を持ったのだ」

「何だそつちか……よかった……」

とりあえず、どうしてこうなった。

.....

次の日。学校？ 気にするな。

ちゃんとしているし授業も受けている。

「つーわけでスカさん、頼めるか？」

「そこで私か・・・」

俺はロードを連れてスカさんのアジトに来ていた。

一応俺のマテリアルは探したんだが・・・見つからなかった。

話を戻して、スカさんなら多分出来るであろうと思いロードを連れてきたんだが・・・

「それなら・・・」

スカさんは手のひらをこっちに出してきた。

俺がポカンとしているとスカさんは・・・

「君の持っているマテリアを一つ、それで交渉成立だ」

・・・分かってたよ。スカさんがMAD科学者で無料な訳ないって。けど一つ渡したら複製しそつで怖いんだよな・・・

「さすがスカさん・・・goodじゃないですか。出来れば強いマテリアお願いします」

ユナ、お前もスカさん側かよ・・・

体自体は素となる部分は偶然作っていたため一時間で体は出来るらしい。

ロードはスカさんに体の検査を受けたらしいんだが・・・帰ってきたときすごい汗かいていた。

多分あれだな、研究されそうになったんだな。

・・・ちなみにマテリアは『HPMP入れ替え』。この世界じゃ体を使って魔法を行使する物になっていた。

つまりこれを使えば魔力ゼロでも魔法が行使できるという・・・おいおい。

ゲームじゃ入手条件かなりきついしこれならユナも納得いくだろう・

と、そんな時、新たな来訪者が現れた。

「ドクター・・・マテリアルです」

[illegible]

「で、何でお前がここに居るんだ巧……」

入ってきたマテリアルは・・・何故か巧だった。

「確かに、お前の友人、そっくりだが俺は巧じゃねえ！」

「容姿が一緒だったら巧としか言えねえよ！」

「俺なんかが巧だったら本人に申し訳ない!!」

「う、うぬら落ち着け」

「ロードは黙ってる!!」

そして俺等は立ち上がって……

「俺はお前に会えて嬉しいぞこのやろおおお!!」

「オリジナルには会いたくなかったわこのやろおおお!!」

「発殴り合って手を繋いだ。」

「うぬら・・・後ろに夕日が見えたぞ・・・」

「はっ、ついやっちまった!!」「」

「で、お前が俺のマテリアルなのかよ・・・」

「ああ。あの空間覚えてるだろ？ あそこで何故かこの姿になったんだよ・・・」

巧、性格には時任 巧ノときとう たくみ。闇の書の中でクロツカ
ーって呼んでいた奴だ。

なるほど、道理で闇の書に従っていないはずだ。俺の記憶通りに再現されていたら・・・

それでマテリア持っていた理由も分かる。そりゃ俺のマテリアだからな・・・

・・・「後次会うのはこの事件が終わってからだからな」って、こういう意味だったのかこのやろう!!

「あ、そうだ。ほい」

頭の中で怒っていたら巧は二つの召喚マテリアルを渡してきた。

「とりあえず、起動させてみな」

と言われたので片方を使ってみたら・・・

「ひっ・・・」

「」

声が出なかった。理由はパジャマ姿の男の娘が居たからだ。

巧は・・・あ、固まってる。しっかりしろクロツカー！！

・・・遠くでブシュウウウって何か聞こえたぞ！？

「こ、ここ何処だよ！？　ちょ！？」

「お、落ち着け落ち着け！！」

よく見ると手足が毛皮で包まれていて尻尾が・・・

「・・・偶然二つとも拾ったんだが・・・」

「一体何があつたんだよ・・・」

召喚された奴の名前は魔神　竜馬／まがみ　りょうま。

巧曰く、「こつち来る時に拾って何か暴走プログラムはいつてたからそれ消しただけ」らしいが・・・

マテリアの名前は『魔獣』。ちなみにもう一つは『魔妹』。

もう一つも召喚したかったが嫌な予感がしたのでやめておいた。

今の姿はフェンリル？　とかいうやつで他にも二形態あるらしい。

この直後、ツツコミとかに疲れたのか俺は寝てしまい、起きた時にはロードと巧は人間になっていた。

[illegible]

皆「「疾風の音さん、DEADPOOL ZERO AQUAさん感想ありがとうございます！」」

巧「つーわけで俺が出た」

圭「うわ、良いな・・・」

巧「今回は俺とロードの登場＋竜王＆竜姫さんとこの竜馬だな」

竜馬「ちなみにマテリアの設定はこんな感じな。送られてきた時とかなり性能が変わっているらしい・・・」

『魔獣』

「闇を狩る少年」の魔神竜馬が召喚される。

色々改変した結果、フェニックス・フェンリル・ヴリドラの形態のどれかで召喚という形に。

たまにパジャマだったり入浴中だったり・・・ちなみに形態はランダムで召喚しなおさないと形態変化は出来ない。

『魔妹』

「闇を狩る少年」の魔神雪、またはラウラ・ボーデウィツヒが召喚される。

どちらもインフィニット・ストラトスISによる攻撃で支援するが、竜馬がいると戦闘にならないという・・・

和人「・・・何だこりゃ・・・」

空「あ、マテリアルズの募集は終了しました」

柊「版キャラ用のキャラとかは人が少なかったから転生者に回したよ」

美樹「あんたら・・・何の募集していたのよ・・・」

大樹「あ、美樹は俺達とは別の部屋で寝ているから今回出てこなかったんだよ」

速人「感想・誤字脱字指摘・キャラクターなど募集している」

なのは「次回、久々の私とマテリアルズの一部と探偵と赤い人が出ます」

ロード「うむ・・・他のやつ等マテリアルズに勝てるのであろうか・・・」

和人「怖い事言っな!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2004u/>

とある魔法の介入物語

2012年1月14日17時45分発行